

A photograph of a traditional thatched-roof hut, likely a traditional Balian house, situated in a lush tropical environment. The hut features a steep, conical roof made of dried palm fronds and is supported by bamboo poles. The surrounding area is filled with vibrant green foliage, including large tropical leaves and colorful flowers. The sky is clear and blue. The text is overlaid on a semi-transparent white box in the upper center of the image.

SDGsのその先を思い描く
バリ島スタディーツアー 2022

2022年度スタディーツアー
参加学生一同

2022 年度 SDGsスタディツアー報告書

「SDGsのその先を思い描くバリ島スタディツアー」

2022 年 9 月 8 日～9 月 15 日

2022 年度スタディツアー参加学生一同

はしがき

神よ、
変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、
識別する知恵を与えたまえ。

ラインホルド・ニーバー（大木英夫 訳）

9月8日 22:00に羽田空港に集まった若者たちはどことなく不安げで、どちらかという
と、期待を不安が凌駕していた学生が少なくないように思われました。

それもそのはず、3年間もの間、青春の特権とも言える海外での挑戦の大半をコロ
ナ禍で奪われたのですから、若者たちが臆病気味になってしまうのも当然のことだっ
たのかもしれませんが。

そんな彼女たちにとってバリ島での滞在は3年分の笑いと涙と勇気を取り戻したよ
うな1週間であったといえます。滞在中、生活と学びの拠点となった「マナ・アース
リー・パラダイス」という、文字どおり、楽園のような環境に身を置いた学生たちの
心身はほぐされ、徐々に仲間と語りはじめ、数日後には心の底から笑うようになり、
ツアー後半には浄化の涙を流していました。世界を席卷するパンデミックやら気候危
機やら、不安が尽きない現代社会ですが、そんな時代でもたくましく生きていくため
の大らかな感性としなやかな身体性を日に日に回復していったのだと思います。

近ごろ、SDGs（持続可能な開発目標）を達成するためには、持続可能な未来に向
けて自己変容と社会変容を遂げることの必要性が主張されるようになりましたが、日
常の忙しさの中では自己変容などはままならないのが現実です。ところが、今回のツ
アーでは、連日、自らの変容を通して周囲も変えている大人との出会いが、学生たち
を深い次元での変容へといざないました。その詳細については、本報告書に記載の感
想文やアンケートの結果などをご覧ください。

バリ島に滞在中、学生たちは毎日、その日のプログラムの最後にふり返りの会に参
加し、その日に感じたことや考えたことを仲間達と分かち合いました。冒頭のR. ニー

バーの言葉は、最後のふり返りの会で共有された言葉ですが、現地の方々のおかげで多くの学生たちにとって「変えることのできるもの」の数は増え、「変えられるだけの勇気」も授けられての帰国だったのではないのでしょうか。通例は、スタディツアーで多くの気づきを得たとしても、帰国後は都会の生活にすぐに慣れ親しんで、元の生活様式に戻ってしまうのは早いというスタディツアーへの批判がありますが、今回の学生達の多くは帰国後も家族やアルバイト先など、周囲にサステナビリティの輪を広げていることがその証左であると言えます（本報告書の「一人ひとりの自己変容」を参照）。

繰り返しとなりますが、学生たちを深い次元で変容させてくれたのは、現地で「できない」を理由にしない生き方を貫いてきたアースカンパニーのスタッフをはじめ、現地の方々でした。特に、今回の構想段階からお世話になり、現地でコーディネート役をお務めいただいたアースカンパニー共同代表の濱川明日香さんと濱川知宏さん、そして全ての学生の学びと暮らしをケアして下さったアースカンパニーの藤本亜子さんとヌールさん、ゲストスピーカーとしてライフストーリーの語りを通して学生達をエンパワーして下さったロビン・リムさん、サリ・ポレンさん、石踊千夏さん、望月小百合さん、プラントアルケミスト・ゆきさん、會田貴美子さん、ご自宅へのツアーを企画して下さったアースカンパニー職員のエパさん、このツアーの実現にご理解をいただいた COVID-19 対策本部会議はじめ、聖心女子大学の教職員の皆様にご場を借りて心よりお礼をお伝えいたします。

2022 年度「SDGs のその先を思い描くスタディツアー」世話人
聖心女子大学 現代教養学部・教授

永田佳之

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| はしがき | 1 |
| 目次..... | 3 |
| 1. スタディツアー参加者 | 5 |
| 2. インドネシア共和国の基本情報..... | 6 |
| 【コラム①】 Manaのご飯・お菓子 | 7 |
| 3. 旅程（スケジュール） | 9 |
| 【コラム②】 田んぼメディテーションウォーク | 11 |
| 4. ツアーの目的とバリ島の現状やその課題..... | 12 |
| 【コラム③】 トリヒタカラナ・お祈り | 13 |
| 5. ゲストスピーカーの紹介..... | 15 |
| 【コラム④】 ヌールさん..... | 21 |
| 【コラム⑤】 バリ舞踊 | 23 |
| 6. 訪問した施設について | 25 |
| 6-1 Mana Earthly Paradise | 26 |
| 6-2 PKP | 27 |
| 6-3 ブミ・セハット | 28 |
| 【コラム⑥】 バリ島のゴミ問題 | 30 |

| | |
|--|-----|
| 6-4 ルマ・コンポス | 31 |
| 【コラム⑦】 エパさんの家..... | 32 |
| 7. 訪問した学校について | 33 |
| 7-1 Green School..... | 34 |
| 7-2 タルワラ小学校 | 35 |
| 7-3 ウダヤナ大学..... | 36 |
| 【コラム⑧】 Be-Do-Have の生き方..... | 37 |
| 8. 一人ひとりの自己変容 | 39 |
| 【コラム⑨】 ウブド観光..... | 46 |
| 9. 私たちのプロジェクト | 49 |
| 9-1 教育をもう一度考える～“My Planet, Myself!”の翻訳から～..... | 50 |
| 9-2 Ethical Music..... | 61 |
| 【コラム⑩】 スキンケア..... | 63 |
| 10. My Tree・感想 | 64 |
| 【コラム⑪】 現地で驚いたこと..... | 156 |
| 11. アンケート | 159 |
| むすびにかえて | 169 |

1. スタディツアー参加者一覧

【学生】

1年生

泉稚菜 China Izumi 基礎課程
岩谷舞衣 Mai Iwatani 基礎課程
服部美海 Mimi Hattori 基礎課程

2年生

荒谷菜津美 Natsumi Araya 教育学科教育学専攻
漆澤有香 Yuka Urushizawa 教育学科教育学専攻
近藤亜紀 Aki Kondo 教育学科教育学専攻
坂東優 Yu Bando 教育学科教育学専攻
平野星来 Sera Hirano 教育学科教育学専攻
藤原加奈子 Kanako Fujiwara 英語文化コミュニケーション学科
堀江ひびな Hibina Horie 教育学科教育学専攻
和田亜珠奈 Amina Wada 教育学科教育学専攻

3年生

畔柳美祐 Miyu Azeyanagi 教育学科教育学専攻
板橋玲奈 Reina Itabashi 国際交流学科グローバル社会コース
江頭佳奈 Kana Egashira 国際交流学科異文化コミュニケーションコース
金子愛美 Manami Kaneko 教育学科初等教育学専攻
佐々木綺音 Ayane Sasaki 教育学科教育学専攻
田畑つむぎ Tsumugi Tabata 国際交流学科異文化コミュニケーションコース
谷口卯奈 Una Taniguchi 教育学科初等教育学専攻
塚田紗來 Sara Tsukada 教育学科教育学専攻
南木美咲 Misaki Nanmoku 国際交流学科グローバル社会コース
保泉日向子 Hinako Hoizumi 国際交流学科グローバル社会コース
三浦さくら Sakura Miura 教育学科教育学専攻
山中悠夢 Yuyu Yamanaka 教育学科初等教育学専攻

【教員】

永田佳之 Yoshiyuki Nagata 聖心女子大学現代教養学部教育学科教授
奥切恵 Megumi Okugiri 聖心女子大学現代教養学部国際交流学科教授

2. インドネシア共和国の基本情報

正式名称：インドネシア共和国

首都：ジャカルタ

面積：約 192 万平方キロメートル(日本の約 5 倍)

人口：約 2.70 億人(2020 年インドネシア政府統計)



民族：約 300(ジャワ人、スンダ人、マドゥーラ人等マレー系、パプア人等メラネシア系、中華系、アラブ系、インド系等)

言語：インドネシア語・バリ語 他

宗教：イスラム教 86.69%・キリスト教 10.72%・ヒンズー教 1.74%・仏教 0.77%・儒教 0.03% 他

元首：ジョコ・ウィドド大統領

政体：大統領制、共和制

主要産業：製造業・不動産、教育、ホテル、飲食・農林水産業

参考文献：外務省ホームページ「インドネシア基本データ」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/data.html#section1>

(2022 年 11 月 25 日参照)

【コラム①】 Manaのご飯・お菓子

【Manaのご飯】

私達が宿泊した Mana earthly paradise には Mana kitchen というご飯を食べる場所があり、そこで朝・昼・夜ご飯を食べていました。(移動先で食事をすることもありましたが) Mana kitchen で使われている食材は Mana にあるパーマカルチャーガーデン(持続可能な農業ができる畑)で収穫された野菜など、オーガニックなものです。また、日本料理で使われる甘酒や麴をインドネシア料理と融合させたメニューも食べることができます。さらに、牛肉は生産過程で環境に負荷がかかると考えられているため、Mana kitchen では牛肉を使用した料理ではなく、鶏肉や豚肉が提供されています。

朝食は、前日に食べたいものを選んでおき、その選んだものを朝食するという方式でした。約一週間の滞在でしたが毎日違う朝食メニューを選ぶとほぼ全種類制覇することができました。この右の写真は朝食だった”Banana vegan pancake”という、日本で食べるパンケーキとは少し見た目が違うパンケーキです。かなり一枚一枚が分厚いですが、ちゃんとバナナの味がして美味しく、お腹いっぱいになりました。



次の二枚の写真は夜ご飯です。(お昼と夜はビュッフェ形式でした。)左の写真はココナッツをそのまま割ったジュースです。市販のココナッツジュースとは違いかなりさっぱりしていて、果物本来の甘みを感じることができました。ココナッツジュースの隣にあるのは、ココナッツケーキです。右の写真はビュッフェ形式で取ったご飯と

Charcoal Lemonade です。毎回の夜ご飯で違うドリンクを飲むことができましたが、個人的に一番美味しかったドリンクでした。見た目は黒いですが飲むと程良い甘さのレモネードでとても美味しかったです。ビュッフェのご飯の中にはかなり辛いものもあり、インドネシア料理らしさを感じることができました。



【チーム名のお菓子】

スタディツアーの中で私達はクロポン、ラクラック、ラピス、アップムという四つのグループに分かれ、これらはインドネシアのお菓子の名前が由来として付けられました。私達のグループ名がインドネシアのお菓子だと知ってくださった Mana の方が昼食のデザートにそのお菓子を作ってくださいました。

写真上のオレンジ色のお菓子がアップム。アップムの下にある緑と白の層になっているものがラピス。ラピスの右にあるココナッツがまぶされているものがクロポン。写真下のいくつか空洞があるものがラクラックです。どれも甘みが特徴的で美味しかったです。



これら四つのお菓子以外にもインドネシアでは甘いお菓子が多くあると感じました。スタディツアー中に様々なところへ訪問しましたが、甘い食べ物でおもてなしをしてくださったことが何度かあり、日本とは違うおもてなし文化を体感しました。

3. 旅程（スケジュール）

2022.09.08~0915

| | |
|----|--|
| 日時 | Day 1:9/8 (木) 16:00-19:00 |
| 概要 | バリ島入国 & ウェルカム・ディナー |
| 詳細 | 1. バリ島入国 (9/8 12:05到着) 2. 空港からマナホテルへ移動 3. ホテルチェックイン 4. ホテル内ご案内 5. ウェルカム・ディナー |
| 食事 | 朝・昼: 空港/機内、夜: マナホテル |
| 宿 | マナホテル(8名 Arya hotel宿泊) |
| 他 | 空港出迎え送迎(日本語可) 両替のアナウンス |

| | |
|----|--|
| 日時 | Day 2:9/9 (金) 9:00- 16:00 |
| 概要 | バリ島文化を感じる & 明日香・知宏ライフストーリー |
| 詳細 | 1. 田んぼメディテーション・ウォーク 2. 始まりのセレモニー 3. バリ人宅訪問(文化/家族/食/ビジネス) 4. バリ舞踊レッスン -----午後----- 5. 濱川明日香・知宏 Life story 6. アースカンパニー紹介 7. マナホテルの循環施策紹介 8. 振り返り |
| 食事 | 朝・昼・夜: マナ |

| | |
|----|---|
| 日時 | Day 3:9/10 (土) 9:00-18:00 |
| 概要 | 人々をエンパワーするサリ & 命を救うロビンのライフストーリー |
| 詳細 | 1. 助けが必要な女性や子供の支援をする「PKP」創設者 サリのストーリー -----午後----- 2. 365日無償で医療提供する「プミ・セハット国際助産院」創設者 ロビンのストーリー 3. 振り返り |
| 食事 | 朝: マナ 昼: PKP 夜: ワルン(食堂) |

| | |
|----|---|
| 日時 | Day 4:9/11 (日) 9:00-15:00 |
| 概要 | グリーンスクール訪問 & コンポストセンター訪問 |
| 詳細 | 1. グリーンスクール(GS)ツアー参加 2. GS 元マーケティング職員と 現役保護者とQ&A -----午後----- 3. バリ島のごみ問題について 4. ルマ・コンボス(コンポスト)訪問&有機ごみの解決策を学ぶ 5. ウブド散策(自由時間、夕食各自) 6. 振り返り |
| 食事 | 朝・昼: マナ 夜: 自由 |

| | |
|----|---|
| 日時 | Day 5: 9/12 (月) 7:00-16:00 |
| 概要 | フリースクール設立 千夏さんライフストーリー & ウダヤナ大学ツアー |
| 詳細 | 1. サヌールビーチウォーク&朝食 2. タルワラ小学校訪問& 千夏さんライフストーリー -----午後----- 3. ウダヤナ大学訪問 4. PCRテスト(各自支払い・2,500円程度) 5. 振り返り |
| 食事 | 朝:ビーチ 昼:カフェ 夜:マナ |

| | |
|----|--|
| 日時 | Day 6: 9/13 (火) 9:00- 15:00 |
| 概要 | ナチュラルワークショップ & 元小学校教諭さゆりさん ライフストーリー |
| 詳細 | 1. ナチュラルスキンケア ワークショップ -----午後----- 2. 元小学校教諭・望月さゆりさんライフストーリー 3. 振り返り 4. 内省の時間(自由時間、夕食各自) |
| 食事 | 朝・昼: マナ 夜: 自由 |

| | |
|----|--|
| 日時 | Day 7: 9/14 (水) 9:00-18:00 |
| 概要 | 共有の日 & 祝福の時間 |
| 詳細 | 1. 未来を描く 2. 最後の振り返り -----午後----- 3. 祝福の時間(ジャティルウィ世界遺産) 4. お土産お買い物 5. 帰国準備 |
| 食事 | 朝:マナ 昼:マナ 夜:マナ |

画像：Earth Company 「SDGs の
その先を思い描くスタディーツア
ー 旅のしおり」より

【コラム②】 田んぼメディテーションウォーク

みなさんは普段の生活の中で自分と対話する時間、自分を Take Care する時間を作ることができているでしょうか。自然に溢れたバリ島での田んぼメディテーションウォークの時間は私たちに自分と対話する大切さ、自然を愛する気持ちを気づかせてくれました。



あこさんのご提案で私たちは携帯を置いて田んぼのメディテーションウォークを行いました。いつもなら携帯を見ていて気づかない鳥の鳴き声や風が肌を撫でる感覚、木々の揺れる音、大地の香り、空の青さを鮮明に感じることでいつも以上に五感が刺激されました。何も考えることなくただ気持ちの赴くままに止まったり歩いたり座ったりすることで心の中から余計なものが消え、日常生活で埋まってしまっている「大切なもの」が見えました。そのひとつが自然を愛する気持ちでした。自然に包まれているとパワーがみなぎりながらも穏やかになっていく感覚がありました。自然を愛し自然に愛されることを忘れず生きていきたいです。

4. ツアーの目的とバリ島の現状やその課題

私たちは、SDGs のその先、つまり 2030 年の後の世界を思い描くという目的を持ち、今回のスタディツアーに参加してきました。

バリ島は、美しい自然と文化が融合する癒しの島であるといった魅力から、世界的なリゾートエリアが点在しており、今なお開発が進められています。海やジャングルなどの豊かな自然、スパイスの効いたインドネシア料理、マリンスポーツの体験など、経済成長と共に華々しい産業が溢れていることから観光地という印象が強いのと思います。バリ島の収入源の約 80%は観光産業から成り立っており、島の人々の生活を支えています。しかし、観光産業の影響により様々な問題が浮かび上がっています。

まず、水不足問題についてです。バリ島にある水の 65%は観光産業が使用しています。バリ人は一日に一人当たり 180L の水を消費しているのに対し、観光客はその約 14 倍に当たる 2500L の水を消費しています。さらに、気候変動により雨量が減少し、伝統的な米作りが困難となっています。そのため、土地を売却し外国人用のヴィラを建設したり、水を消費しにくい作物であるとうもろこし畑に移行したりするなど対策がなされています。しかし、とうもろこしは収穫のサイクルが早いことから価値が低く、米の収穫よりも収入が少ないことが現状です。

次に、ゴミ問題についてです。バリ人は一日に一人当たり 0.7kg のごみを消費しているのに対し、観光客はその約 5.3 倍に当たる 3.7kg のごみを消費しています。インドネシアは、リサイクルシステムが整備されておらず、バリ島のごみの約半分は、海や川に不法投棄されていたり、焼却されていたりします。バリ島南部にあるごみの最大埋立地である Suwung では、海岸に建物 5 階分に当たる 33ha のごみ山があり、その側で 100~150 人もの人々がごみの分別をしながら生計を立て暮らしています。周囲は悪臭が漂い、深刻な健康被害が生じています。また、インドネシアはプラスチック排出量世界 2 位とされており、観光産業の影響によるバリ島の影の部分が増えています。

ここまで、主に水とゴミ問題について取り上げてきましたが、バリ島に潜む問題はこれだけではありません。バリ島にも観光産業の恩恵を受けて光り輝く面と陽の当たらない影の部分があることを人々に知っていただきたいと思っております。豊かな暮らしの背景には、どこかに必ず影響が起きていて、人々が犠牲になっています。私たちが今できることとして、これらの問題に対して「やらなきゃ」ではなく、些細なことでも「やりたい」「取り組みたい」という思いが最も重要なのではないかと考えます。この頁で綴った私たちの思いから、きっかけとして捉え行動を実行していく人が増えたら、と願っております。

【コラム③】 トリヒタカラナ・お祈り

バリ島は島民の大半が、バリ・ヒンドゥーというバリ島独特な宗教を信仰し、その宗教が生活、文化、習慣の基礎となっています。その中で、特に基盤となっているのが「トリヒタカラナ」です。これは「トリ=3」、「ヒタ=安全・繁栄・喜び」、「カラナ=理由」という意味を持っています。バリ島に伝わる「幸福な生活に必要な三つの要素」パラハンガン(人間と神)、パウオンガン(人間同士)、パルマハン(人間と自然)それぞれの調和によって幸せや喜びを感じることができるというバリ・ヒンドゥー教の思想を表しています。また、私達も体験させて頂いたバリ・ヒンドゥーでとても大切にされているお祈り。これを「スンバヤン」といいます。このお祈りには心の美しさを表す花、聖水、お線香、神からの恵みを表すお米が使用されます。そして、バナナやココナッツの葉で作られたチャナンという入れ物に上下天地を決める色とりどりの花とパンダンの葉を刻んだものなどが入っています。このお供え物は家のお寺はもちろんのこと、色々な物に神が宿ると考えるバリ・ヒンドゥーでは、至る所でチャナンを見かけることができました。バリ島に居て常にバリ・ヒンドゥーを大切にしている事を感じました。街中での笑顔で挨拶してくれる人々、お祈りを最低でも1日1回行う、自然の葉を違った形で再利用するなどバリの人々が循環を大切にしていることを実感しました。この循環を大切にしているからこそバリの方々はとても温かいのだと思います。この事を肌で感じる事ができ日本でも大切にしていきたいと思います。



写真) マナでスンバヤン



写真) チャナン

5. ゲストスピーカーの紹介

濱川 明日香 (Aska さん)

濱川 知宏 (Tomo さん)

藤本 亜子 (あこさん)

會田 貴美子 (きみさん)

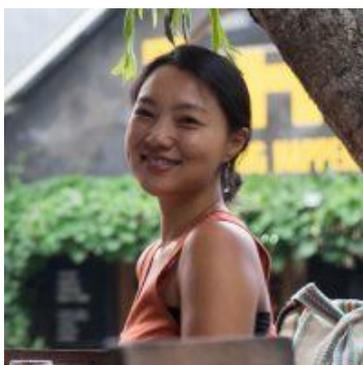
Sari Pollen (Ibu Sari)

Robin Lim (Ibu Robin)

石踊 千夏 (千夏さん)

望月 小百合 (さゆりさん)

Plant Alchemist Yuki (ゆきさん)



出典) Earth Company HP「チーム紹介」
[Our Team | 一般社団法人 Earth Company](#)

濱川 明日香 (Aska さん)

Earth Company 共同創設者、共同代表。

ボストン大学卒業後、プライスウォーターハウスクーパーズに勤務。ハワイ大学大学院にて太平洋島嶼国における気候変動研究で修士号取得。

未来に「変革」を起こす彼らの後方支援することで、私たちの子どもたち、そしてそのさらに先の世代に残せる豊かな未来を創造すること、を目的に 2014 年一般社団法人

Earth Company 設立。



出典) Earth Company HP「チーム紹介」
[Our Team | 一般社団法人 Earth Company](#)

濱川 知宏 (Tomo さん)

Earth Company 共同創設者、共同代表。

ハーバード大学卒業後、NGO スタッフとしてチベット高原で働き、後ハーバード大学ケネディ行政大学院で修士号取得。

2014 年に妻の明日香さんと共に Earth Company 創設。



出典) Earth Company HP「チーム紹介」
[Our Team | 一般社団法人 Earth Company](#)

藤本 亜子 (あこさん)

Earth Company インパクトアカデミー・マネージャー。
専門は系統進化学、生物多様性保全、環境教育 (ESD)。
2019 年から Earth Company に勤務。
IMPACT ACADEMY 担当。大学教員を経て、持続可能な開発のための教育を専門に、多様な世代へ向けた学びあう場づくりに一貫して関わる。



會田 貴美子 (きみさん)

二児の母。
小林聖心女子学院高等学校を卒業後、大阪大学で物理学の宇宙地球学を専攻。
大学院を中退後、リクルート社に入社し、広告×不動産業界で 12 年間勤務。
2019 年にバリ島に移住し、Green School の一保護者でもある。



出典) PKP Community Centre HP “Ibu Sari’s Story”

[Ibu Sari's Story - PKP Community Centre](#)

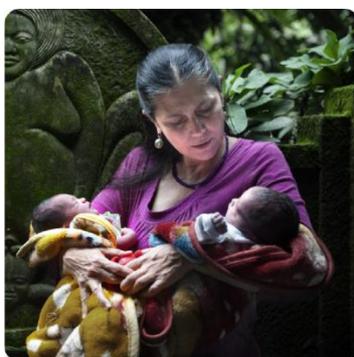
Sari Pollen (Ibu Sari)

PKP Community Centre の創設者。

彼女自身の暴力被害や愛娘と 12 年間会うことが許されなかった経験を通して、脆弱な女性と子どもを助けることに自身の人生を捧げている。

暴力の状況が被害としてみなされていないバリでは、女性にとって非常に生きづらい状況が作り出されており、コミュニティに戻りづらく、また、戻った後に生活を取り戻すのが難しい。

彼女はそういった状況に置かれた女性や子どもを救う活動をしている。



出典) Earth Company HP 「インパクト・ヒーロー」

[IMPACT HERO 2016 ロビン・リム | 一般社団法人 Earth Company](#)

Robin Lim (Ibu Robin)

一般医療、代替医療、教育、環境プログラム、コミュニティ開発を手がける。社会的弱者の「駆け込み寺」となり、全額寄附で成り立つ奇跡の国際助産院ブミセハットを設立。

見返りを求めない「無償の愛」で多くの人々を救う。

2016 年に Earth Company からインパクト・ヒーローに選ばれる。



出典) SIKI HP 「代表者挨拶」
[代表者挨拶 | Siki Japan \(siki-bali.com\)](http://siki-bali.com)

石踊 千夏 (千夏さん)

1997年、大学卒業1か月後に森林保護活動を目的にインドネシア、スマトラ島に渡る。

しかし森に出会えず、日本語教師として様々な教育機関をさまよう。

2000年にバリ島に移住し2004年に日本語学校を設立。数年間バリ島のごみ問題、貧困問題に関わるボランティア活動に力を注ぐ。

2013年、長男の出産を機に託児所を開設。

現在はオランダのイエナプラン教育を取り入れた学校作りに奮闘中。



望月 小百合 (さゆりさん)

二児の母。

修士号取得後、10年間大阪の小学校教諭として勤務。

インドネシア、ジャカルタの日本人学校で、3年間日本語教諭として勤務。

2019年にバリ島に移住。



出典) 自然食工房 めぐみ HP

[Plant Alchemist Yuki | 【公式】めぐみの杜ホームページ\(旧自然食工房\)](#)
[\(\[megumi2352.com\]\(http://megumi2352.com\)\)](http://megumi2352.com)

Plant Alchemist Yuki (ゆきさん)

ローフード・スキんフードシェフ。

山口県出身。バリ島在住。

幼少時より坐禅や精進料理を学び育つ。社会人経験を経て、スローライフ実現に向けてタイに移住。ヨガや瞑想、エネルギーヒーリング、ハーブ療法、ローフード栄養学を学び、ロースイーツやナチュラルコスメの製作を開始。

2018年にバリに拠点を移し、心地よい私たちの在り方をローフードやスキんケアクラスを通じて世界中の人とシェアしている。

参考文献

- ・ Earth Company ホームページ <<https://www.earthcompany.info/ja/>>
- ・ PKP Community Centre ホームページ <[Ibu Sari's Story - PKP Community Centre](#)>
- ・ SIKI ホームページ <[代表者挨拶 | Siki Japan \(siki-bali.com\)](#)>
- ・ Plant based sweets & cosmetics ホームページ <[Home | Plant based sweets & cosmetics \(plantalchemistyuki.wixsite.com\)](#)>

【コラム④】ヌールさん

ヌールさんは、私たちの旅を支えてくださった大切な方です。全てのプログラムに付き添いをしてくださいました。現地の方との通訳をしてくれたり、困ったときに助けてくれたりしました。ヌールさんがいなければ、学びを深めることはできませんでした。

〈ヌールさんとの思い出〉

- ・街中の散策時にルートを確認し、美味しいお店やおすすめの場所を教えてくれた。
- ・日本にハガキを送るとき、一緒に方法を考えてくれた。
- ・PKP 内にある植物について紹介してくれ、香りや味を試す機会をたくさんくれた。
- ・みんなが脱いだ靴を揃え、急な雨に濡れないように靴を移動してくれた。
- ・移動時に雨が降ったときに傘を持ってきてくれた。
- ・虫刺されや体調が悪いことについて話を聞いてくれた。

写真撮影のときには、「私はいいから」と一緒に写らずにみんなの写真を撮ってくれました。とても謙虚な方で、陰ながら私たちを支えてくださいました。本当にありがとうございました。ヌールさんと一緒に旅をすることができ、素敵な思い出となりました。



ヌールさんが並べてくださった靴



素敵な笑顔のヌールさん

〈ヌールさんとの写真〉



【コラム⑤】バリ舞踊

バリ舞踊とはインドネシアのバリ・ヒンドゥー教の儀式や冠婚葬祭の際に演じられる舞踊の事です。バリ舞踊は1日目のウェルカムディナーで子供たち4人が踊ってくれました。



左から Komang Suryanti、Komang Mika、Kadek Ela、Ketut Meira です。子供たちもバリ舞踊を踊れるように、バリの女性にはバリ舞踊を学ぶ文化があります。彼女達のダンスは大人の女性顔負けの素敵な踊りでした。表情やひとつひとつの動きが素晴らしい、心を奪われてしまうような素敵な空間でした。



バリ舞踊を教えてくださいましたのはエルダさんとアマダさんです。「サロン」という衣装を着てバリ舞踊の体験をしました。お皿に入ったお花を舞わせる動きや、ペアになって踊るシーンもあります。

6. 訪問した施設について

6-1 Mana Earthly Paradise

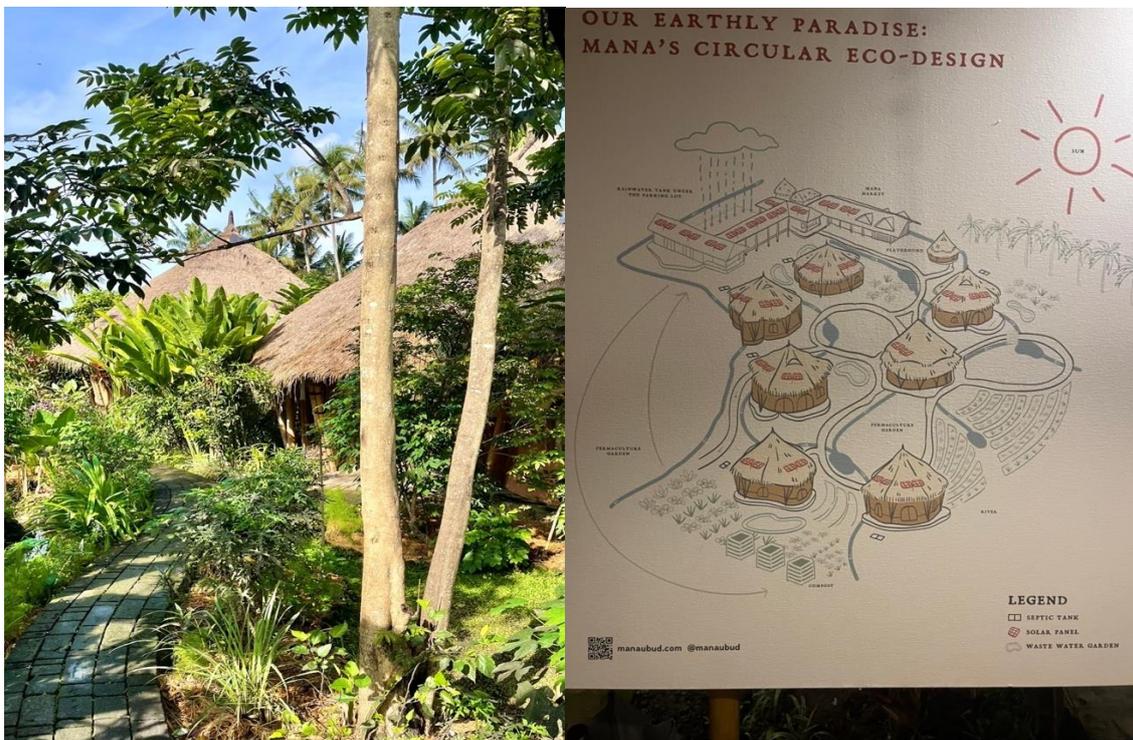
6-2 PKP

6-3 ブミ・セハット

6-4 ルマ・コンポス

6-1 Mana Earthly Paradise

インドネシア・バリ島のウブドにあるホテル「Mana Earthly Paradise」は、「次の世代に継げる未来をつくる」という Earth Company のビジョンのもとに建てられたエコホテルです。バリ島は観光産業で成り立つ一方、ゴミ問題や水不足問題が深刻化しています。バリ島の未来のために考えてこのホテルは生まれました。施設内の照明は太陽光発電で、水は雨水を貯水し濾過して循環させています。また、施設建設に使用する建材は全てリサイクル廃材であり、新しい木を一本も切らずに建てた施設など、ありとあらゆるエコテクノロジーが導入されています。次世代の子どもたちにつなぐ未来を創れるような、人と社会と自然が共鳴しながら発展するリジェネラティブなあり方を追求するために、Earth Company は事業を展開しています。



6-2 PKP

PKP は訪れる人すべてを受け入れるコミュニティーセンターです。このセンターでは女性や難民、ハンディキャップがある人などの職業訓練や学習支援を行っています。また、PKP のジャングルで採れた食材を使った食事を無償で提供しています。創設者のイブ・サリという女性の考えに、誰でも尊重されるべきという考えがあり、訪れる人はセンターのアドバイスを必ず聞かなければならないということはありません。また、センターの学びで出来る仕事よりも高度な仕事ができそうな人には彼らのポテンシャルと素質を尊重して、他のセンターやコミュニティを紹介することもあるそうです。



彼女は女性の立場がまだ弱い地域で離婚を経験し、娘とも会うことが叶わないという非常に辛い生活を経験しました。それでもなお、このような生き生きとした笑顔を見せている理由は、彼女の自律した考えにあります。彼女は共同、思いやり、調和、信頼、愛という5つの要素を重要視することと、問題が解決できないときは一度離れて外から物事を見るようにすることで自身を解放しているのだそうです。彼女の言葉はシンプルで分かりやすく、温かい笑顔と振る舞いでみんなを癒しています。



6-3 ブミ・セハット国際助産院

ブミ・セハットは、インドネシアとフィリピンを拠点に、助産を中心としたプログラムを展開する非営利団体です。私たちはウブドの助産院を訪問し、創始者であるロビン・リムから直接お話を伺いました。

途上国と呼ばれる国々では、日常的に妊娠・出産を原因に女性が亡くなっていますが、その9割が助かる命とされています。特にバリ島のあるインドネシアは貧困による栄養失調や劣悪な出産環境などの理由から、妊産婦の死亡率がアジアで最悪の水準だったそうです。そのような適切な医療が受けられない妊産婦と赤ちゃんを救うために、ブミ・セハット国際助産院では、妊婦は365日24時間、国籍を問わず誰でも無償で産科医療を受けることができます。そこでは、お母さんの産む力と赤ちゃんの生まれる力を最大限に尊重する「ジェントルバース（優しいお産）」が実践されています。加えて、妊産婦以外にも、眼科検診やコミュニティプログラムなどのサポートを「ゆりかごから墓場まで」無償で受けることができます。

創始者のロビン・リムは妹が出産中に子どもと亡くなったことをきっかけに助産師を志し、2005年にブミ・セハット助産院を開業しました。2011年には「CNN Hero of the Year」を受賞し、2015年にフィリピンで最も荣誉ある「Bayanihan Peace-builders Award」を大統領から受賞しました。これまで1万人の赤ちゃんを取り上げ、「イブ・ロビン（マザー・ロビン）」として国境を越えて慕われています。



ブミ・セハットのシンボルマークです。日本では目にしないほど大胆なマークでみんな少し驚いている様子でしたが、それが日本と海外の性に対する考え方の違いだと教えていただき、納得しました。

ブミ・セハットに勤務する助産師さんに案内していただき、施設内を見学させていただきました。



「愛のために生きないなら、何のために生きるのでしょうか」というロビンの教えのもと、隣に座った人と目を見て「愛してる」を言い合う時間があり、その時間がそれぞれの心にとっても印象に残っています。

【コラム⑥】バリ島のゴミ問題

世界的なリゾート観光地として有名なバリ島ですが、リゾート地という美しい表の顔とは真逆、ゴミ問題という裏の顔を抱えています。代表的なのがスウォンです。バリ島のゴミは約5割が、私たちが訪れたルマ・コンポスに運ばれますが、残りの3割ほどはスウォンに運ばれてきます。今回のスタディツアーではコロナウイルス感染拡大防止の観点からその場に行き目に行くことはできませんでした。しかしながら、近づいただけできつい匂いが漂ってくるというスウォンは写真を通して見るだけでも強烈なインパクトを私たちに植え付けました。

バリ島を訪れる観光客はバリ人の約5倍ものゴミを排出しています。スウォンにはそのようなゴミが集まってきて、そのゴミを拾うことで生計を立てている人もいます。スウォンに住む人々の多くはバリ島外から出稼ぎに来た人々です。そのゴミ山はそこに住む人々によって集落となりスラム街になっています。

ここへきたゴミはまず牛によりオーガニックとノンオーガニックに分けられます。牛はオーガニックゴミを食べてくれるため、人間は残りのノンオーガニックを拾えばいいということになります。牛が生ゴミを食べることにより匂い消しにもなるそうです。しかしながらこの牛さんたち、噂によると市場で低価格で売られているそう。リゾート地の闇の部分をはっきりと感じたお話でした。何よりも重要なことは、このゴミ問題が、環境に加えてバリ島の人々の生活にも影響を及ぼしているということです。



←街中の様子からもゴミの始末が悪いことがわかる
また、街中にも塵山があり牛がゴミを食べていた

6-4 ルマ・コンポスト



ルマ・コンポストは、バリのウブドにあるコンポストセンターです。675世帯、265企業からゴミを回収していて、約5割をここで処理しています。村ではゴミをオーガニックとノンオーガニックに分別していて、それをコンポストの従業員が回収し、オーガニックのゴミがセンターに届きます。オーガニックのゴミは、枝や葉、キッチンから出るゴミ、お供物などです。プラスチックは2日に1回収され、リサイクルできるものとできないもの、人の手によって分別され、ジャワ島にあるリサイクル施設に送られます。

センターに届いた生ゴミはシュレッドされ、細かくしてから箱に入れられます。その後、生ゴミの分解を助ける微生物と砂糖の入った液体がかけられ、微生物によってさらに細かく分解していきます。完成したコンポストは粗いコンポストと細かいコンポストに分けられ、売られていきます。



きつい匂いはしなく、
コーヒーや甘酒の匂いに
似ているという人も。



【コラム⑦】エパさんの家

マナで働くエパさんのご自宅に訪問し、バリ島の人々の生活を体感しました。ご家族の皆様を迎え入れていただき、バリ島の人々の温かさにも触れました。バリ島では複数の家を一つの敷地内に建て、親戚一同で暮らすことが多いです。エパさんの家族には、染め物をしている方がいました。熱いロウを使い、色鮮やかで美しい布を作っていました。洗練された技術を目の当たりにして、釘付けになりました。エパさんのご両親はお菓子屋さんを担っています。バイクでたくさんのお客さんがいらしていました。バリならではのお菓子やごはんをいただき、私たちはお腹いっぱいになりました。一家に小さなお寺があるのもバリ島の暮らしの特徴です。お寺は塀で囲われています。ご先祖を大切にし、お祈りをすることができます。



【エパさんの両親のお店】



【エパさんの家族作成の染め物】

7. 訪問した学校について

7-1 Green School

7-2 タルワラ小学校

7-3 ウダヤナ大学

7-1 Green School

まるでジャングルの中にいるかのような、豊かな自然に囲まれているグリーンスクールは世界中から学生が集まるサステイナブルな学校です。「学校」と聞くと、仕切られた教室の中で椅子に座って静かに授業を受けるというイメージを持つ人が多いと思います。ですが、グリーンスクールは普通の学校とは180度違う最先端の学校です。グリーンスクールの建物は竹や材木できていて、壁や扉がありません。それは、照明を使わないようにするための工夫の一つで、自然のエネルギーを活かして子どもたちは生活しています。また、飲み水や食べ物などは自給しており、トイレは地球に優しいコンポストトイレを取り入れています。コンポストトイレというのは、微生物の力で排泄物を肥料に変えるトイレです。分解した排泄物を堆肥として畑に還して再利用していく、環境に配慮されたトイレを子どもたちは使っています。グリーンスクールではその畑でとれた野菜を学校のランチで食べるので、子ども達は循環していくシステムを自然と身につけています。電気や食べ物、水の大切さを感じながら自然と共に生きているグリーンスクールの子どもたち、きっとこの子どもたちは新しい未来をつくり出す第一歩になってくれると思います。希望に満ち溢れたこのような学校が世界中に広がってほしいです。

電気も水も使わない環境に
優しいコンポストトイレ



壁も扉も無い、竹でできた教室、
この開放感のある教室で子ども
たちは伸び伸びと学習している。

7-2 タルワラ小学校

敷地内に広がるさまざまな植物やツリーハウス、子どもたちがのびのびと学ぶことのできる開放的な校舎がとても印象的です。タルワラ小学校では、全ての授業において子どもたちが主体となる、プロジェクトベースの教育を実践しています。そこでは、子どもたちが自然と学びに対する意欲をもち、探求活動を通して問題解決をすることができることを目指しています。また、カリキュラムの中には環境教育（Green Class）が設けられており、環境に優しくサステイナブルな校舎の中で、子どもたちは持続可能な未来の実現のために、学びを深めていました。

参考文献)

Taruwara Primary School ホームページ
<https://rumahkecil.net/en/primaryschool>



算数の授業の様子



タルワラとは、サンスクリット語で「良い木」という意味

7-3 ウダヤナ大学

バリのデンパサールに所在するウダヤナ大学は、1962年に設立された、歴史ある国立大学です。私たちは実際に大学を訪問し、キャンパスを見学させていただきました。

「ウダヤナ」の名前は10世紀バリのウダヤナ王から取っています。「優れた自立した文化志向の大学」をビジョンに掲げており、インドネシア共和国教育省が発行した“Promising Universities of Indonesia”（インドネシアの有望な大学）のひとつに指定されています。大学には13の学部、25の修士課程、10の博士課程があり、学生たちがそれぞれ、興味をもった分野での学びを深めることができる環境が整えられています。留学生の受け入れも積極的に行っており、現在世界中のさまざまな地域から約1,500人の留学生が、ウダヤナ大学で日々勉学に励んでいます。

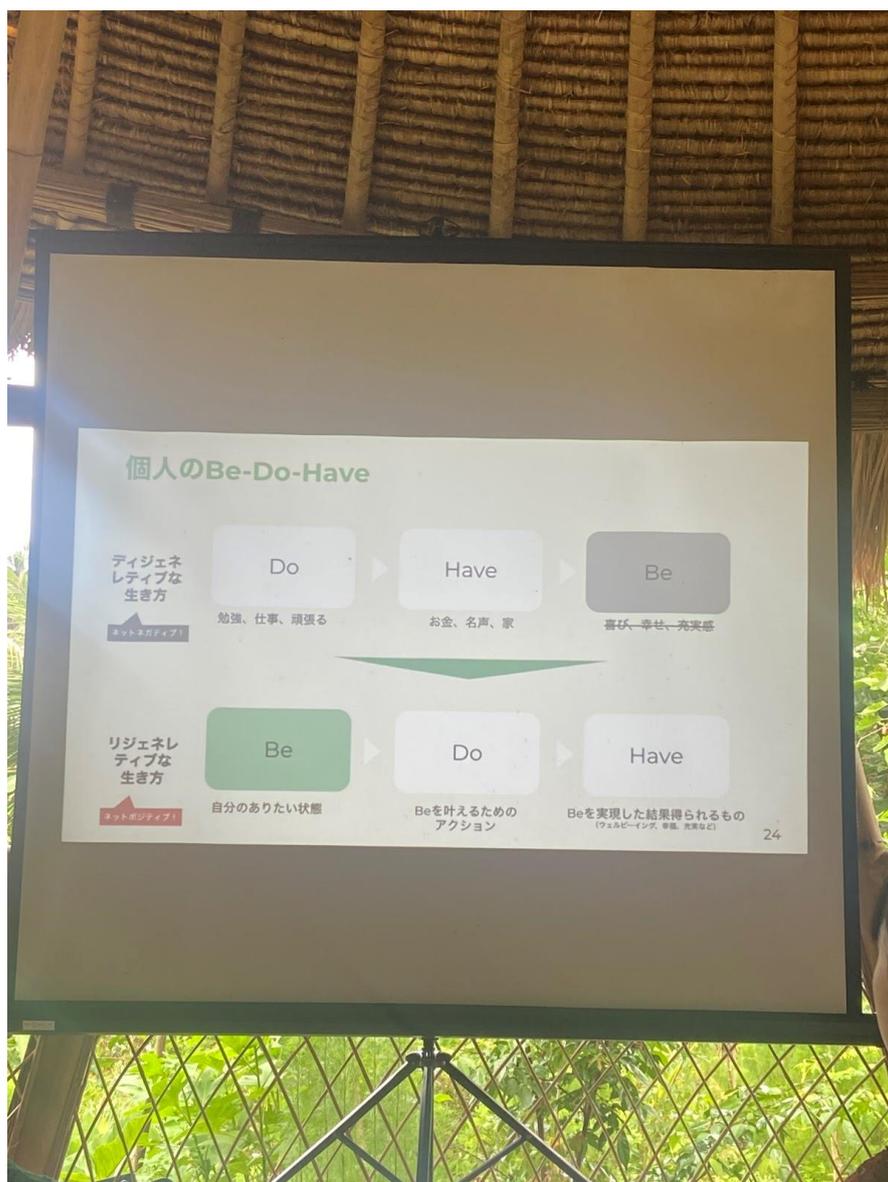


【コラム⑧】 Be-Do-Have の生き方

私たち日本人の多くは小学校入学、或いはその前から「ディジェネレティブ（ネットネガティブ）」な生き方を自然と教えられてしまう環境や風潮があると思います。それは、「Do-Have-Be」の生き方です。初めの Do の部分は「勉強や仕事を頑張ること」に当たります。その結果として「お金や名声、家」などの Have を手に入れ、そこから Be に当たる「喜びや幸せ、充実感」が生まれると思込んでしまいがちです。しかし、私たちは学校に行く意味が分からないままただ親や先生から「勉強をしなさい」、「学校に行きなさい」、「働きなさい」と言われるため仕方なく行っている部分があると思います。そこから Have を手にして一時的に満たされ、Be を得た気持ちになるとは思いますが、結局は慣れてしまうため、Have は Be を生まないということが分かります。

私たちはそのような生き方ではなく、「リジェネレティブ（ネットポジティブ）」な生き方にシフトする必要があります。それは「Be-Do-Have」の生き方です。Be として初めに「自分のありたい状態」を定めた上で、次に Do としてその「Be を叶えるためのアクション」をし、最終的に Have として「Be を実現した結果得られるもの（ウェルビーイングや幸福、充実など）」が自分に残ります。人それぞれの Be に応じて Do で頑張り、結果的にそれぞれの Have が伴ってくるという構図は、「Do-Have-Be」の生き方とは違い、一つ一つの動作がしっかりと繋がっていることが分かります。

（分かりやすく次の画像をご覧ください。）



私たちは自然と **Do-Have-Be** の生き方で育ち、それをそのまま次の世代へと教えてしまいがちであると思います。しかし、**Be-Do-Have** の生き方にシフトすることによって、目標を達成するために行わなければならないことが明確になり、すべての行動に目的を持ったうえで取り組むことができるため、自分の人生の選択も納得できるものになると感じました。今まで自分にとっての **Be** を考えずに **Have** だけを求めようとしている自分に気づいたけれど、**Have** は本質的なことを生まないという言葉が深く心に残り、自分の中で革命が起きました。これは誰も教えてくれないけれどとても大切なことであると感じます。

8. 一人ひとりの自己変容

・泉稚菜

私はバリ島にスタディツアーに行く前は世界の環境や、世界の人々に対する興味は正直ありませんでした。自分の生活で精一杯な部分があり、さらに日本から出たことなかったため、世界というものを知らずに生きていました。しかしスタディツアーで初海外をバリで過ごす事ができ、世界の大きさ、日本の窮屈さに気付くことができました。私はやりたい事がないと今まで言っていたのですがそれはやりたい事を見つけようとしていない、ずっと殻に籠っていたんだとバリ島で過ごした事により気付くことができました。スタディツアーを経験してから世の中の見る目に変容があったと感じます。この変容を大切に大学生活を送っていきたいです。

・岩谷舞衣

スタディツアーを終えて変化したことは大きく分けて2つあります。感覚的な変化には、ファストフードの匂いがきつく感じるようになり、食べなくなりました。また考え方にも変化があり、持続可能性を重視するようになりました。そして、自分が関わっているコミュニティでも持続可能な活動をしてほしいと思い、彼らに提案をしています。スタディツアーは大きな変化を与えてくれました。何を重要視して行動するかという基準を身につけることもできて、自身の変容を感じています。

・服部美海

私はケーキ屋でアルバイトをしています。その店では、賞味期限当日で売れ残ってしまった商品は生ごみとして捨てるように指導されるため今まではそのルールに従っていました。しかし、今回スタディツアーに参加したことで環境問題の現状を学び、フードロスを当たり前のようにおこなってはいけない、と強い気持ちの変化がありました。それから私は、売れ残ったケーキを周りにお店の店員さんに配るようにし、少しでもフードロスをなくそうと行動しました。自分が当たり前に行っていた行動を再度見直し、より良い結果に繋げるために考える癖がついたことは私にとって帰国後の1番の変化だと思います。

・荒谷菜津美

私はスタディツアーに参加して、身近な小さなことからチャレンジしていくようになりました。例えば、洋服はリサイクルショップを利用しそこで売り買いしたり、マイボトルを持ち歩くようになりました。また、ユキさんのワークショップを経てから成

分表示をよく見るようになりました。スタディツアーに参加して、自分が地球にどのような影響を与えているのか意識するように変容しました。

・漆澤有香

私は優しさとは自己犠牲から成り立つものだと考えていました。幼い頃から大人の中にいることが多かったため色んな人の顔色をうかがってその場を平和に過ごせるような言葉や行動を選んでしまいます。しかしそれを苦痛とは思わず常に相手に優しくありたいと思い生きてきましたが、人に優しくするためには自分を take care しなければ相手を take care できないという言葉を引き、優しさというものが自己犠牲から成り立っているものではないと気づきキャンドルを炊いてゆっくりするなど自分を take care するようになりました。

・近藤亜紀

スタディツアーを通して私は、「人は一生学び続けることができる」ということに気が付きました。

今までの私は、好奇心旺盛な性格から、色々なことに挑戦しようとして、大切なことを見失っていたのかもしれない。バリ島で出会ったゲストスピーカーの方々は、ご自身のご経験に誇りをもって、楽しそうに語ってくださいました。そこで、学び続けられることへの喜びや楽しさを知りました。そして、これまでの大学生活で自分の軸となっていたものをシフトし、新たな興味の尻尾を捕まえるための大きな決断をすることができました。その決意から、自分が本当にやりたいことは何かをじっくりと考え、目標に向かってアクションを起こしています。これが、スタディツアーでのいちばんの変容です。

・坂東優

私はバリ島から帰国し、感じた違和感が多くあります。その一つは、街にいる人が皆俯いていたり、せかせかしていて時間の流れが早いことです。バリの人たちは道ですれ違ったり顔を合わせたりすると微笑みかけてくれ、関わった人からは「あなたは家族だからいつでもここに帰っておいで」と温かい言葉をいただきました。そのせいか、穏やかで優しい空気や時間の流れを肌で感じました。今振り返ると、あの一週間は本当に「愛」に溢れた時間だったと思います。私はその愛に気づいたことが大きな変容だと思います。沢山の愛に触れ、これまでも両親や周囲の人たちから愛情を注がれていたことにも気づかされました。スタディツアーに参加する前は気づいていなかった多くの愛に目を向けるようになり、私も周囲の人や世界で苦しんでいる人たちに愛を注ぐ人になりたいと思うようになりました。

・平野星来

私はスタディツアーに参加後、アルバイト先で店内利用の方へ紙やプラスチックカップではなく、マグカップでの提供でも良いか尋ねるようになりました。スタディツアーに参加するまで、アルバイト先で店内利用の方へマグカップで提供した方がプラスチックカップや紙カップなどの資源を無駄に多く排出しないという考えにさえ至りませんでした。ですが、mana でリユーズブルストローを初めて使用し、飲み物を飲む時は確かにストローは必要ですが飲み終わればゴミになってしまうことに気付かされました。私が1番簡単にすぐに環境への配慮として行動できるのがマグカップでの提供だと考え、行動しています。

・藤原加奈子

私はPKP やブミセハットで出逢った強い女性たちの姿がプログラムの中で一番の印象に残っています。彼女たちの怒りは怨念として残ったり自己完結したりするのではなく、同様に困っている誰かに手を差し伸べ、未来に繋がるものとして形を変えていたからです。またバリ・ヒンドゥー教の教えのように自然と共生し、自然界から教えを頂く姿勢に感動しました。西洋近代の科学的物質観を望まず、筋の通った世界観を持った姿勢は、現代を生きる私たちに生きるヒントだと思います。私も人間としての強さと影響力を持って、周りの人を優しさで包み込める人間になりたいと思っています。自分にできる範囲内で、学外のボランティア活動を始めたり、学業により励むようになったりしたのは、自己変容の一步だと思います。

・堀江ひびな

私は、スタディツアーに参加してからフードロスについて深く考えるようになり、家庭や飲食店、様々な場所で食べ物が廃棄されているという現状を見逃してはいけないのだという考え方に変わりました。私はカフェでアルバイトをしているのですが、賞味期限当日で売れ残ったフードは簡単にゴミ箱に捨てられてしまいます。この悲しい光景を少しでも変えたいと思い、一口サイズに切ったフードと少量のコーヒーをお客様に配る取り組みをしています。これは、一人でも多くの方に行き渡って、それがフードロス削減につながってほしいという願いからできた行動です。私たちは当たり前で食事ができているけれど、世界には食料が手に入らず苦しんでいる人がいます。また、食べ物にも命があり、私たちのもとに行き届くまでには多くの人の手が携わっていることを忘れてはいけません。だからこそ、感謝の心を忘れずに食べ物をいただいています。

・和田亜珠奈

私がスタディツアーで自己変容したことは物事の先を考えることになったことです。私は、アパレルでアルバイトをさせて頂いています。新しい洋服はプラスチックの袋に1着ずつ入っています。そのため、毎日のプラスチックゴミの量はとて多く1日に数回もごみ捨てに行きます。なので、綺麗に開封できたプラスチックの袋は、買い物袋を購入されなかったお客様にリサイクル袋として使って頂こうという決まりがありましたが、時間がある時以外はとて大変でした。しかし、今回のスタディツアーでその物事の先を意識することを学び、沢山捨てているプラスチックゴミに対する思いも変化し、どんなに忙しくても再利用できるよう丁寧に扱うようになりました。また、職場の人もなるべく再利用できるよう行動してくれるようになりました。この行動で少しでもプラスチックゴミ削減に貢献できたら嬉しいです。このように今回学んで得たことを無駄にしないよう自分ができる事と照らし合わせながら改善するようになりました。また、今までは考えていなかったその物事の先を考えることで環境に優しい選択を1回でも多く取れるよう行動するようになりました。

・畔柳美祐

私がスタディツアーを通して変容した点は「よく考えるようになった」ことです。SDGsの先を考えるスタディツアーとして、環境問題や人権問題、教育の在り方といった多くの社会的な問題に触れました。そこで大きな刺激を受け、帰国してからも視界に入る色々なものを見るたびにその成り立ちや背景を想像するようになりました。例えば、洗剤の成分について・身近にある自然の在り方について・報道されている内容について・ゴミについて、他にもたくさんありますが自分事のように考えることが確実に増えた実感があります。これにより自分と全く無関係なことはほとんど無いことに気が付くことができました。

・板橋玲奈

私がバリ島スタディツアーを経て変容した点は Well-Being の価値観です。日常での生活から様々に変化したこの夏でしたが、最も大きく変化した点は自分自身の”幸せ”に対する考え方でした。帰国してからは常に幸せとは何かを考えるようになり自分の進路に対するイメージも大きく変化が起きました。経済発展していることで先進国と呼ばれ、まるで勝者のように考えられています。自分もそのような意見を持っていました。しかしながら経済発展することで得られることはもちろん、失うこともたくさんあります。自分自身が求めるべきゴールはどこにあるのか経済の視点から今後も真剣に突き詰めていきたいと考えています。

・江頭佳奈

日々の中で小さな幸せを見つけるようになりました。花や葉っぱの香りが心地良かった、友達と何気ない話で沢山笑った、など些細なことですが、日常にある幸せを感じるようになりました。感謝の言葉を沢山伝えようと心がけるようになりました。バリ島にいる間、みんなから感謝や愛の言葉を沢山受け取って、私も沢山届けて、心が温まる日々を過ごしていました。この素敵な循環をもっと広げたいと思っています。また環境を意識することが増えました。お店で袋やお箸を貰わない、ペットボトルを買わない、シャンプーはワンプッシュにする、化粧品は含まれている成分を確認してから購入するなど、できる範囲で行動を起こしています。

・金子愛美

私がスタディツアーで変容した点は、自分の中の当たり前を一度疑ってみることの大切さに気づけたことです。私は今まで便利な暮らしや、物質的な豊かさに対して、特に深く考えてみることなく生きてきました。しかし、私たちが便利に生活できることの反面で何が起きているのか、経済発展の中で自然や発展途上国にどのような影響をもたらしているのだろうかと考え、現状を知るとはとても大切なことだと実感しました。人と人との繋がりを大切にしていることや人のあたたかさを肌で感じることで、本当の豊かさとはなんだろうと考えることに繋がりました。当たりの枠の中だけで物事を捉えるのではなく、一度立ち止まって広い視野で考えてみることを深く学びました。

・佐々木絢音

バリに行く前はみんなが始めているからという理由でなんとなく気の乗らない就活をしていたが、帰国後はもっと目を向けなければならない問題や大切なことがあると感じ、中途半端に就活することができなくなった。また、バリで物質的な豊かさではない、目には見えない豊かさがあることを強く感じ、それに気づけたことで自分の世界は広がったと思う。そのため、現在は自分にできる「教育」という切り口から、以前から所属している国際協力 NGO のユースチームで豊かさについてのワークの作成に取り組んでいる。

・谷口卯奈

私に変容したと思う部分は行動力についてです。研修に行く前は人見知りだと思っていました。しかし、研修中には現地の人に道を聞いてその後おしゃべりしたり、空港でサーフボードを持っている人に「私もサーフィン最近始めたの」と話すきっかけを作っていたりと、自然と外国人に話しかけている自分を発見しました。自分には行動

力があると気付けたことにより、例えどんな状況下に置かれたとしても、その環境に
適応する能力を持っているのではないかと自信ができました。

・田畑つむぎ

私がスタディツアーに参加して変わった事は環境に対する考え方です。Mana での生
活や取り組みなどを体験してから、日本にいても環境に対して何か行動しなければ力
にはなれないと気付きました。私はスタディツアーに参加する前からアルバイト先
で、プラスチック削減のためにお客様に必要な数のスプーンを聞いて、その本数分渡
すように言われていました。しかしその時は多めに渡しても損はないだろうという考
えで、スプーンの数を見ずに渡していました。スタディツアーに参加してからは、1
本でも無駄を無くすことがプラスチック削減に近づくと身を持って感じたので、きち
んと必要な本数を伺うと一度に 8 本分や 12 本分のロスを防ぐ事ができました。これ
からも地球にとってプラスに変われる事がないか探しながら生活していきたいです。

・塚田紗來

マナでのご飯がとても美味しいうえに体にも地球にもいいことをご飯も頂くにつれ
とても実感し、今回のスタディツアーを振り返っていく中で、日本の農業について興
味を持ちました。その中でも、都心で農協をする「アーバンファーマーミング」につい
てとても興味を持ちました。「アーバンファーマーミング」のメリット、デメリットにつ
いて学び、マナでいただいたご飯が無駄にならないよう、良い社会になるためにはどう行
動すればいいのかについて調べています。また、あこさんがお話されていた「1日に
沢山ある選択肢の中で、意識してひとつの選択を環境などに対しより良い方向に向く
ものを選ぶことで未来が変わるかもしれない。」という言葉が自分の中に残っており、
自分もその選択をできる人になりたいと思っています。だからこそ、これまで以上に
世界が良くなるために意識をしたいと思いますと同時に自分の中で終わるのではなく、今
アルバイトをしているサステイナブルの靴屋さんで来ていただいたお客様にも良い選
択をして貰えるよう行動しています。

・南木美咲

高校までは校舎の中で、大学に入ってからオンラインが中心であったため家の中
で、ずっと閉ざされた環境で知識をつけて「学んだ」と思っていた私に、今回のツア
ーは現地に出向き五感を使って体感して初めて「学ぶ」ことができるのだ、と教えて
くれました。本だけでは mana ホテルの自然との調和を感じられませんが、日本で誰
かの話を聞いているだけでは命・子供・教育の大切さにこれほどまでに気づきませ
んでした。それから頂いたチャンスを逃さぬよう、お声がけ頂いたプログラムに積極的

に参加し新たに自分のやりたいこと、生き方を考える契機を得ました。これからも新たな引き出しを増やすため、五感を使って学べる場所に飛び込みたいです。

・保泉日向子

自分の well being について考えるようになりました。私は、キャパオーバーでも仕事を引き受けてしまう癖があります。そのせいで、ストレスを抱えて、不調になることが常です。相手のことを思いやることができなかったり、傷つけてしまうことも時としてあります。ただ、スタディツアー中に出逢った方々は、自分と上手に付き合う方法を見つけ、幸せそうでした。変容とまではまだ言えませんが、私も心のどこかで、自分と上手に付き合う方法を探そうと思えるようになってきました。日本での暮らしに身体も心も戻ってきてしまっていることが、とても苦しいですが、今できることは、自分の wellbeing を見つけることだと思っています。

・三浦さくら

今まで、朝ごはんに対しての意識はそこまでありませんでした。しかし、マナでいただく朝ごはんがとても美味しいうえに体のことをとても考えて作られていると知り、日本に戻ってきてから胃腸にいいバナナやキウイなどを選択するようになりました。また、スタディツアーで学んだ事、考えた事、感じた事をまとめた My tree を家族にも発表しました。そして、少しでも多くの人に知って欲しいと思い治自体でスタディツアーでの体験を話、自分が学んで得た事を発信しました。自分がとった行動で少しでも多くの人に環境問題や豊かさについて考えてもらい変化があればいいなと思います。

・山中悠夢

スタディツアーを通して私は、環境や物に対する考え方が変容しました。スタディツアーに参加する前は環境についてテレビで見たりなどをして現状を知っていたというだけでしたが、様々な場所に行き環境について学ぶことでただ見ているだけではなく私が行動することで変わることができるものであるということを知りました。また、日本で過ごしていて当たり前にあるものがバリにはなかったりした経験を通して一つ一つを大切にすることがより強くなりました。スタディツアーを終えて 2ヶ月が経ちましたが、変容した自分は変わっていないことにもとても驚いています。素敵な機会をありがとうございました。

【コラム⑨】ウブド観光

自然豊かなインドネシア・バリ島の中でも自然の多いウブド。バリ島の中の高地にあり、年間を通して暖かいです。バリ島と言われるとビーチリゾートをイメージされる方が多いと思うのですが、ウブドは山や、木の緑溢れる場所です。私も自然に囲まれてゆっくりとしたバリ時間を過ごすことができました。

ウブドの中心の端に位置するのがウブド・モンキーフォレストです。名前の通り猿が沢山います。私がモンキーフォレストを歩いたとき、目の前に猿がいたり、反対側の道路にも猿がいたり、上を見上げてみると電線にも猿がいました。電線を器用に歩く猿を見ていると急に私たちの近くに降りてきたり、本当に猿がいろんなところに沢山いたりしました。また、モンキーフォレスト通りには多くの雑貨屋やブティック、カフェが立ち並んでいて日本語も通じるお店が多かったです。



大きな猿の像に登る猿（左）



モンキーフォレスト通り（右）

ジャティルウィ・ライス・テラスは、世界遺産に登録されているライステラスです。一面緑色の稲穂で邪魔する高い建物がなかったです。一面どこを見渡しても緑でした。日本の畑との違いは、一面緑の稲穂の中にたまに小さな売店のようなお店や、バナナの木やヤシの木が生えているところです。また、ジャティルウィ ライス テラスが世界遺産に登録された理由はこの広大な景色ではなく、トリ・ヒタ・カラナ（自然・神・人間）の調和を重要視するバリヒンドゥー哲学のスパックによってもたらされたという点が主な理由だそうです。



ジャティルウィ・ライス・テラス

9. プロジェクトについて

9-1 教育をもう一度考える～“My Planet, Myself!”の翻訳から～

9-2 Ethical Music 01

9-1 教育をもう一度考える～“My Planet, Myself!” の翻訳から～

翻訳の経緯と日本における性教育の課題

今回のスタディツアーでは、日本の外にいてバリの問題だけでなく、日本の問題もよくみえるようになっていた。その一つが、日本における性教育の不足である。国際助産院の設立者であるイブロビンは、胎盤を生まれたばかりの新生児からすぐに切り離さない理由を科学的根拠から説明してくれた。また、日本の元小学校教諭で、現在はバリで日本語を教えている望月さゆりさんは、小学校教諭時代から日本の性教育に問題意識を感じており、一緒に食事をした際にも日本の性教育について話し合う機会があった。これらの経験から、日本の性教育の不足についての問題意識が高まり、それに対するアクションを考えた際、イブロビンが性教育についての著書を出版することを耳にしていたため、私たちが日本語に翻訳することで日本の若者や大人が、性教育の意義について再度認識する機会となればよいと考えるに至った。

日本は性教育という面では、国際的にかなりの遅れをとっている。その一つに、性教育に対して強い抵抗を持っていることが理由として挙げられるだろう。戦後、日本の性教育は純潔教育から始まり、その後1970年代頃からは緩やかに科学的な性教育へ移行してきた。しかしながら、学習指導要領には「受精に至る過程については取り扱わないものとする」という「歯止め規定」が記載されていることや、2000年前後には、政治介入による性教育バッシングが起これ、都立七生養護学校（当時）の「こころとからだの学習」に対して都議らの弾圧が起きたことなどからも、「寝た子を起こすな」といった性教育に対する強い抵抗が根深く、十分な教育が行われていないことが伺える。

性教育の不足による問題も顕著であり、日本ではHIV・AIDSや梅毒の新規報告数に減少傾向がみられていない。また、人工妊娠中絶の実施率も総数では大幅に減少してきているものの、20歳未満の実施率はあまり変化がない。10代の女子の妊娠、中絶の実態は、退学によって教育を受ける権利を奪われることや、心と身体に深い傷を負うことにつながるなど、非常に深刻な問題である。

性教育によって性について科学的な根拠に基づいた正しい知識を知ること、その上で選択できることはすべての人が持つ権利であり、これらの権利を保障するための正しい知識を与え、その選択肢を広げることは、大人、そして教育の義務である。一人一人が自分自身とその周りの人たちの身体を大切にできるようになるために、性教育への必要性が広く認識されること、これらの権利がすべての人に保障されるようになることが、今日の日本には求められている。以上のような問題意識のもとに、スタデ

ィツアー参加学生の有志で翻訳チームを作り、海外での性教育の最新の教材についてお伝えするために作品の一部の翻訳を試みた。この翻訳が性教育に関する日本の現状をより良い方向に変えていくための対話が生まれるその一歩となることを切に願う。

翻訳プロジェクトチーム一同

My Planet, Myself!

【はじめに：イブ・ロビンの言葉】

10代のあなたへ。

あなたは、母なる地球とすべての種の運命を、その心と手に握っています。無理強い
はしません。これは真実であり、大きなことなのです。

夢を見てください、大きな夢を見てください。なぜならあなたが想像すること自体
が、未来なのです。今あなたが見ている夢が大切なのです。そしてあなた自身が大切
な存在なのです。

計画を立てましょう。夢があなたの人生の中心なのです。あなたが何をするに
して、夢を大切に育めば、それはあなたの情熱になるでしょう。あなたがどんな選
択をしても、あなたが成長する中で直面する挑戦も、夢を追い続けることで、情熱
を守ることになるんです。

今、あなたの人生は波乱のように感じるかもしれません。あなたの脳の中には、小
さな紫色の松ぼっくりのような形をした器官、松果腺があります。ここは光と闇を取
り込む役割を担っています。ある文化では、魂が宿る場所、三番目の目、夢が生まれ
る場所といわれています。松果体、下垂体、視床、海馬、扁桃体、内分泌系全体は、
急増するホルモンに適しています。あなたが経験するすべての変化に対応するのは、
とても大変なことです。

多くの課題がある時期であり、そのうえ私たちは不確実な世界に生きています。気
の毒だけど思春期と成人期初期は、あなたが生まれつき持っている創造的な知性を表現
する時期であり、あなたは大きな目標や夢を持つ選択肢があります。そう。頑張っ
て。地球という星に、この歴史の支点に生まれてきてくれてありがとう。

私はあなたを信じています。

愛しています。

イブ・ロビン・リム

※本翻訳は、DeepL を用いて一部意識してあります。

Dear Teenaged Person,

You hold the fate of our Mother Earth and all species, in your hearts and hands. No pressure... but It's true, and It's huge.

Please dream, dream big, because what you imagine IS the future. Your dreams right now are important. You are important.

Make plans. Remember your dreams must be at the center of your life plans. Whatever you do, nurture your dreams, they will grow to become your passion. No matter what choices you make, through all the challenges you will face as you grow, protect your passion by following your dreams.

Right now your life may feel stormy. At the center of your brain is a tiny purple pinecone shaped organ, called your pineal gland. This is the place responsible for letting the light and darkness come into you. Some cultures say it's the seat of your soul, your third eye, where dreams are born. Your pineal, your pituitary, your thalamus, hippocampus, amygdala and your entire endocrine system is adapting to your surging hormones. It's a lot to handle all the changes you are experiencing.

This can be a time of many challenges, plus we live in a world of uncertainty. I'm sorry for the hard parts. Puberty and early adulthood is a time to express your inborn creative intelligence, you can choose to reach for the stars. Yes... go for it. Thank you for being born on our planet Earth, at this fulcrum of history.



I believe in you.
I Love you,
Ibu Robin Lim

【Mother Earth の登場】

<これまでの流れ>

この漫画には悩み多き、思春期の男女5人が登場し、彼らの体と健康に関する質問に青い蝶、Mother Earth、聖人フクロウが答える形で物語が進んでいきます。

ある日の放課後、1人が缶のゴミをポイ捨てしてしまい、母なる大地”Mother Earth”が登場し、

あなたたちは今、かけがえのない青春時代を生きているのです。これから大人になるにつれて、たくさんの選択肢や壁に直面するでしょう。



<Mother Earth の登場>

「若者一人一人が、私にとってとても大切な存在です。
あなたたちはこの私、母なる大地とそして全ての生き物に大きな影響力を持っている
のです。

私の目的はあなたたちに自分自身を知るようインスピレーションを与えることなので
す。答えを得るための道は問い続けることです。さあ勇気を持って質問してみなさ
い。

そして忘れないでください。本当の答えはかっこよくもみんなに好まれることではな
いかもしれないこと。でもその答えはあなた自身が「正しい」と思うものなのです。」

と優しく語りかけ、少年少女たちは口臭やアタマジラミなど、自分たちの体と健康に
ついて質問をしていきます。



16



17

【若者達へ、Mother Earth からのメッセージ】

〈これまでの流れ〉

彼らからの様々な体や健康に関する質問にひとつひとつ答えてきた Mother Earth。最後に、彼らや彼らと同じように悩みを持つ 10 代の若者たちにメッセージを残します。

〈Mother Earth の言葉〉

「健康にいたるための良い方法は、健康的な習慣を友達と共有することです。座ってビデオゲームをしたり携帯で Tik Tok を見る代わりに、近所や村を散歩すると良いでしょう。水泳や自転車に乗るエクササイズもあなたたちの健康に良いのです。」



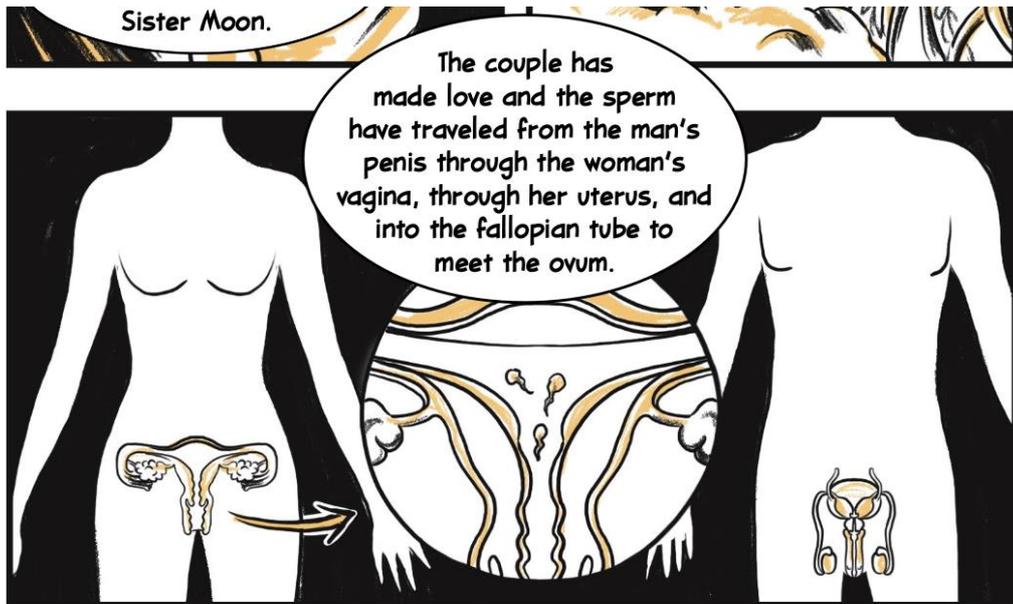
28

するとそこへ友達のマヤから電話がかかってきました。「今何が起こったか信じてくれないと思うけど後で話すね！」そう言って友達のもとへ向かっていくのでした。

【性教育】

<性行為と妊娠の危険性>

カップルが性行為を行うと、精子は男性のペニスから女性の膣、子宮、卵管を通り、卵子と出会うことができます。



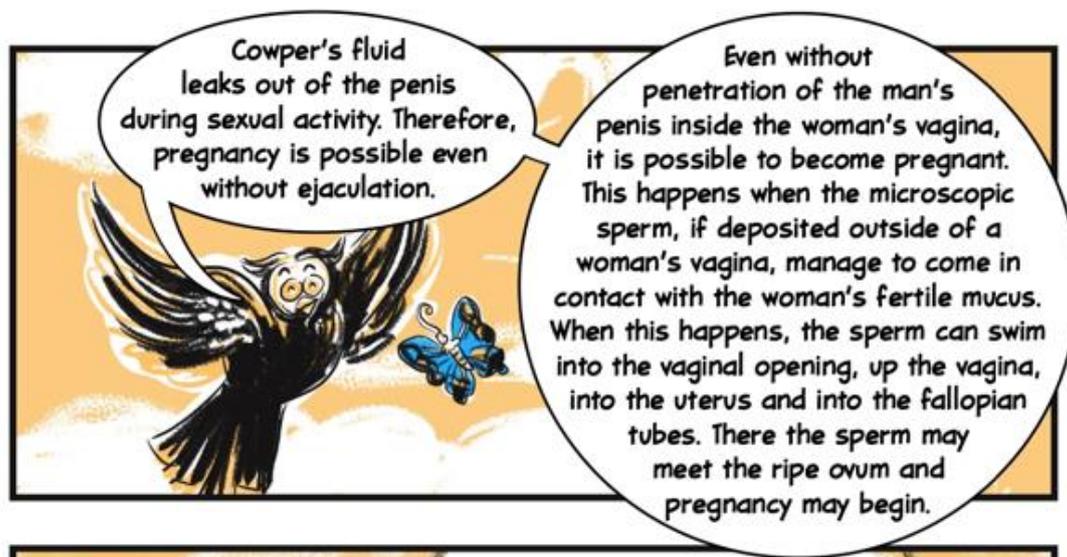
イジー：精子が卵子を貫通することを受精と呼ぶの？

オウル：そうだよ、わかったかい？でも覚えておいて。射精がなくても、精子はカウパー腺から分泌される少量の液体の中にいるんだ。



オウル：カウパー液は、性行為の際にペニスから漏れ出てくるんだ。だから、射精をしなくても妊娠する可能性は十分にあるんだよ。他にも、女性の膣内に男性のペニスが挿入されなくても妊娠する可能性があるんだ。

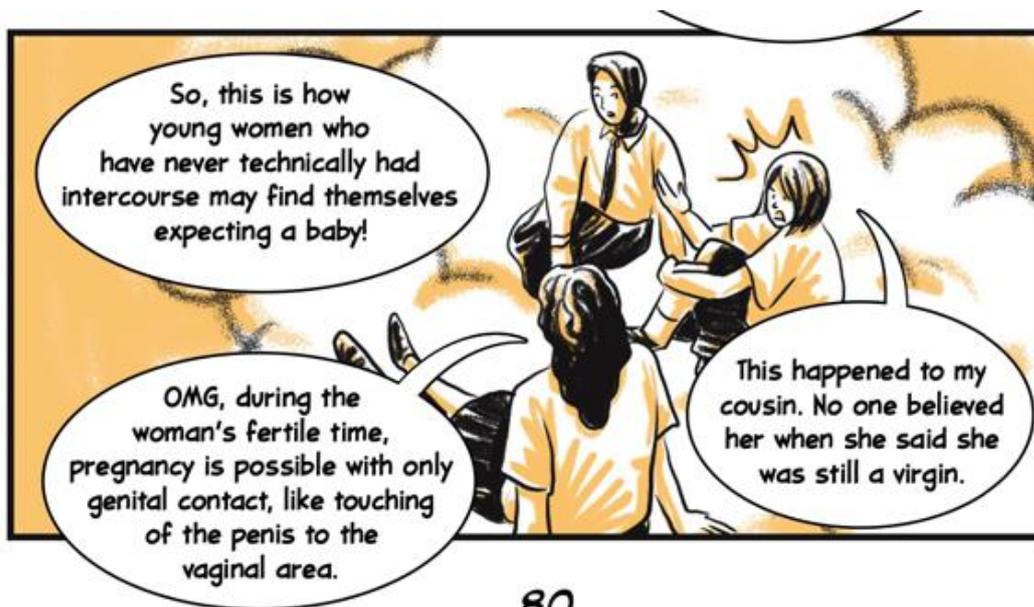
妊娠は、どんなに微量でも精子が女性の粘液と接触することで起こるよ。つまり、精子が女性の膣外、例えば外陰部、太ももの内側に付着したときでも、微量な精子で精液に接触するだけで、妊娠してしまうんだ。



オウル：だから、事実上性交をしたことがない若い女性でも、気がついたら赤ちゃんを妊娠していた！ということがあるんだよ。

マヤ：それは大変！妊娠可能な時期には、ペニスを膣に触れるなどの性器接触だけで妊娠する可能性があるのね

イジー：私のいところにも同じようなことがあったわ。そのとき彼女がまだ処女だと言っても誰も信じなかったの。



80

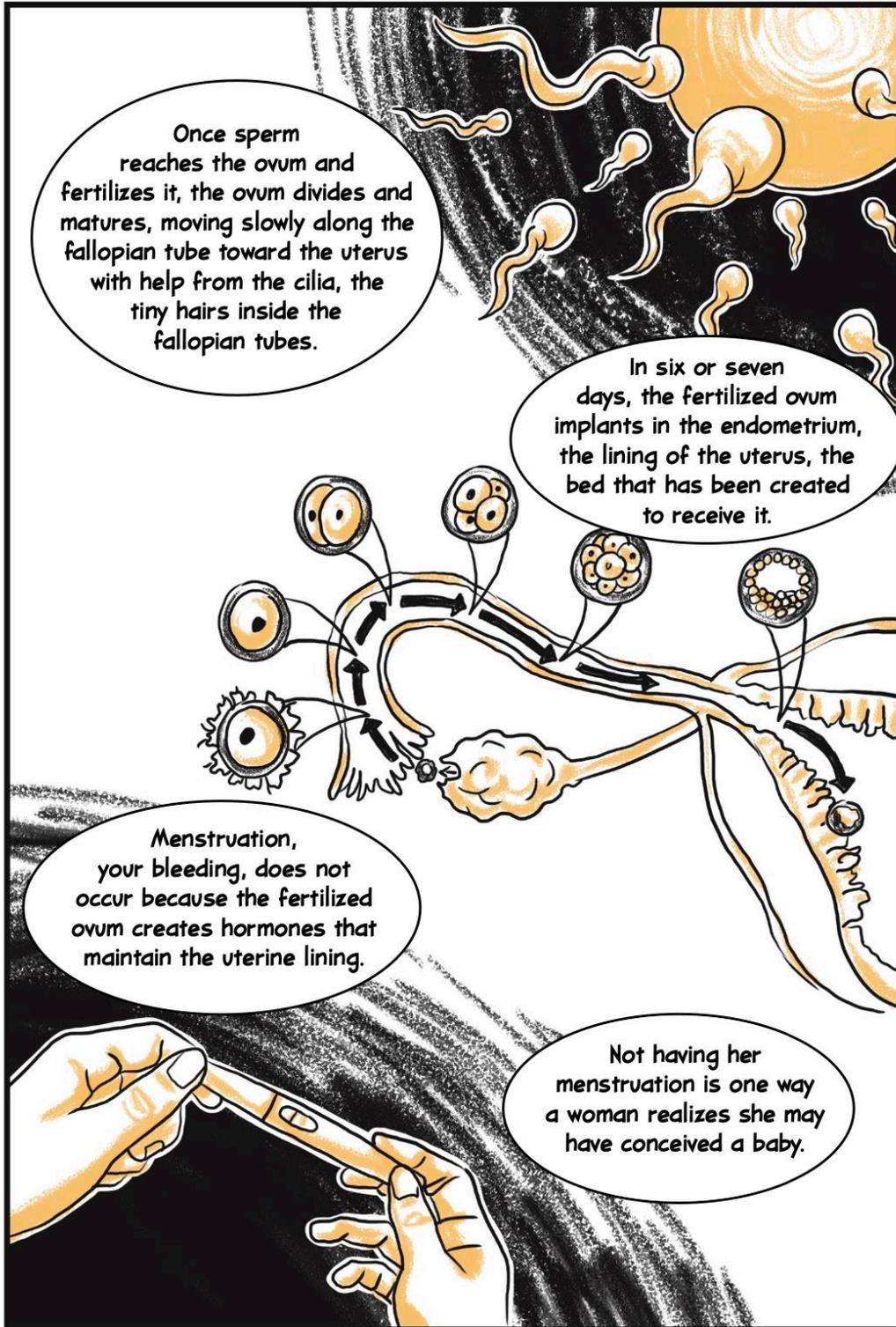
<受精の仕組み>

一度精子が卵子に到達して受精すると、卵子は分裂・成熟し、卵管内の繊毛に助けられながら、子宮に向かってゆっくりと移動します。

受精卵は6~7日後に子宮内膜に着床します。子宮内膜とは受精卵を受け入れるために作られたものであり、ベッドのような役割を果たします。

月経は、受精卵が子宮内膜を維持するホルモンを作るため、起こりません。

月経がないことは、女性が妊娠に気づく一つの方法です。



9-2 Ethical Music 01

このプロジェクトの概要

無印良品が展開している「水プロジェクト」への参加を音楽業界に呼びかけることで、環境への関心を高め、活動の際の行動基準に持続可能性を重要視するきっかけを生み出すことを目的とする。

プロジェクトを開始した経緯

2022年バリ島スタディツアーを経験し、私の趣味であるバンド活動は環境に優しいとは言えないと気づいた。具体的には楽器の素材がプラスチックであること、木製の消耗品が多いこと、練習が長時間のためペットボトルを持ち歩くことが多いことなどが挙げられる。様々な視点から問題が挙げられるが、まずは身近な問題から解決できればと思いペットボトルの消費を減らすことを考えた。自分の好きなコミュニティが環境問題の一因を抱えた状態から変化してほしいと思い、プロジェクト開始に踏み切った。

実現に向けた取り組み（11月時点）

1. 音楽スタジオにプロジェクトの提案

スタジオのお問い合わせフォームや企画室にプロジェクトの内容、目的、参加への意向などを打診した。

結果：賛同を得られず、エコミュージックなど取り組んでいるスタジオでも「そういったことは考えていない」という回答をいただいた。

2. 無印良品の企画担当者に詳細を伺う

「水プロジェクト」は多くの無印店舗で展開しており、店内に設置してあるウォーターサーバーから無償で水を提供することでマイボトル利用を促し、身近なことから社会の環境への意識や取り組みを促進することを目的としている。本社に連絡し、企画の担当者とコンタクトが取れるようになった。

結果：私の活動を支持していただき、「プロジェクト参加のロケーションが決まれば、ウォーターサーバー設置などの細を先方に説明することも可能」という形でご協力いただけることになった。

3. 提案の再考

この提案は企業にとって経済的なプラスが見込めるものではないということを念頭に、プレゼンするポイントを再考し、環境問題に取り組むべき理由をさらに分析して説明できるように研究を進める。ビジネスと環境保護という現在は相反する活動の共生に貢献したいと考えている。

プロジェクト担当 岩谷舞衣

【コラム⑩】 スキンケア



私達は、バリ島在住のローヴィーガンシェフである Yuki さんに、ナチュラルスキンケアワークショップを受けました。

私たちは普段から使用しているシャンプーやリンスには界面活性剤という化学物質が含まれており、それがかえって私たちの体や生態系、環境へ悪影響をもたらしているという実態を知りました。

Mana に宿泊して、初日のシャンプーとリンスの泡立ちの違いに違和感を覚えた自分がありました。泡立つ方が良くと思っていた固定概念が実は化学物質であり環境にも体にも害になる恐れがあるというのは衝撃でした。また、organic 製と記載されているものも 1%でも organic が入っていれば名乗れるということも知りました。そこで私たちは、バナナやオーツ、お花などの粉末で 100%organic 製の洗顔料を作りました。自分で好きな色やにおい、植物の効果などを聞きながらそれぞれの洗顔料が出来上がりました。何気なく使用するスキンケアとサステイナブルの連鎖に気が付かされた、そんなワークショップでした。



10. My tree ・ 感想

私達は1週間の学びを最終日に全員で分かち合うために「自分の樹 (My tree)」を象徴的に描きました。これは、自分の大切な価値観や、新たな気づきや学び、次世代につなげたいことなど、自分の気の向くままに自由に書いています。発表会はありのままの自分をさらけ出す、涙と笑いの時間となりました。

泉稚菜 「7日間の変容」

岩谷舞衣 「Balinese Rock Beats」

服部美海 「壊された当たり前」

荒谷菜津美 「繋がり」

漆澤有香 「愛に満たされた日」

近藤亜紀 「変容」

坂東優 「バリで芽吹いた私の”夢の木“」

平野星来 「愛の循環」

藤原加奈子 「バリ島スタディツアーを終えて」

堀江ひびな 「バリでの出会い～私の原点に～」

和田亜珠奈 「愛のある循環と調和を」

畔柳美祐 「愛にあふれたスタディツアー」

板橋玲奈 「本当の幸せとは何かを真剣に考えたい」

江頭佳奈 「幸せに生きること」

金子愛美 「当たり前に縛られないこと・愛のある人との繋がり」

佐々木綺音 「もう一つの家族」

田畑つむぎ 「新しく得た価値観」

谷口卯奈 「私の価値変容」

塚田紗來 「Me」

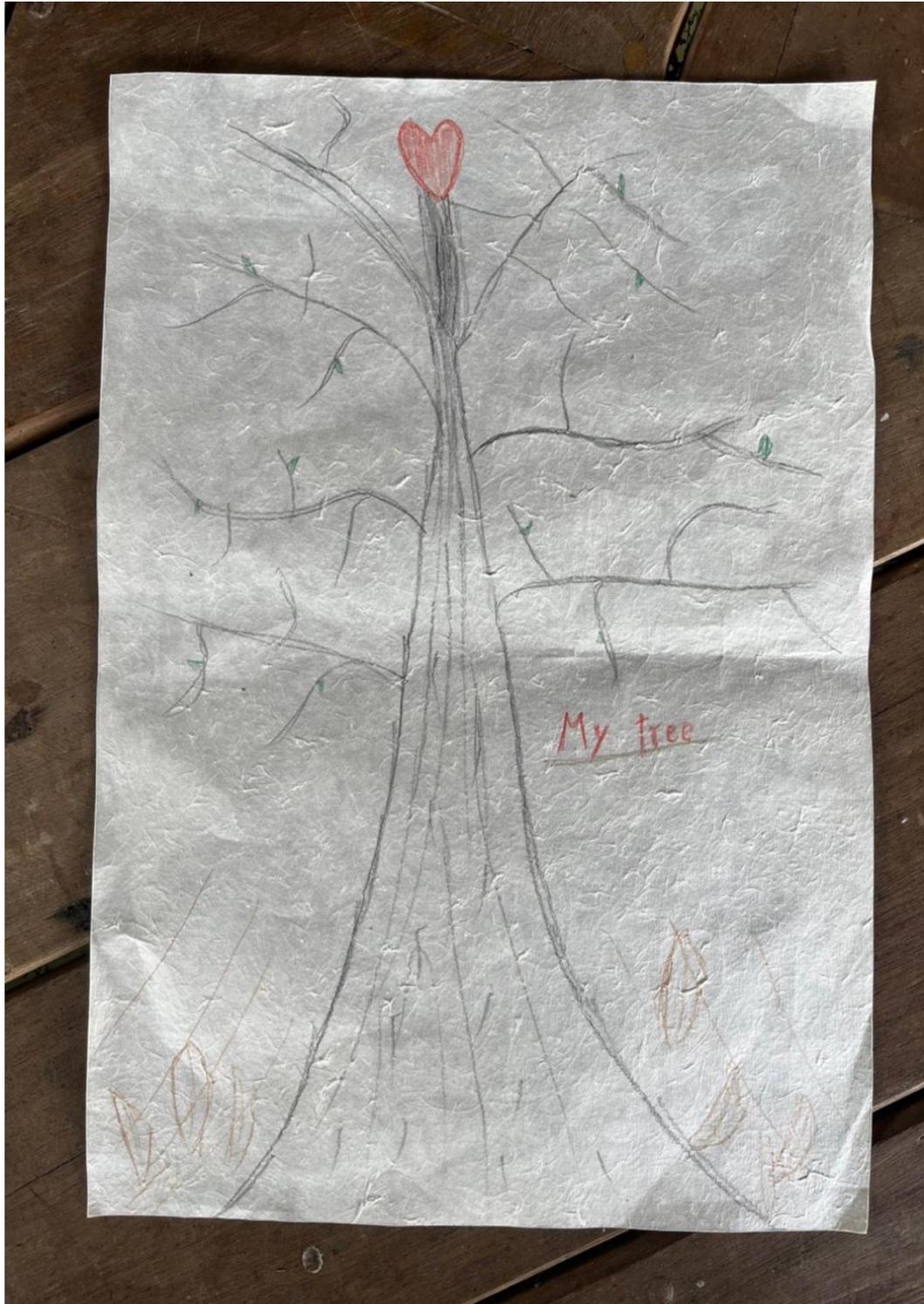
南木美咲 「愛に包まれた1週間」

保泉日向子 「世界は愛で包まれる」

三浦さくら 「愛とは何かを模索するスタディツアー」

山中悠夢 「愛に包まれた7日間」

My Tree



こちらが私の描いた My tree です。まずは My tree についての説明から行いたいと思います。

私の My tree はまず頂点、一番大切な部分に「愛」の象徴である赤いハートがあります。これは今回のスタディツアーで身に染みて感じることでできた暖かい愛を示しています。どんな人間も愛し、愛されて生きてきました。そのためどんな木の状態であっても愛は一番上で目立っていてほしいという思いを込めて、赤いハートを木の頂上につけました。そして私の My tree は葉っぱが一枚も育っていません。それは私がまだ自分のやりたい事、進みたい道が決まっていないからです。しかしそれはマイナスなことではなく、これからさまざまな事に興味を持てるという最大限の可能性を秘めているということを表現しています。たくさんの枝に小さなつぼみが現れています。このつぼみたちはスタディツアーで学び、新しい考え方やさまざまな生き方を目の当たりにして衝撃を受けたことの象徴です。たくさんある中から二つ例をあげると、明日香さんの「学びには三つの学びがあり、挑む勇氣、自己表現、受け入れることがある。」ということや、イブサリの「悪い状況の時はその環境から出る、外に出て客観視する事により何が悪いことの問題だったのかが分かる。」という普段では考えつかず、周りからも言われることのない言葉のことです。私にとって学びとは机に向かって学習する、学んだことを人に教え、さらには自分で活用することだと考えていました。日本で行われている机に向かう形の教育は、頭だけで理解をさせるものであって学んだことを表現できていないのだと気付かされました。実際に例を挙げると英語を話すことができる人の多くは、英語力は将来の就職に役立つから英語を話せるように努力した人が大半であると思います。しかし私は明日香さんのお話を聞き、まずは日本語で表現をできるようにしてから英語でも表現をできるようにしよう、と思いました。英語は就職に役立たせるものではなく、世界の人々とコミュニケーションをとる一番の手段であるという認識を持って英語学習に取り組もうと考え方を変える事ができました。そしてイブサリの言葉で、私は今まで悪い状況の時はその場において、良い状態になるまで他のことをして気を紛らわしながら時間が経つのを待っていました。しかしこれは「逃げ」であることだと気が付きました。今までは外に出て客観視することが「逃げ」だと思っていましたが、それは間違った考え方であり、客観視することで問題が発生した理由が分かり、解決方法を考える事ができるため外に出る事が大切なのだと気が付きました。例として挙げた二つ以外にもたくさんの衝撃を受けました。そして My tree の下の方にある枯れた葉っぱは私が日本に 18 年間いて作られていた常識が壊されたことを表しています。壊された常識としても二つ例をあげます。一つ目は「今しかやれないことを優先して行い、これから長期的にできることは後にする」ということです。日本ではやりたい事が見つかって、就職をする事が第一優先事項であると風潮があります。しかしやりたい事が見つければ就職するより先

に自分の興味があることを、追求し満足してから就職をしても良いのだと気がつかされました。二つ目は「子供が学校に合わせるのではなく、学校が子供に合わせるのである」ということです。日本では不登校の子どもたちが多くいます。その子どもたちが学校に行けないのが問題なのではなく、学校自体が子どもたちを学校に行きたいと思わせなければいけないのだと気が付きました。学校というのは強制的なものではなく、楽しんで自ら行くところであるという認識が私の中で薄れていました。これらのように日本にいる内では気づくことのできなかつた、決められた常識というものをバリ島で壊す事ができました。しかしこの壊された常識は、決して悪いものだけではありません。この枯れ葉たちはゴミのような存在なのではなく、良い栄養成分として私の中で循環していく存在になると考えています。そして私が今まで日本で学んできた事も決して無駄なことではありません。しかし自分の将来の選択肢を増やすために多くの経験値をし、枯れ葉も循環を行い強く力強い木になってほしいと言う願いを込めて私はこの My tree を制作しました。

7 日間の変容

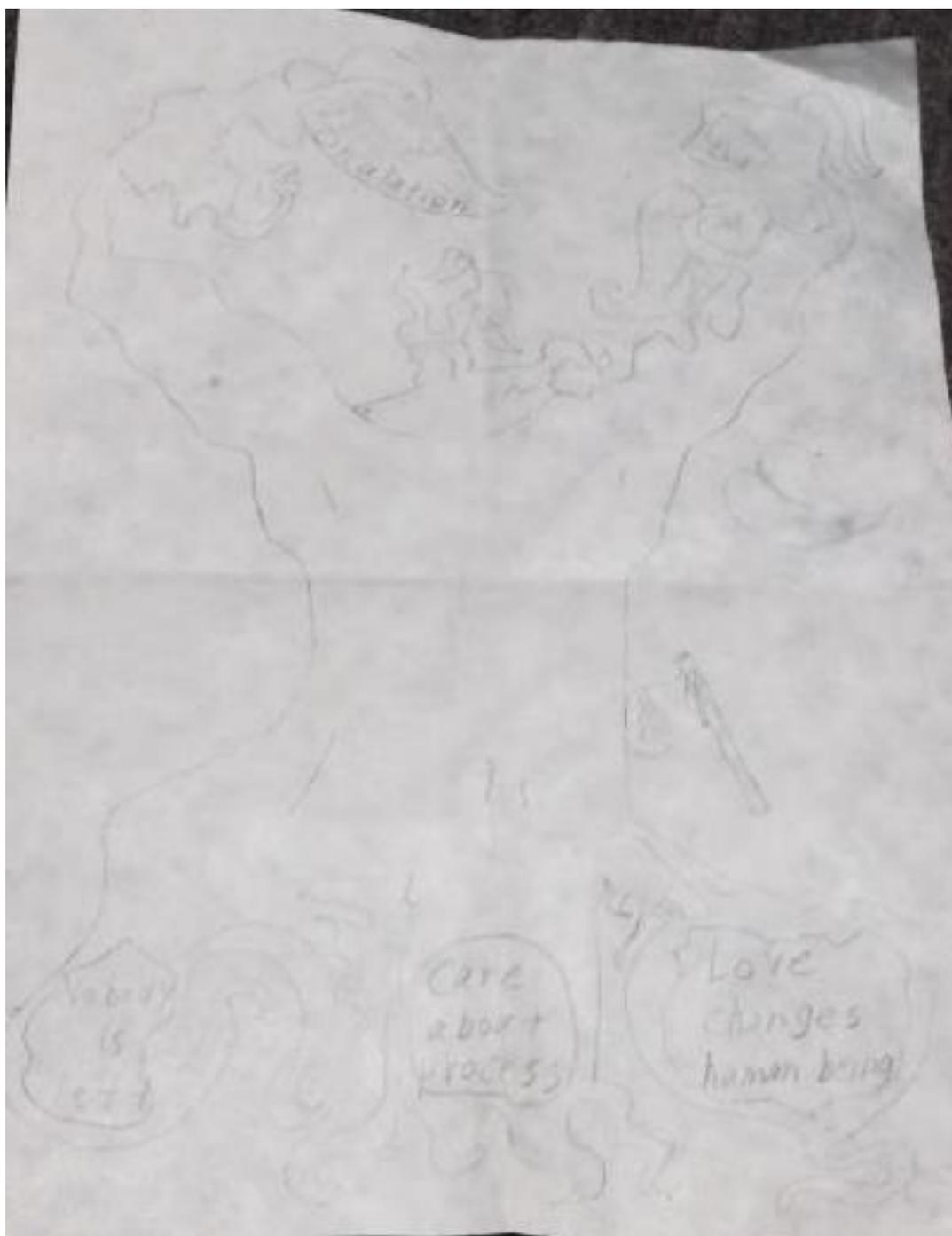
私は現在大学1年生で、このスタディツアーのインドネシア・バリ島が人生で初めての海外でした。私は今まで18年間生きてきて、人生選択がある際には毎回楽で安全な道を進んできたという自覚があります。そのため今回のスタディツアーに参加しようと思ったことはとても大きな一歩だったと実感しています。スタディツアーに応募した際には友達もいなく、本当に孤独な状態で応募しました。なぜこんな私が応募したのかというと、私の中に「焦り」が生まれていたからだと思います。過去の私は大学生になれば自分のやりたい事が自然と見つかるだろうと考え、聖心女子大学への入学を決めました。しかし授業を受けているだけでは自分が何の学びを深めたいのかわからず、2年次からの学びに焦りを感じていました。明確にやりたいことはないけれど、授業で少し興味を持った発展途上国に行ってみたいという気持ちだけで参加しました。そして実際にバリ島に着いた瞬間から、本当に世界は広く日本とは全く違うものなのだと体感しました。My treeの説明でも述べたとおり、世界を自分の体で体験することで今まで当たり前だと思っていた常識が全く違うものであったことを実感する事ができました。

私はバリ島に行って驚いたことがいくつかあります。まずひとつ目は町の人々の温かさです。見知らぬ外国人が数十人で歩いていてもみんな嫌な目をせず、とてもニコニコしながら私たちを歓迎してくれました。これは日本だとあまりみる光景ではなく、日本人は自分や周りとは異なっていて、目立つ人に対してすごく嫌悪感や珍しいものを見るような目で見ってしまうことが多いと思います。これは日本が個性を尊重せ

ず、皆が皆同じである事を正しい事だと思っているのだと感じました。しかし個性がないということは良く言うと現状維持ではありますが、世界が個性を大切にして成長していく中で現在の日本の状態では現状維持ではなく衰退してしまうと思います。個性が大切であると口では言いながら、実際に学校教育でも発言をするのを躊躇ってしまう、発言をすることで真面目な子、意識が高い子と思われてしまうという不安感があります。これは学校内の雰囲気も関係していますが、家庭内の教育にも関係があると思います。日本の子育てとバリ島の子育てで違う点は子育てをする規模が違うと感じました。日本の狭いコミュニティとバリ島の広いコミュニティでは価値観が大きく異なり、狭いより広い方が育て方としても開放的に成長する事ができると感じました。子どもたち同士はもちろん、大人と子供の距離感が近く、近所の人も皆家族同然のように暖かい雰囲気をバリ島では感じました。やはり多くの愛情を受けて育つことは本当に大切なことであり、愛は与えたら与えただけ帰ってくる、と言うイブロビンの言葉は本当に全世界で認識されるべきものだと思います。愛というものは与えられて嫌な気持ちになることはありません。与えた側ももちろん良い気持ちで愛を与えています。誰も傷つけることなく、愛に関係したものは皆幸せになる事ができます。日本は愛というものにあまり親近感がなく、「I love you.」「愛してる。」という言葉を使うことに抵抗や恥ずかしさを感じると思います。しかしこのたった5文字で人を幸せにする事ができるということを認識していけば世界は愛に包まれて、個性があることが当たり前という世の中になっていく一步になると思います。

私はこのスタディツアーでたくさんの事を学ぶ事ができました。その日に学んだことを自分の中で整理し切る事ができず、頭がパンクしてしまいそんな日々が続きました。7日間で聞くことができたお話は自分が日本にいる時では想像もできないような、過去の私とは無関係に近いようなお話でした。今までの私では自分と無関係な話は聞き流してしまう事が多かったけれど、自分で話を理解して頭の中で整理するということを行うようになりました。これは私の中では大きな進歩です。まだ自分の将来やりたいことは明確には決まっていますが、私の可能性は大いに広げる事ができました。さらに、人への感謝の気持ちを再認識する事ができ、忘れかけていた、純粋な人を愛する気持ちに気がつくこともできました。このスタディツアーに参加させてくれた家族、引率して下さった先生方、本当に素晴らしいプログラムを計画してくれたアースカンパニーの皆様、マナホテルのスタッフさん、ライフストーリーを聞かせてくれた方々、バリ島の住人たち、虫や動物や植物、雨や太陽などの本当に存在するもの全てに感謝しています。そしてスタディツアーに参加した仲間は本当に家族のような存在であり、これからも大切に関わっていきたい、と思う仲間です。この濃厚な7日間は、私の人生のターニングポイントになるものだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

My Tree



私がバリで学んだことは、循環と調和そして自分らしくあることが継続的に幸せでいられるための要素であるということです。私は、バリに来る前は幸せであることがどうして重要であるのか納得のいく考え方を持てずにいました。どうやって生きていくのかという人生のテーマに繋がるようなヒントも乏しい中で、自分の夢が何なのか問われる社会では気づけないことは多かったようです。しかし、自分のしたいことを突き詰めることで自分にしか生きられない未開拓の道を進み続けるインパクトヒーローたちを見て、私は変わりました。なんとなく夢を追うことは自分のしたいことを突き詰めることにはならないのです。My tree の説明を通して考えや気づきを共有できればと思います。

私の木の根は3つあり、木を支えています。1つ目は誰も置いていかないという意識です。日本はかつて先進国でした。そして今は環境を破壊している意識が薄いまま育った世代を中心に社会は成り立っています。もちろん私たちも例外ではありませんでした。泡立たない洗剤や冷房がないことに驚いてしまうほどには、環境負荷の高い生活で育ってきたためです。世界では、人間と自然も一緒に幸せになるための研究や開発と環境保護の両立という一見すると相反するテーマ同士の共存に注目が集まっています。このような新しい考え方を素晴らしいと感じて受け入れる人もいれば、端から聞く耳を持たない人もいます。私たち人間同士でも対峙する関係は多く存在します。

しかし、ここで考え方の違う人々も巻き込んで幸せに共存するということは忘れてはいけない考えになると思います。1つ目の価値観に示しました。2つ目は過程を重要視するという価値観で、これは PKP の創設者であるイブ・サリが教えてくれたことで私に根付きました。彼女は“何を食べているのか分からなければ、あなた方はその食事に感謝することはできないでしょう”と言ったのです。食べるという当たり前の行為にすら感謝の要素を見いだすことのなかった自身を恥じると共に気づいたことがあります。過程を重要視するということは、その過程で関係する人々を思いやるということでもあるということです。特に商品を購入する場面ではこの価値観は重要であることが明白になると思います。例えばシャツを1着買うにしても、それは誰が何を使って作ったシャツで、買うとどのような影響があるのか想像することで労働問題や安い材料のための森林伐採などの問題に気付けることもあります。

そして3つ目は愛は人間を変化させるという考え方です。寄付だけで運営され、無償の医療と食事を提供する病院“ブミセハット”は愛にあふれる産婦人科医のロビン・リムによって設立されました。彼女は、帝王切開を強いる医者に怒りをぶつけるのではなく愛を投げかけることでその医者の行動を顧みさせることに成功したのです。愛は人を変えるというフレーズは決して薄いものではなく、簡潔に愛の持つ強さを表しているのです。人を愛することは人と人の繋がりを持つことで、繋がり

は人に居場所を感じさせます。心地良いと感じる人が増え、心地良い場所が増えるサイクルは現代社会で広めていくべき動きだと思います。My Tree の葉は循環を表しています。これら3つの価値観が社会や世代間で循環することで視野を広げることができ、幸せになる機会が増えると考えています。最後に、木に斧が刺さっていることについて説明します。アースカンパニー代表の濱川知之さんは、“1度根付いた価値観を取り払うことは勇気がいるけれど、自分らしくいるために時には必要なことだ”とお話ししていました。価値観自体が自分ではないことを念頭に置いて、行動を起こしやすくなる言葉だと思います。私たちは、自分の中に根ざした考えすら切り倒して行動できることのシンボルとして斧を描きました。

Balinese Rock Beats

バリ島でのスタディツアーは私に多くの学びを与えてくれました。そして、とても幸せで心身ともに健康な日々でした。バリでの生活を一言で表現するなら、ロックだったと私は言いたいです。アーティストの間でもロックを定義づけることはできないとされていますが、私は“生の感情を自分らしくぶつける方法そのものがロックである”と解釈しています。スタディツアーではたくさんのライフストーリーを聞かせていただき、生の感情と何度も向き合いました。

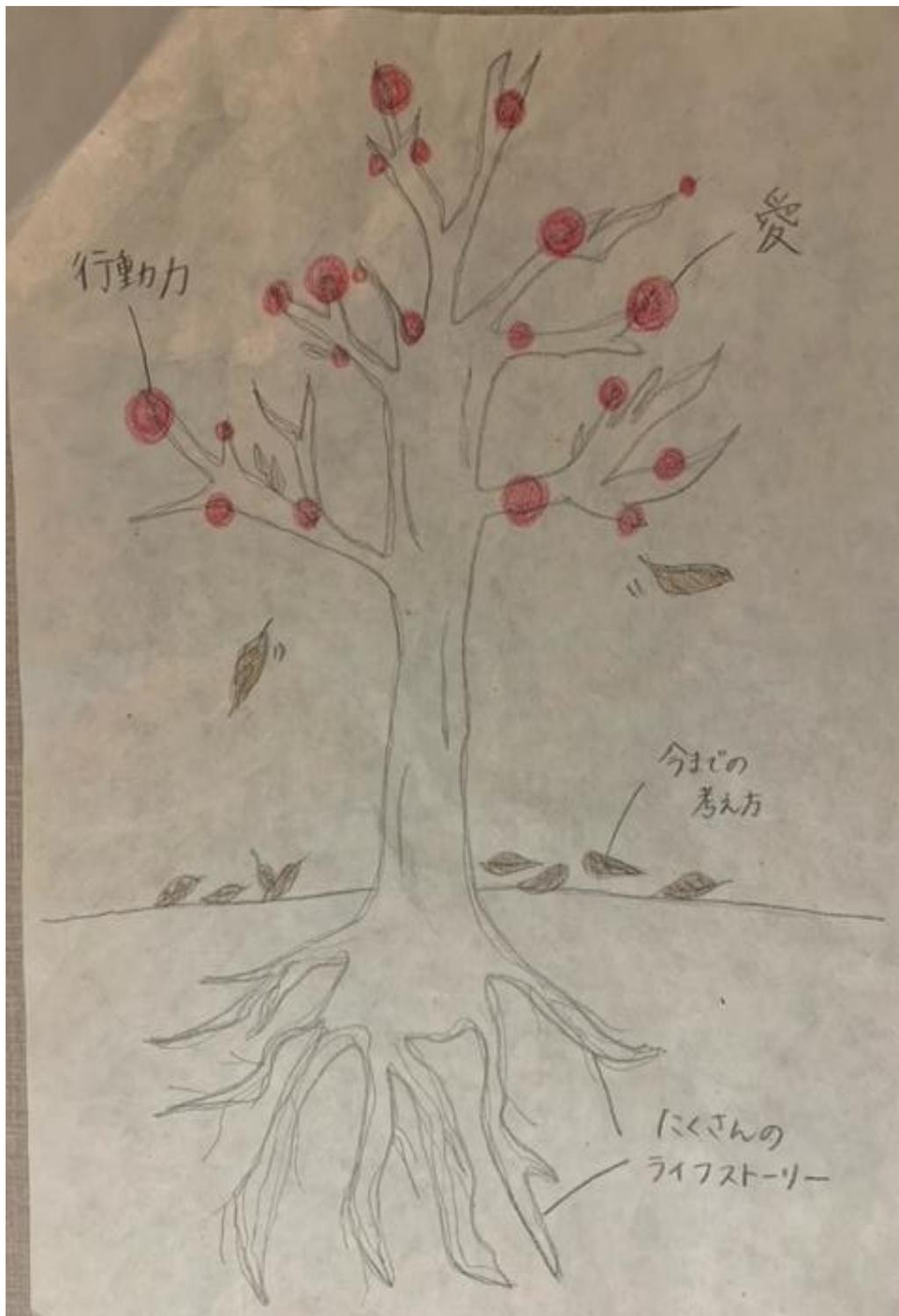
渡航前は well-being の重要性や循環することの意味、SDGsには先があることなどどれも自分の知識の範囲外でした。しかし、渡航を経て価値観や幸せに対する考え方が大きく変わりました。よく Mana ホテルで耳にした“エコは我慢するものではない”という言葉も私の価値変容を促した要素の1つです。バリ島に来てから最初の変化は、自分は本当は何がしたいのかという視点を持つようになったという変化です。それは、毎日のリフレクションタイムに自分の感じたことを素直に伝えることをしていたからだだと思います。余計な不安を抱えて自分で自分の言いたいことを抑制してしまうのは、もったいないことだと感じるようになりました。そして、仲間のリフレクションを聞いてその気持ちを受け入れることで感受性が養われる気がしました。誰もが思い思いに言葉を紡ぐ空間を、日本では体験したことがなかったからだだと思います。

日数が経ち、本当の豊かさについて考えるようになりました。特に、PKP というコミュニティセンターでは居場所があることの心地良さを理解できました。このセンターでは、訪れた人の年齢や背景を問わず、彼らのしたいことを尊重していました。また、社会的な弱者が自立した生活が出来るように仕事を探すサポートなども行われていました。彼女の働きで、心が傷ついてしまった人でも再び笑顔で過ごす日を迎えられた人もいます。PKP を立ち上げた女性は、家でも外でも休まることがない生

活を経験していることを話してくれました。彼女は人生の困難に絶望したのではなく、向き合ってきた強い人で、彼女から学んだことは今でも心に焼き付いています。そして私が長らく日本で感じていた依存心や虚無感は、本当に心地の良い居場所 がなかったことが原因だと分かったのです。日本では、「何をしたいのか、何が好きか分からない」という声をよく耳にします。私は、心の居場所がないために本当は苦しんでいる人の存在は多いのではないかと考えるようになりました。悩みは抽象的である程、解決に時間もかかります。そうだとしても、素の状態同士の間が向き合って話をするができる環境がもっと日本にもあれば状況は変わってくるのではない でしょうか。バリ島ではテレビを見ながら食事をするということは一度もなく、同じ卓の人と一日あったことや軽い相談をしながら食事をしていました。食事中は、身構えない場ということもあり、オープンに深い話をする機会も自然にありました。日本では同じ時間に家族で食卓を囲まない家庭もあれば、一緒に食事をしていてもお互い のことを話さない家庭もあります。もっと、人が人と向き合う場面は増えても良いのではないかと思います。そして、人と人が向き合うことによって生まれた心の居場所 はそれだけで将来への不安を軽減し、虚しさに苛まれる人を減らせるのではない でしょうか。 様々なライフストーリーを聞き、心を開いて生活するうちに私は問題の解決 の答えには共通するものがあると分かりました。まず、このスタディツアーでは SDGs の 先を思い描くことがテーマでした。SDGs の先とは、そもそも問題を起こさずとも循環できる社会にしていくことです。この考えをリジェネラティブといいます。社会で、主に生産と消費活動において全てが循環することで誰かを知らず知らずのうちに傷つけてしまうことを防げるのです。誰かを守るだけではなく、知ることによって自己防衛になることもあります。そしてこの循環には、過程を重視する姿勢が欠かせません。低賃金で人を働かせて作った服がファストファッションを成り立たせていると知れば、買いたいと思う人はそう多くはないと思います。誰が決めたのかも分からない美の基準に縛られて、石油を使用しているなど毒性のある化粧品を使い続ける選択 肢にも疑問を抱くと思います。私たちは、過程を見ずに結果だけを求めた世界の終わりにいます。消費だけでなく、教育の世界でも同じことが言えると思います。基本的に、学生時代は数値だけで勉強の出来を判断されます。しかしこの判断基準はあまりにも過程を無視しているのではない でしょうか。結果にたどり着くための豊富な選択 肢と道のりを始めに学ぶべきと考えます。オールイングリッシュの授業やスタディツアーでの会話では、“あなたはなぜそう考えたのか”という質問によって自分のアイディアを顧みる機会が多かったです。すると、より深く考えたり興味への追求心が加速させたりすることができました。何にも興味がない若年層は、過程を重要視した教育によって変わることができると思います。そして、目標や向上心によって活力に満ちていることは将来を考える何よりの機会だと思います。将来を思い描くことで、いかに問

題を起こさないかという意識も芽生えます。私はまず SGD_s の達成のためにバリ島スタディツアーで学んだ価値観を忘れずに、少しずつアクションを取っていこうと思います。学びをベースにアクションを起こすことで、この学びを実際の社会でも循環させることに繋がると考えたからです。新しい選択肢をありがとう！

My Tree



私の My Tree は気持ちの生まれ変わりを表現しています。はじめにバリに到着してホテルに向かう道を眺めていた時からすでに心を洗われた気分になりました。さらに、宿泊する Mana Earthly Paradise に到着し、たくさんの自然に囲まれた環境を目の当たりにすると、空気の味が東京と大違いであることに気付き、驚きました。私は、あすかさん、ともさん、亜子さん、サリさん、ロビンさん、千夏さん、そしてさゆりさん、ゲストスピーカーである7人の方のライフストーリーを聞いて、今までの自分の考え方が自然を壊し、人を傷つけることもあるということに気付くことができました。日本社会の中で生活していると、物を買う時にいかに便利で安く、見た目がおしゃれであるかばかりを気にすることが当たり前になっていて、その商品が作られる背景にどのような問題があるか、その商品を使うことが人的、環境的被害に繋がらないかをなかなか気にすることができません。私もその中の1人でした。そのような習慣や考え方をこの絵では枯れ葉で表現しています。私の葉の多くはお話を聞く中で落ち葉へと変化しました。7つのライフストーリーは私の木の根っこの部分に栄養として蓄えられ、以前の私の細く弱かった根は太く強く成長しました。また、私には以前から地球に優しい生活を送る大人になりたいという目標がありました。東京という非常に発展した都市に住む中では、無意識に便利さと引き換えに自然を壊してしまうことがあります。私はその習慣に飲み込まれずしっかりとした軸を持って生活したいという気持ちが今回のツアーを経てより強くなりました。その気持ちを太く長い根で表しています。

さらにバリ島に行って変わったのは「愛」についての考え方です。ブミセハット国際助産院にてロビンさんにお話を伺った際、無償の愛を与え続ける彼女に心を打たれました。今までの私は相手に何かをする時に心のどこかで見返りを求めていましたが、彼女はそうではなく、自分が愛したいから愛す、という考えでした。自分に利益があるかなどを考えず誰にでも愛を与える生き様に感銘を受け、私もそうになりたい、と私の木には愛の実が成りました。そしてもう一つ実で表しているのは「行動力」です。私はこれまでは失敗をしたくないという思いが強かったため何か新しいことに挑戦することはあまりありませんでした。それは失敗したらその時間は無駄だったと感じてしまっていたからです。しかし、そんなことはないという7つのライフストーリーから学びました。少しでも興味があるのならやってみる、失敗してもいいから挑戦してみることが一番自分の成長に繋がり、失敗にこそ意味があります。それに気づくことができた私は帰国後、以前から興味があった資格の勉強をはじめました。一度きりしかない自分の人生を豊かなものにするために必要な行動力を身につけられたのはとても大きな収穫です。

壊された当たり前

バリの自然に囲まれながら過ごした8日間のプログラムは見るもの、聞くもの、触れるもの全てが新鮮で生まれ変わったような気持ちになりました。現在コロナ渦で未だに行動制限が残るなか、ツアーを開催して下さったこと、オンラインではなく実際に渡航できたことに感謝いたします。今回のスタディツアーで私が一番強く感じたのは「当たり前とは何か。」です。日本で生活をしていると高層ビルが建っている当たり前、シャンプーや石鹸が泡立つという当たり前、学校は危険がないように整備された環境であるという当たり前などが私たちの中にあると思います。しかしそれは私たちだけにとっての、良くない当たり前であることに気が付くことができました。私たちが使っているシャンプーや石鹸が泡立つのは、人体にも環境にも良くない界面活性剤が使用されているからであり、それが使われていない環境にやさしいオーガニックの石鹸は泡立ちませんが汚れが落ちます。泡立たないと汚れが落ちていないように感じるのは私たちの単なる思い込みなのです。そして、今回訪問したグリーンスクールでは山道のように険しい自然の道がたくさんありました。日本の学校では子どもたちが怪我をしないように、生活する場所は綺麗に整備されています。しかし、すべてが整った環境で育つと自分でどうすべきかを考える機会が少なく、人生に困難があることを経験として学ぶことができません。安全な場所が良いという考え方も間違っていないと私は思いますが、子どもたちの成長を考えた時にどちらが子どものためになるかをじっくりと考えるべきだと感じました。

そして、もう一つ当たり前に関して気づかされたことがあります。それは「いただきます」という言葉です。私たちは食事の時に当たり前のように「いただきます」と言いますが、ただの流れ作業になっている人もいないのでしょうか。PKPでサリさんにお話を伺った際、出していただいたお茶に何が含まれているのかを当てるクイズが行われました。はじめはゲームとして楽しむものだと思っていましたが、サリさんは「食べているまたは飲んでいるものが何かを知らないと感謝する対象がわからないことになるから知る必要がある。」と教えて下さいました。その言葉を聞いて自分は今まで感謝の対象を知らないまま「ただ言っているだけ」であることに気づき、帰国後は行動を起こす前にその背景を考える癖がつかしました。

私は元々冒険をしない性格で自分から新たな行動を起こすことは今までありませんでしたが今回ツアーに参加したことで多くの気づきを得ることができました。そして、なかでもプログラムの後や、毎日の夜に行われる振り返り、気持ちの共有の時間が私を大きく成長させてくれましたように感じます。今回のツアーで初めて知り合ったメンバーがほとんどですが、それぞれ全員が自分のありのままの気持ちを共有し、新しい物の見方を知ることで自分の当たり前や考え方が単なる思い込みであることに

気づき、些細なことでも改めて考えさせられる機会を多く得ることができましたと思います。今回新しいことに勇気を出して飛び込んだことで、今までの何倍も視野が広がりました。周りの期待に応え、真面目な優等生でいることが正解だと思っている人は多いと思いますし、私もそう思っていました。しかし、そうではないことを私は知りました。「学ぶべきものではなくて学びたいものを学んでください。」これはロビンさんのお言葉です。うまく生きられるか、自慢の娘になれるかよりも、ただ自分のしたいことをするべきであることを知った今、私には以前よりも多くの生きる選択肢ができました。一生忘れることのできない今回のツアーに関わってくださったすべての皆さま、共に学んだ仲間へ感謝します。素敵な7日間をありがとうございました。

My Tree



私の「My tree」は約一週間のスタディツアーで学んだことを中心に、自分がこれからも大事にしていきたいことと次の世代に伝えたいことを描きました。まず、土の部分は二日目にお会いした駆け込み寺を創設されたイブサリの「困難や苦労は人生の肥料になる」という言葉を思い出して描きました。イブサリだけでなくさゆりさんのLife storyを聞いて感じたように、困難や苦労、失敗も自分の人生の糧になるのだと、過去があるからこそ今の自分があるのだと、過去を認めることができた言葉です。根っこの部分は、私を支える価値観として「好きなことをして生きていく」ということ

を考えながら描きました。五日目にお会いした現地で幼稚園・小学校を造られた日本人の千夏さんのお話の中で、昔夢が無かった千夏さんが「好きなことをすれば夢が見つかる」と言われたと聞き、今の自分に重なるものがあったので印象に残っています。枝の部分は人生でたくさんある選択枝や岐路を表しています。「Miserable way or Joyful way」というイブサリの言葉が、全ては自分次第であるということをも人生の岐路に立ったとき大事にしたいと感じました。木に生えた葉は繋がりを表しており、今回宿泊させていただいた Earthly mana paradise の飲み水は雨水をろ過して作られたものであったり、シャワーで流れた水が農作物を育てるときに使われていたり、排せつ物や残飯が堆肥になっていたり、自然と私たち人間はこんなにも繋がっているのだということを実感しました。また、現地人スタッフのエパさんのお家に行かせていただき、バリでは家庭や村、地域でのコミュニティの繋がりを大切にしているということも教えて頂いたことなどから、日本にはない繋がりの大切さを学びました。最後に風に乗っていく葉は、次の世代に伝えたいこととして勇気をもってチャレンジすることを描きました。今回のスタディツアーは楽しみという感情の半分、異例のコロナ禍での海外渡航や、英語を使って話すことなど不安に感じていた部分も多くありました。しかし、ゲストスピーカーのみなさんのお話やバリの自然の力で、不安だったことを忘れ、東京では不快に感じていたはずの葉についた雨水で体が濡れることや土で足が汚れることを自然と受け入れている自分に気が付きました。今回の経験から不安なことについて悩むより、勇気をもってチャレンジすれば大きな学びを得られると実感したことを描きました。

繋がり

バリで過ごした八日間はとても充実した濃い時間でした。昨年オンラインで参加したバリスタディーツアー。今年は実際に現地へ行き学ぶことができると聞き、行かない理由はありませんでした。昨年お話いただいた内容と同じプログラムもあったので「今年は生でお会いし、お話を聞くことができる」と楽しみにしていました。昨年参加した際、オンラインでありながらも深い学びを得ることができ、バリに想いを馳せていたつもりでした。しかし、実際現地に行ってみると自分は何も知らなかったのだということを感じました。例えば、観光業がバリに与える影響は良くも悪くも多いというのは知っていましたが、モンキーフォレストに行き、たくさんの現地の方が日本語で話しかけてくれたことで、バリは観光業に支えられていたということを実感すると同時に、観光業や観光客が与える影響を考えさせられました。ホテルのプールにたくさんの水を使ってしまうために農作に使う水が引けないこと、観光客のゴミ排出量が現地人と比べ3キロも多いことなど、バリは日本からの旅行者も多いため、同じ

日本人として申し訳なくなりました。また、お祈りの習慣があるということは昨年学びましたが、実際にお供えものがたくさん道端に落ちているのを見て、本当にバリの人たちはお祈りが日常の一部なのだと実際に行って身をもって感じました。

八日間の間にたくさんの力強く愛に溢れた方々と出会い、Life Storyをお聞きしました。中でも、さゆりさんとイブロビンにお会いできたことは強く印象に残っています。

さゆりさんとは昨年のオンラインスタディツアーの際に画面上でお会いしていましたが、画面越しでも伝わってくるやさしさと愛に胸がいっぱいになり涙をこぼしたほどです。六日目のプログラムの前に、二日目の昼食の時間に偶然お会いすることができ「本当に会えた！本当にバリにいる！」と自分がバリに来ていることを実感した出来事でもありました。さゆりさんのLife storyをそれぞれが自分の人生と重ね合わせ共感しながら聞いていました。Life storyを聞き終えると、今までのさゆりさんの経験が現在のさゆりさんそのものや、さゆりさんの愛とやさしさに繋がっているのだということが深く分かったと共に、自分の失敗や後悔など振り返りたくない過去も全て今の自分に繋がっているのだと前を向くことができた時間でした。

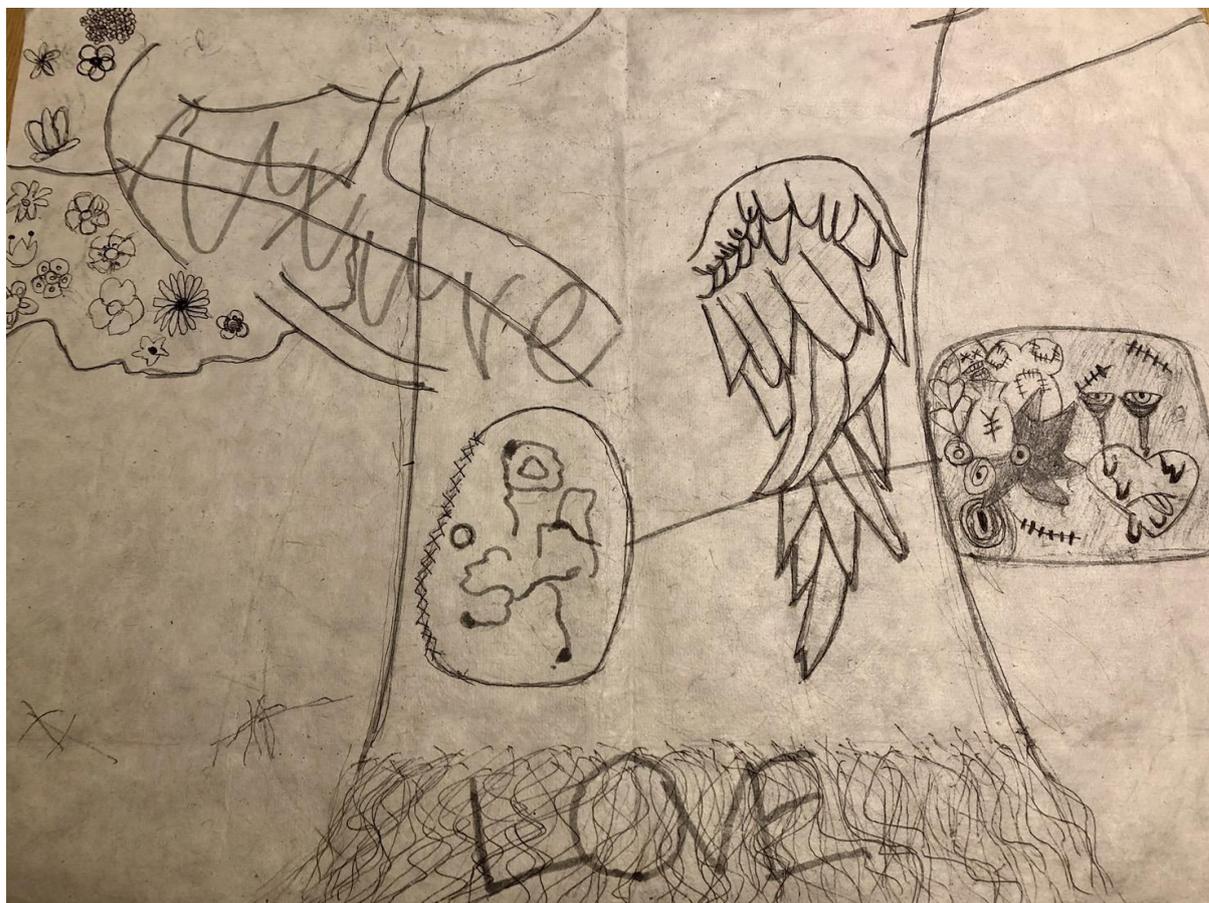
イブロビンには今年のスタディツアーで初めてお会いしましたが、昨年度の授業でEarth Companyが支援するImpact Heroの本を読んでいたため、どのような活動をされているかなど少しの情報は知っていました。実際にお話を聞き、出生後すぐにお母さんから引き離すことで知らないうちに赤ちゃんにトラウマが植え付けられていること、へその緒は自然に切れるまでつなげておかないと赤ちゃんに行く血液が三分の一にまで減ってしまうことなど、他にも、日本の病院や助産院がいかに赤ちゃんやお母さんの負担になることを行っているのか知りました。イブロビンが運営する助産院では、助産院としての役割のみならず、眼科や環境活動、若者への性教育を全て無償で行っているということを知り、とても驚きました。そしてさらに驚いたことは、冒頭お話をされているときに「私たちの代が起こした問題を解決できずに若者の世代に残してごめんなさい」と謝られたことです。これほどの偉業を成している方にもかかわらず、私たちに謝る謙虚な姿勢にグッとくるものがありました。また強く思い出に残っている出来事は、私がイブロビンの目の前に座っていたためイブロビンと「I love you」を、お互いの目を見ながら言い合えたことです。イブロビンは一回目に「I love you」を言ったあと、私に名前を聞き、私が答えると「Beautiful name」（綺麗な名前だね）と言ってくださりました。そのあとも「Beautiful eye」（綺麗な目）と「I love you」を何度も言ってくださり、イブロビンの目の奥から伝わる愛情を全身で受け取ることができました。これは二度とない機会で本当に幸せな体験でした。このことは一生忘れないと思います。

全プログラムを終えたあと冒頭にある My tree 作成と発表の時間があり、約一週間のスタディツアーで学んだこと、感じたこと、未来につなげたいこと等それぞれの想いを発表しました。そして、「SDGS のその先を思い描く」として、去年は「一人一人が自分事として捉えること」と書きましたが、今年も同じ「一人一人が自分事として捉える」ということを掲げたいです。冒頭にも述べた通り、去年のスタディツアーで分かったと思っていたことが全てではなく、今回実際に渡航し、プログラムに参加したことで、自分がいかに地球環境を汚しているのかが分かった一週間でした。また、どれだけ恵まれた環境にいるかも実感し、日本から出てこれまでの自分を客観視することで気づくことができました。自分がいかに地球に負荷をかけているか分かった今は、気候変動や環境問題を関係ない話として聞き流すのではなく、自分事として自分のできることから少しずつ取り組んでいきたいと思います。

そして、プログラムやツアーの充実度だけでなく、今回のツアーで大切な仲間と出会えたことも自分の中で大きかったです。約一週間で、最初は顔と名前が一致していなかったくらい他人だったのに、ありのままの姿を話してくださるゲストスピーカーの方々やプログラムを通して、最後には涙しながら本音を話せる仲間になっていました。コロナ禍で顔もよく分からないまま過ごしてきた大学生活の中で、深くお互いを知り合い共感することができた仲間を作ることができたこと、とても嬉しかったです。バリで、なんでも話すことができた仲間との日々を体験した私は、日本に帰ってきてから、日本の大学生活での発言のしづらさのギャップに苦悩を感じていました。しかし、バリでゲストスピーカーのみなさんが教えてくださった「周りの目を気にせず自分にやりたいことを貫くこと」を思いだし、自分は自分で良い、周りの目を気にする必要はないのだと前を向くことができました。

最後に、このスタディツアーに連れて行ってくださった家族、大学の先生方、また私たちのツアーのために尽力してくださった Earth Company の皆様に感謝の言葉を伝えたいです。このような貴重で素晴らしい時間を過ごさせてくださりありがとうございました。

MyTree



根っこは植物を支える役割を持っています。根っこと同様に私を支えているものは「愛」です。どんなことが起きたとしても私はこの先愛を絶対に失わないですし失いたくないと思っています。ブミセハット国産助産院のロビンが言っていた「愛のために生きないなら何のために生きるのか」という言葉が私の心に常にあった違和感の糸を解いてくれました。私はお金や名誉ではなく愛のために生きたいと思っていました。それが不可能なことなのではないかと自信を無くしているときに自分と同じことを考えそれを実践し、たくさんの愛に溢れ包まれている彼女と出会えたことで自信を持つことができました。

幹は現在の私を表しています。ここには「扉」、「翼」、「枝」がついており、それぞれ「過去」、「現在」、「未来」を表しています。まず「扉」について説明します。扉の中には私の過去が入っています。扉から伸びている線の先にある絵は辛かったことや忘れることができずトラウマになっているものやぐちゃぐちゃになっている感情を表

しています。記憶から消すことはできないため誰にも見えないよう扉をしめ幹に縫い付け保管しています。しかしこの過去たちがなければ今の私はいないので少しずつ向き合っていきたいです。次に「翼」の説明をします。今の私には翼が1つついています。本来翼は二つあって空を自由に飛ぶことができますが、今の私はまだ翼が一つしかありません。翼が生まれていない幹の左側からは枝が生えています。この枝は私の未来です。枝の先に咲いてる花たちは今の私が叶えたいと思っている夢です。木が花でいっぱいになったらもう一つの羽になります。日々増えていく夢を叶えていきたいです。今回 My Tree を作成することでスタディツアーで感じたことだけでなく私について理解することができました。何か大きなことに挑戦した時や5年後10年後にも MyTree を描き今の自分と比べることが楽しみです。

愛に満たされた日

コロナという大きな壁がある中で今回のスタディツアーは行われました。私は絶対にバリ島に行けるという根拠のない自信がありました。引率して下さったよっしー（永田先生）とめぐ（奥切先生）、Earh Company のみなさまに加え、この期間に出会った多くの方々とのご縁によって一週間を過ごすことができました。まずは多くの方々に感謝をお伝えしたいです。

バリ島での一週間は毎日素敵な人、素敵な言葉との出会いを運んでくれました。今後自分の人生を語る上で絶対に欠かすことができません。私は失っていたものを一つ取り戻すことができました。それは「自然」を愛する気持ちです。私たちが宿泊した Mana Earthly Paradise を一言で表すとしたジャングルです。この環境は私にとってとても居心地が良く安心感がありどこか懐かしい感じもしました。それと同時にわたしたち人間がこのような場所を地球から消しているという事実、日本が地球を守るための取り組みに対して他国よりも遅れているという事実、胸が痛みました。日本に帰国してから数ヶ月経過した今でも目を瞑ると包み込まれていると感じられるほど青くどこまでも広がる空、無数の葉っぱによって成り立っている木たちの偉大さ、鳥や虫の鳴き声、裸足で歩いた際に感じた大地のぬくもりなどを鮮明に思い起こすことができます。そして幾度となくこの場所に戻りたいと体が叫んでいます。

自分探しの旅という言葉がありますが今回のスタディツアーでこの言葉の意味が理解できました。日常とは異なる環境の中で新たなことに挑戦していく中で自分を見つけることができました。そして私は愛によって生かされていることを知ることができました。これから先、たくさんの愛を与える側として愛に溢れる人生を送っていきたいです。

My Tree



この希望に満ちた木の根は、土からではなく地球から張っています。スタディツアーの8日間を過ごしたマナでは、水と緑の大循環のもとで自然の生命力を肌で感じました。木の育つ源は、地球全体からエネルギーをもらい、無限の希望をもつことができるのではないかと感じ、このように表現しました。また、たくさんのエネルギーが地表に溢れ出し、熱くなって更なるエネルギーを生み出している様子をオレンジ色で表しています。

昨年、ヨシ先生がおっしゃっていた「葉が色づくように私たちの学びも染めていく」といった内容の言葉が、私の中でずっと心に残っています。この木の葉を黄色で表現したのは、今後の未来に無限に開かれた可能性に向かって、学びの色を変化させていく中途にあるためです。そして、幹から伸びているピンク色の芽は、これまで通りの生き方ではなく、他と違うことも恐れずに学びの道を拓く様子を、変わった見た目表現しています。

私は、昨年のオンラインスタディツアーで、これまでの固執した物事の考え方を変えるようなや新たな価値観と出会い、教育と環境問題の関連について関心を持ちました。そこで、今年のスタディツアーでは、お会いしたゲストスピーカーの方々や、訪問したタルワラ小学校でのお話を聞き、「人は一生学び続けることができる」ということに気が付きました。タルワラ小学校の千夏さんは、未来を創る子どもたちを「希望の光」として語り、私はその言葉が腑に落ちるのを感じました。教育学を学ぶ中で私は、日本における学校教育制度についての是非を考えて頭を悩ませることがあります。だからこそ、持続可能な教育環境でより良い学校を作りたいという思いから、教職課程を履修しています。未来の子どもたちが、それぞれに学びの色をカラフルに染め、希望に満ちた心で学び続けることのできる場所に関わることが、今後の私を支える目標となりました。これらの思いを精一杯表現した My Tree です。

変容

私にとって大切なことはなんだろうと、気づけばスタディツアーの中で、何度も自分に問いかけていました。スタディツアーでは毎晩、リフレクションという、それぞれの感じたことや考えたことを共有する時間がありました。私は普段緊張しやすいので、発言する際は話す内容を入念に考えなければ、うまくまとめることができません。しかし、その時は頭の中にあるものが、次々と言葉になっていました。私が話しているときに、真剣に受け止めながら聞いてくれる仲間がいるのを感じました。学んだことを言葉にすることで、自分が強くなるような気がしました。日本では、例えば環境問題のトピックを友人と話す機会はあまりないように思います。逆に言え

ば、そういった内容を話すことはいわゆる「意識高い系」で、ヘンなニュアンスが含まれているように感じます。けれども、リフレクションを通して心を開いて語り合った私たちは、解きほぐされて共に学ぶことができました。その後、大学で、友人となんの抵抗もなく社会のトピックを話したり、将来のことについて考えたりしました。スタディツアーを通して私は、とても素敵な仲間と出会い、変容したのです。

私が今回スタディツアーに参加した経緯についてここに書き留めておくことが、今後の私の人生の糧になると信じて、思いを綴ります。

私は1年半の間、硬式庭球部に入っており、大学生活の軸は部活動でした。スタディツアーの募集がかかったとき、部活にとって最も大切にしている夏のリーグ戦の時期と重なっていることから、参加は考えていませんでしたが、私にとって今大切なことは何かをじっくりと考え、最終的には部活動とスタディツアーの両立を選択しました。宿泊先のマナに着くやいなや、自然の豊かさや、細部までこだわったサステイナビリティの凄さに驚嘆しました。オンラインで見えていたところに本当に来た、というわくわくが止まりませんでした。マナは地面が土で、コンクリートはほぼないため、日中の茹だるような暑さが、雨が降ると急に寒くなるのです。東京では決してわからない変化でした。朝は、聞いたことのない生き物たちの鳴き声と、美しすぎるほどの朝焼けに心奪われました。8日間の研修で、信じられないほどの自分の内側の変化に驚き、嬉しくて、その中に葛藤もあり、喜怒哀楽の全てを表現していた気がします。同じ地球上に、温かくて雄大で優しいこんなに素敵な場所があるのかと思いました。スタディツアーでの「大切なことは何か」という問いは、大学生になる前に思い描いていた学生生活を実現したい、この経験を通して関心をもったことに全力で時間を使いたいという答えになりました。そして、退部を決断しました。私は、この選択が自分にとって正しいのかと一生懸命考えました。けれども、スタディツアーでの素晴らしい体験や自己変容を、何かに活かしたいという思いから、意思を固めることができました。そして現在は、硬式庭球部での経験とスタディツアーでの経験を糧に、新たな目標のために着実にアクションを起こしています。

最後になりますが、これほどまでに自分を変えてくれるものと出会い、退部を決断し、新たな目標を見つけられたことは、私にとって最高の選択であったと思います。さまざまな思いを抱えながらも、私を理解してくれた硬式庭球部の皆様への感謝は忘れません。いつも私が選択することを応援してくれる全ての方々へ、心より感謝申し上げます。これからの人生で、「私の木」をカラフルに染めていくことができるよう、学び続けていきたいです。

My Tree



この My Tree は、プログラム 2 日目朝のメディテーションウォークの情景をイメージして描きました。早朝の真っ青な空に輝く陽の光を受けた稲穂の朝露はキラキラ光り、鳥の声を聞きながら心地よい風を肌で感じたあの情景は、今でも脳裏に焼き付いています。朝の景色を描いた理由はもう一つあります。今回のスタディツアーでは、ゲストスピーカーの方々の話に深い感銘を受けた一方で「私には何もできないかもしれない」という不安も感じていました。しかし、人生 80 年を 24 時間に例える「人生時計」に当てはめると、20 歳の私はまだ朝の 6 時にいます。バリで得た学びとともに、現地で教わった「できない理由を探さない」という言葉を、まだ「早朝」にいる私がいつまでも心に抱き続けていられるようにとの願いを朝の景色に込めました。

木の根には、三つの言葉を書きました。私が大切にしたい価値観です。

そのうちの「Leave no one behind」は、SDGs の理念の一つでもあります。この言葉に強く共感しています。様々な理由から苦しい生活を強いられている人々を「誰一人取り残さない」世界を将来実現させたいと考えています。

また、「Harmony with nature」は「自然との調和」です。バリの 8 日間は、私にバリヒンドゥーの調和を感じる機会を幾度も与えてくれました。私はその都度、幼少期の原体験を思い起こしました。通った保育園では、園庭の小山を裸足で駆け回ったり、園の果実を自由に採って食べたり、虫たちを捕まえて遊んだりしていました。常に身近にあった草木や生き物がとても好きでした。その想いは、時間の経過とともに忘れ去られていましたが、スタディツアーが思い出させてくれました。

木の葉には、スタディツアーで得た気づきや学びを表す言葉として「Value shift」「Well-being」「Circulation」「Love」を記しました。プログラムを通じて、全ての生き物が幸せに暮らす Well-Being の大切さとともに、自身も自然循環の一部であることを強く意識しました。イブサリやイブロビンなどのゲストスピーカーをはじめとして、バリで出会った方々からは、温かな愛情を感じました。これまでの価値観は徐々に塗り替えられ、自分自身の意識が変容していくさまを実感しました。

最後に、風に乗る葉には「すべての子どもたちの笑顔を守りたい」との決意めいた想いを描きました。PKP センターでは、一緒に異なる言語でドラえもんの主題歌を合唱するなど、机上の交流ではない心の交流ができたと考えています。社会的弱者である PKP センターの子どもたちの屈託のない笑顔は、今でも私の記憶のなかに鮮明に残っています。そして今では、バリをはじめ、世界中の子どもたちの笑顔を守ることに貢献できる仕事に就きたいと考えています。

バリで芽吹いた私の「夢の木」

バリ島スタディツアーはこれまでにない深い学びを経て、価値変容したとても意義深い 8 日間でした。

バリから学び得たものは、「循環」の価値観です。バリヒンドゥーには「トリ・ヒタ・カラナ」という「神と人、人と人、人と自然」の調和を重視し、これによって人々は幸せに過ごすことができるという固有の価値観があります。私はこのスタディツアーを通して、自身が自然循環や調和の一部であることを何度も実感しました。また、バリの人と人との強いつながりや人々の調和を目の当たりにしました。これからは、自然循環と調和し、環境に優しい行動を取っていきたいと考えています。さらに、人との関わりの中かで、ゲストスピーカーの方々のように私も周囲の人たちに愛情を分け与えられる存在になりたいと思います。

加えて、アースカンパニー共同代表のトモさんがおっしゃっていた「Be Do Have」の生き方を指標にしていきたいと考えています。私だけの個性を大切に、自分がなりたい姿になれるようにアクションを起こせる揺るがない生き方をしていきたいです。

このスタディツアーでは、帰国してからも自分の価値観が変わっていくさまを実感するほどの数えきれない学びがあり、自分のこれからの人生の指針になるような考え方や価値観にも出会いました。まさに夢の木が大地に根を下ろし、これから成長を遂げるように、興味関心の範囲と今後挑戦したい事柄が広がるきっかけになりました。

この貴重な経験を得られたことに感謝し、バリの学びを活かしていきたいと考えています。

My Tree



マイツリーを描くとなつてからどのように描こうか悩んだのですが色鉛筆を握ったらずららずと描くことが出来ました。木全体を黒い緑で囲うことで周りから何かを言われても変わらない、私の強い気持ちを表現しました。そして木、葉を含め全体的な色合いを薄くしましたが、木の根っこの部分を濃い色にすることで、私の大切な価値観である、「自分の意思を保つこと」の意思の強さを表現しました。また今回のスタディツアーを通して、形は違うけれど沢山の愛を知ることが出来ました。なので、色々な色のハートを書きました。マイツリーの葉の部分を私の心と仮定して、沢山の愛の葉を付けることで私の心の中にある「愛」を表現しました。ハートが一色でない理由は家族に対する愛、友人に対する愛、動物に対する愛など様々な対象があるので色を変えて表現しました。そして風で飛んでいるハートは、私が誰かに愛を分け与え、そして誰かの居場所となった時の愛を表現しました。その愛は、人や時と場合に応じてどんな形かはわからないので、敢えて色を塗らずに表現をしました。





愛の循環

今回このスタディツアーに参加してみて元々知識・関心のあったSDGsに関してさらに新しい知識を得ることができました。manaに宿泊し、私自身が環境の循環の一部になることができ、私にとってかけがえのない約七日間になりました。夜寝る前に聞こえてくる虫や動物の声は絶対に東京では聞くことが出来ない特別なハーモニーでした。また、私にとってバリで過ごした時間は東京で過ごす時間と同じには思えないほど、ゆっくりとした濃い時間でした。

バリ島で出会った環境のため、誰かのために活動をしている皆さんのお話をお聞きしてから新たに気づき学んだことがあります。それは、活動している皆さんが溢れるくらいの形の違う愛を持っていて、その愛をただ持っているだけではなくその愛を他に循環させているということです。また、アースカンパニーの皆さんをはじめとする色々な方のライフストーリーを聞いて、今までの私自身の生き方・考え方についても考える良い機会になりました。

特に、望月さゆりさんのライフストーリーに出てきた「心の居場所」のお話がとても印象的です。そして、私にとっての「心の居場所」を考えた時、思い浮かんだのは紛れもなく家族です。『何があってもどんな時でも、家族は1番の味方だよ。』と言い、嬉しい時、悲しい時、どんな時でもそばにいて話を聞いてくれ、私を19年間ずっと支え続けてくれています。このスタディツアーに参加したいと母と父に伝えた際も1度も否定的なことを言わずに『貴方のやりたいこと、夢のためなら行っておいで。』と、笑顔で見送ってくれ私のやりたいことをいつでも応援してくれます。家族といっても私とは違う人間で私にいつでも寄り添ってくれるのは当たり前ではないことに気

づかされました。私は家族と呼ぶことができる「心の居場所」があることが当たり前になりすぎていましたが、今回のスタディツアーで家族のありがたみに気づくことができました。また、私にとって「心の居場所」が家族であるように私も誰かの心の居場所になりたいとも思えました。生きていく中で「こんなこと言ってもしょうがない。」と、思うような出来事がいくつもあります。ですが、そんな事を話してもらえよう人でありたいです。そうすれば、私が愛の循環の一部「心の居場所」になれると思いました。

また、「1日3万5000回の選択を大切にしてほしい。」という話を聞いた時から選択をする事について考えていました。私は考えていく中で、選択するということは大人になるために避けては通れない事、だからこそ選択をする時には大切にしてほしいということだと思いました。私は今日まで昼は何を食べるか、といった些細な事から自分の人生を大きく左右する進路選択などのようなことまで様々なことを選択してきていると思います。これから先もっといろんな経験をしていく中で大切なものと大切なものを天秤にかけて選択せざるを得ないことがあると思います。その時に直感を信じつつも、慎重に選択したいと思えるようになりました。

コロナ禍が続くこのような時代の中でこのような私自身を見つめ直す素晴らしい機会を与えてくれた、大学、永田先生、めぐ先生、アースカンパニーの皆さんに感謝しかありません。そして、約1週間の濃い時間を共に過ごしてくれたみなさん本当に有難うございました。





英語文化コミュニケーション学科2年 藤原加奈子

My Tree



私はバリ島の文化や宗教、現地の方々との出会いから、インドネシアの社会問題や世界規模の問題に向き合いました。この貴重な時間は、同時に自己内省や日本が抱える山積みの社会課題に、幾度となく意識を向けた時間でもありました。日本の課題を挙げれば枚挙に暇がないですが、「人間同士の調和」「人間と自然の調和」の欠如が歴然としているのを実感します。因みにこれはバリ・ヒンドゥー教のトリヒタカラナにある「人間同士の調和」「人間と自然の調和」「人間と神の調和」というバリ島で学んだ宗教観を顧慮したもので、三つのハーモニーこそが幸せの源だという教えのことで、そのため My Tree の創作では、バリ島で感受したこうした日本の課題点や調和のとれた未来への想像をかたちにしました。左の写真の絵の中央に描いたのは、日本の四季を象徴した大木です。連日の異常な猛暑や暴風雨、自然災害、人為的な自然破壊から「人間と自然の調和」が失われつつあることを危惧しました。そこから日本が持続的に季節の移ろいを嗜み、四季折々の旬の素材や景色、風情を味わうことのできる未来に想いを募らせました。私がバリ島で強く印象に残っているのは、ブミセハットを設立した助産師、イブロビンが仰っていた「自然界に不要なもの一つもない」と言う言葉です。この言葉を受け、木（葉、枝、幹、根、）や土など自然の有難さを豊かな色彩で表現し、春の葉からは人や動植物誕生の喜びを表す命のハートを縁取りました。更に「人間同士の調和」についても根や幹、枝によって表すことができました。コロナ禍での自粛生活から社会の分断が加速度的な進行が問題になっています。安心できる居場所の存在は社会への帰属感や人との心の繋がりを感じられる必要不可欠なものだと感じています。そこから根が地面の底を這い、木の根や土と繋がり合うことで、「孤独や寂しさで苦しめない社会」や「社会保障の整った社会」の創造に想いを込めたいと思い、描きました。カラフルな色彩からは、根から吸収した栄養分が循環しているのがわかります。私たちが依拠する場所、人、物からもたらされた「愛」「希望」「安堵感」は葉の先端まで送られています。それによって木（自分）全体が支えられることは、生活の充足感の象徴だと思います。それらの受け取った「愛」「希望」「安堵感」を今度は他者や次世代の若者に与えていきたいという未来への想いもあります。

バリ島スタディツアーを終えて

異なる風土で過ごした約一週間は、表層的な理解から、五感を刺激された思考によってより深い理解と感受性を養い、成長することができました。このような機会をつくって下さった永田先生、奥切先生をはじめ、アースカンパニーの方々、現地でお世話になった方々、そして家族に感謝申し上げます。私は今回のスタディツアーの経験

から、日本でしばしば議題に挙がる環境問題や貧困問題に於いて、科学的な方法論で全ての問題が対処できる訳ではないと思い、形而上学的なアプローチから向き合うことも決して無駄なことではないと感じました。環境問題や貧困問題などの大きな問題に直面した時、これらの問題を一個人では解決できないと思うことがあります。

SDGs への社会的関心が高まる一方で、SDGs ウォッシュや環境問題を解決することは無意味であると謳われてしまう勢いも増えています。そこには確かにある意味正しい側面があり、そう言ってしまう企業や政策の実態も持ち合わせているため、このような社会課題に「関わらない」という判断は手っ取り早く、簡単であり、更には賢いことだとすら感じてしまうかもしれません。しかしバリ島での日々の中、無意味なことはあるのだろうかと思考しました。メディテーション・ウォークで見た朝の田園風景からは、太陽に照らされた朝露と蜘蛛の巣が光輝いていました。環境に配慮したマナホテルでの生活、グリーンスクールで初めて体験したコンポストトイレ、ブミセハットや PKP でお話を伺った深い愛と強い心を持った女性たちの姿。私の脳裏に刻まれたのは単なる映像の記憶ではなく、音や匂い、触感などすべての五感で体感した色濃い時間の記憶です。個人にできることは必ずあると確信しました。日本に帰国してからは、バリ島との違和感を大切にし、忘れない。このことが私のできる第一歩であると思いました。今回私がスタディツアーに参加できたのは、多くの人の支えや「SDGs のその先に想いを馳せる」というコンセプトに探求心が惹かれたからです。しかしより根本的なことを言えば、自身が貧困や家庭環境に悩むことなく、このような選択をしたいと思える心の余裕と恵まれた環境があったからです。そのことを再認識し、行動に移すことのできない人と分裂することなく、自分なりに出来ることをし続け、今まで受けてきた恩恵を周囲にも還元出来たらと思います。

My Tree



私はたくさんの果物たちが実っている木を描きました。この果物は私たち人間を表しています。なぜ人間を果物に例えたのかというと、果物は色や形が異なってもそれ

ぞれの良いところを出し合いながら美味しい果実を実らせているからです。世界には色んな人がいて、言語や人種、宗教それぞれ人によって違うけれど、この一つの木から成っている果物のように、みんなが共生し合いながら暮らしていける世界になってほしい、そのような願いを込めて彩り豊かな果物を実らせました。

今回のスタディツアーで訪れたタルワラ小学校、私はそこで背の高い立派な一本の木を見つけました。その木は、木の上の方にピンク色の花がたくさん咲いていたのです。おひさまの光に照らされ、花たちがキラキラ輝いていて、その花たちはまるでタルワラ小学校で生活している子どものようだな、とその時感じました。タルワラ小学校の希望に満ちた木を思い出しながら、My Tree の制作にあたりました。また、ジャングルのような場所で学校生活を送っているグリーンスクールの子どもたちが忘れられません。きっと、この子どもたちは、動物や虫を怖がることなく、自然たちと共にこれから生きていくのだろうと感じました。それは大人になっても変わらず、生き物たちを大切にする心を自分の子どもにも孫にも受け継いでいくのだと思います。

今回の旅で自分自身が吸収したものを、風に吹かれている葉や花びらに例えました。葉や花、果物の種はいつかは地面に落ちてしまうけれど、それで終わりではなく、年月が経ったらまた新たに果物の木が芽生えて、木たちの思いが受け継がれ循環していったら素敵だなと思い、このように土に還っていく葉を描きました。「平和の循環」を想像して、地面からずっしりと生えている根っこを描いています。私が描いた My Tree の土は茶色ですが、本当は虹色なのではないだろうか、と描いている中で考えつきました。色んな種類の葉や花、種が土に還った時、地面は彩り豊かな虹色になっているはずです。そして年月を重ねて、地球にたくさんのエネルギーを送ってくれるのだと気付かされました。

私が考える一番の幸せは「誰もが青空の下で平和に暮らせる」ということです。この思いはスタディツアーを通して改めて感じる事ができたのと同時に、私の価値観でもあると考えることができました。バナナやブドウ、リンゴ、色々な果物(人)が一つの木に成って花を咲かせて実になる＝これが平和なのではないかと思えます。人間だけではない、植物や動物たちすべての生き物たちが豊かに暮らせますように。

バリでの出会い～私の原点に～

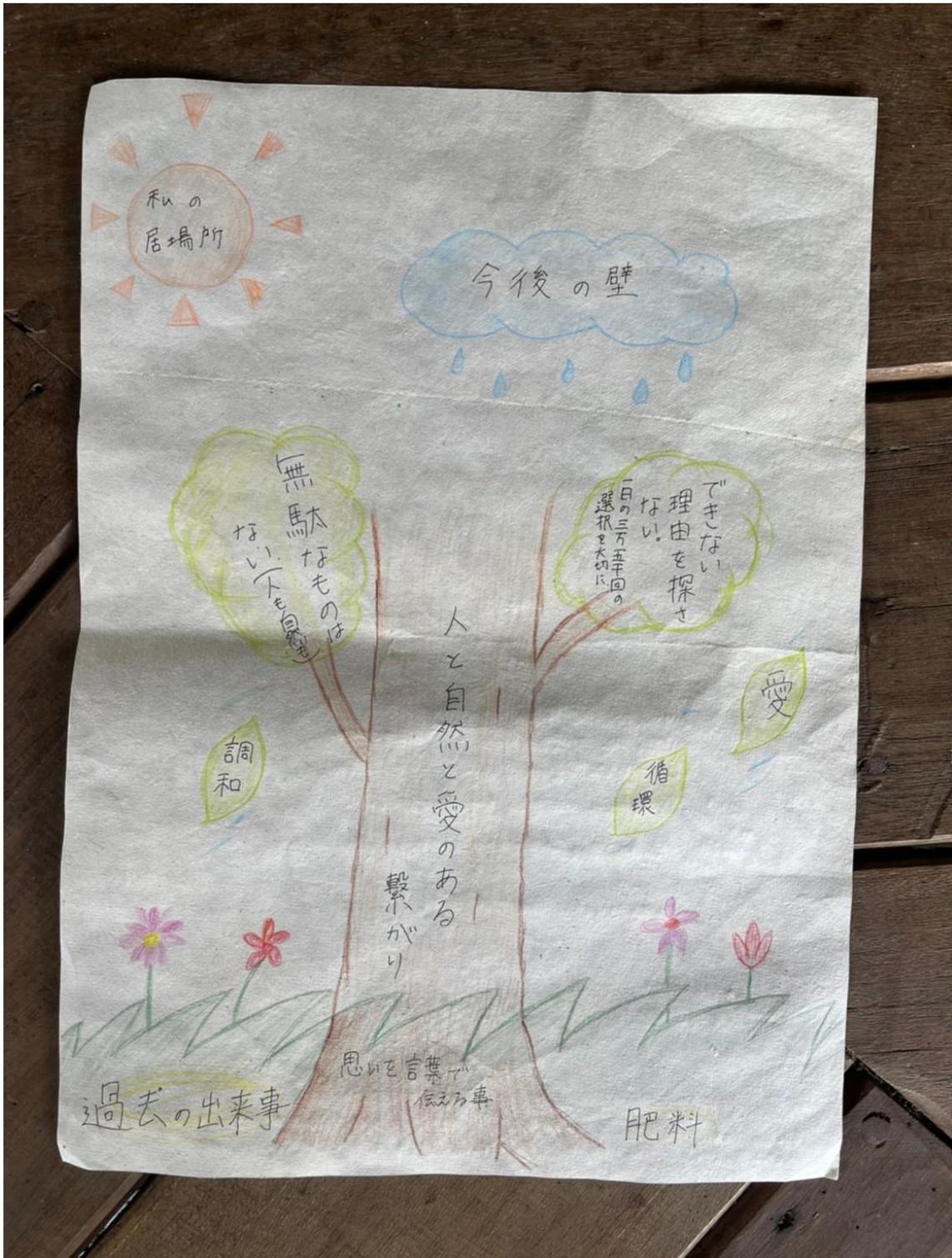
SDGs や環境問題を現地に行って学びたいという気持ちから始まったこのスタディツアー、今までに体験したことのない学びであふれていて私のかげがえのないものとなりました。緑豊かな自然と生き物たちの鳴き声に囲まれて過ごした8日間、そして何よりも一番心に残っているのがバリの方のあたたかさです。マナホテルのスタッフ

の皆様、PKP で出会った方々、道端ですれ違う人、みんなが私たちを笑顔で迎え入れてくれたことが忘れられません。

今回の旅で印象に残った言葉、それは「未来の社会に立ち向かえるような子どもを育てる」という言葉です。将来の夢がまだ定まっていない私は、将来のヒントになるものを探したい、そのような思いを胸に抱きながら8日間過ごしていたのですが、その言葉を聞いて、将来のヒントが少し見えたような気がします。これから生きる子どもたちの未来を明るくできるように支えてあげたい、誰かの心に寄り添えるような大人になりたいと強く感じました。多くの方から貴重なお話を聞く中で、自然と涙がこぼれたこともありました。今考えてみると、それは愛にあふれた方の考えを直接聞くことができ、その人のあたたかさに触れられたからなのだと思います。また、このスタディツアーで「幸せ」について自身で考えることが多くありました。日本で生活していたら、当たり前であるが故に気付かないことも多くあります。バリ島で生活する中で、いのちの大切さ・家族の大きさを改めて感じました。

さまざまな体験をさせていただいた8日間、日本に帰ってきた今、あれは夢だったのではないだろうか？と何度も感じます。でもこれを夢にせず、学び得たことを一つひとつ実行していくことがスタディツアーに参加した目的なのだと思います。永田先生、あこさん、ともさんを初め、たくさんの方がこのツアーに協力して下さったこと、そしてコロナ禍であった中、スタディツアーに参加できるように支えてくれた両親に感謝します。この旅を私の原点とし、これからを精一杯生きていきたいです。

My Tree



私の My tree の特徴は、カラフルなところですよ。なぜなら、私はカラフルな人生を歩みたいという思いがあるからです。生活や感情、物、自然、人、全てがカラフルでみんなが唯一無二な存在である世界で生きたいという思いを表すためにカラフルで明るい My tree にしました。地の部分は今までの出来事を表しています。サリさんが過去の出来事があるからこそ今の自分がいると話されていました。私は過去の自分も今の自分も大好きです。その気持ちを表すためにお花を咲かせました。空には太陽と雨雲があります。今後、大きな壁ができたとしても、やがて雨となり私の地となることを表しています。そして、また素敵なお花を咲かせてさらにカラフルな My tree となっていきます。

太陽は私の居場所を表しています。太陽が光を当ててくれるお陰で、自然も成長します。私も自分の居場所がちゃんとあるからこそ、安心してチャレンジができ成長することができます。そして、根の部分は私を支える価値観を表しています。私にとってその価値観とは「思いを言葉で伝える」という事です。私が過去の自分も今の自分も好きなのは、毎日愛情表現をしてくれる両親のお陰だと思っています。自分の中でも大小問わず感謝の気持ちは常に相手へ伝えることを心がけています。そうすることで、互いに幸せな気持ちになります。いつ何が起こるか分からない世界だからこそ、後悔しないよう思いを言葉で伝えることを大切にしています。この価値観をもって、今回のスタディツアーに参加し、如何に愛のある交わりが大切なのかを実感しました。ロビンさんがお話されていた「生まれてきただけで勝者でありダイヤモンド」という言葉のように、この世に必要な人はいないと強く思います。そして、それは自然も同様に必要な木や虫はいません。だからこそ互いを失わずに共存していくためには愛のある繋がりを行うことが一番大切なのではないかと考えました。また、あこさんがお話されていた、「できない理由を探さない」と「一日の三万五千回の選択を大切に」という言葉に今回出会うことができました。今まで数えきれないほどの選択をしてきました。その時、できない理由を探し、自分にとってやりやすく安全な方を選ぶことが多いです。しかし、今回話して下さった方々は、できない理由を探さずに自分の気持ちに素直になり行動しているからこそ、自信をもって今の自分を誇れるのだと思いました。そのためにも、あこさんの「一日の三万五千回の選択を大切に」という言葉を通し、できない理由を見つけるのではなく自分に素直になり人生を選択しようと思います。またそこに、自然に対しての愛を追加することで環境問題に貢献できると思いました。その中でも次世代に伝えたいことは「愛」・「循環」・「調和」です。スタディツアーではこの三点に触れることが多かったです。どこに行ってもバリの方々の愛を感じ、神と人と自然の調和を大切にしているからこそ、私達にも素敵な笑顔が届けてくれたのだと思いました。その愛が私たちに届き、次は私たちが

誰かに愛を届け、次々と循環していき世界が愛で溢れてほしいと思いました。そんな思いがこの My tree に込められています。

愛のある循環と調和を

今回のスタディツアーでたくさんの違和感に出会いました。すれ違うと笑顔で声をかけてくれること、バナナの葉で作られているお皿、泡立たないシャンプー、虫の音、人懐っこい子供たちなど、日本で味わうことの少ない経験を沢山させていただきました。最初は慣れないことも多かったですが、日が経つにつれてその違和感がなぜ起こっているのかを理解し、自分の中で気にならなくなり当たり前ことになりました。日本に居たらすれ違う人に笑顔で挨拶しませんが、スタディツアーの中盤からは自分からバリの方々に挨拶をしていました。そんな自分の姿にも驚きました。なぜ、ここまで変わることができたのか考えると、「循環」の中に私自身も入ることができたからだと思いました。笑顔で声をかけてもらい、嬉しくなり私も笑顔で挨拶する循環や、自然と調和していく中で自分たちがどのように循環の中に居ればよいのかを考え行動すること。今まで考えてこなかった、先のその先まで考えることが多かったです。そうすることで、私はどのように地球上で生きているのか、何をすれば良いのかなど、自分の存在意義についても考えることができました。そして、今の自分には何ができるのかが明確にわかりました。日本に居てもシャンプーや洗剤について、環境のことを考え選ぶことができます。スポンジも、へちまへ変えることができます。車ではなく歩くことを選ぶこともできます。食材も地元のものを選ぶこともできます。この選択をみんなが環境問題に配慮して選ぶだけで、この問題の進行速度は変わってくると思います。選択をする際、自分のことではなく環境や次の世代の為に愛のある選択をしてほしいとわたしは思います。ロビンさんが「愛の為に私達は生きている」とお話されていました。「愛とは何か」という言葉があるほど難しいものです。しかし、バリ島で私は愛を沢山貰うことができました。街の方の笑顔と挨拶、美味しいごはん、晴天、マナホテルの従業員の方々、Earth companyの方々、ゲストスピーカーの方々、そして先生達と生徒のみなさんなど多方面から愛を感じました。日本に戻って今回のスタディツアーを振り返ってみると、常に愛のある循環の中にいたことを強く実感しています。そして、実感するだけでなく学んだことを広げていくことが、私の今できることだと思います。一人が完璧に行うのではなく、みんなが最善を尽くすことが大切だと思います。今回、このタイミングでこのスタディツアーに参加できて本当に良かったと思います。参加を決めた自分を褒めてあげたいです。

My Tree



私の My tree では写真の通り太く入り組んだ根、自分そのものを表す幹、複雑に絡む根と葉、将来への願いを込めて飛んでいく葉を描きました。ここでは木全体を構成する根っこから順を追って説明します。

ここに描かれている根は自分の本体である幹を支える役割として自分が大事にしている価値観を主に表しています。これらをまとめると私を構成する基となるものは、古代ギリシャの哲学者であるソクラテスの言葉をお借りして、「善く生きようとしているか」ということです。この言葉を心にしまいながら普段は生きているつもりです。頭ではわかっている、人は誰しも過ちを犯しますが、それを乗り越えて行動し、次の世代へ繋げていくことが大事だと考えます。

続いて幹から伸びる枝葉の部分はなるべく汚く、激しく入り組むように描きました。この枝葉のようにこの世の中は多くの人々が生きており、それゆえに思想や文化等の数えきれないほどの社会的要素が複雑に絡み合っていると思います。人それぞれの考え方を認め合うことは時には難しいことですが、その困難に対して見て見ぬ振りをし、次の世代へバトンタッチしてしまうのは非常に無責任であり、それこそ大きな過ちだと思います。このような葛藤も私が描いた枝葉には表れています。

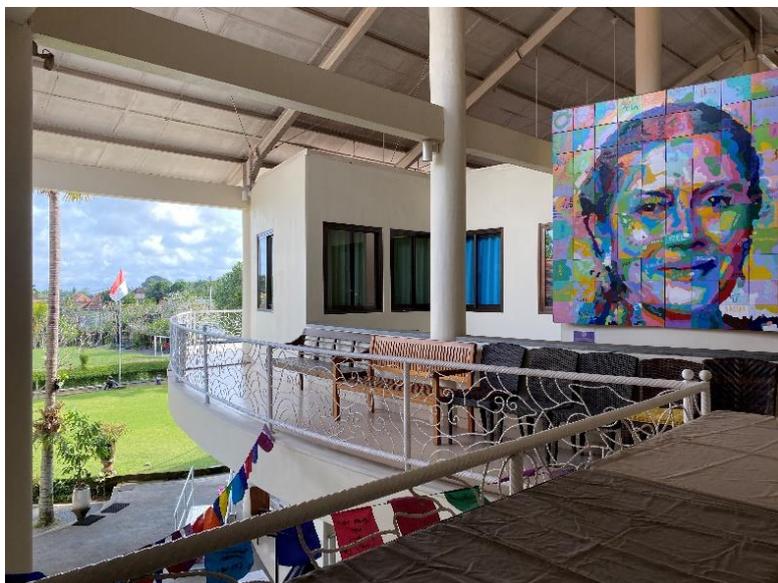
最後に私は飛んでいく葉の中に記した次の世代へ繋げていきたいこととして「循環」「持続可能」を、その手段として「愛」「教育」を選びました。これらのキーワードがスタディツアー記録用のメモの中に特に多く残されており、重要な要素であると実感したからです。

今回のスタディツアーを通して人のため・環境のために動いているたくさんの人たちに出会い、自分と異なる生活文化を生きている人たちとの交流をしました。その交流を通じ、頭の中が常に活発になっている感覚、自分の内なる気持ちが大きく動いたりなどのその刺激の大きさが、私の描いた My Tree の中には描かれているのではないのでしょうか。

愛にあふれたスタディツアー

今回参加させていただいたバリ島スタディツアーでは、自分も循環の一部になれるエシカルホテル“mana earthly paradise”を拠点として朝にメディテーション、日中に人や自然を守っている人たちからお話を聞いたり、異文化交流をしたりなどのフィールドワーク、一日の最後に夜みんなで集まり、火を見ながら振り返りをするリフレクションの時間を過ごすというサイクルで主に動いていました。一週間インドネシアのバリ島という日本とは全く異なる環境で過ごし、このサイクルを通じてたくさんのもを吸収し、体感し、大きな刺激を受け、バリ島に来る前の自分を変容していくのを実感するツアーでした。

ここでは特に自分の中で刺激を受けたことをご紹介します。



2022/09/10 筆者撮影
ブミ・セハット国際助産院

ツアー3日目に24時間無償で医療提供を行っている「ブミ・セハット国際助産院」へ訪問し、こちらの創設者であるイヴ・ロビンのお話を聞きに行きました。このプログラムでは、ロビンさんのライフストーリーから質疑応答までたくさんの時間を割いてくださいました。

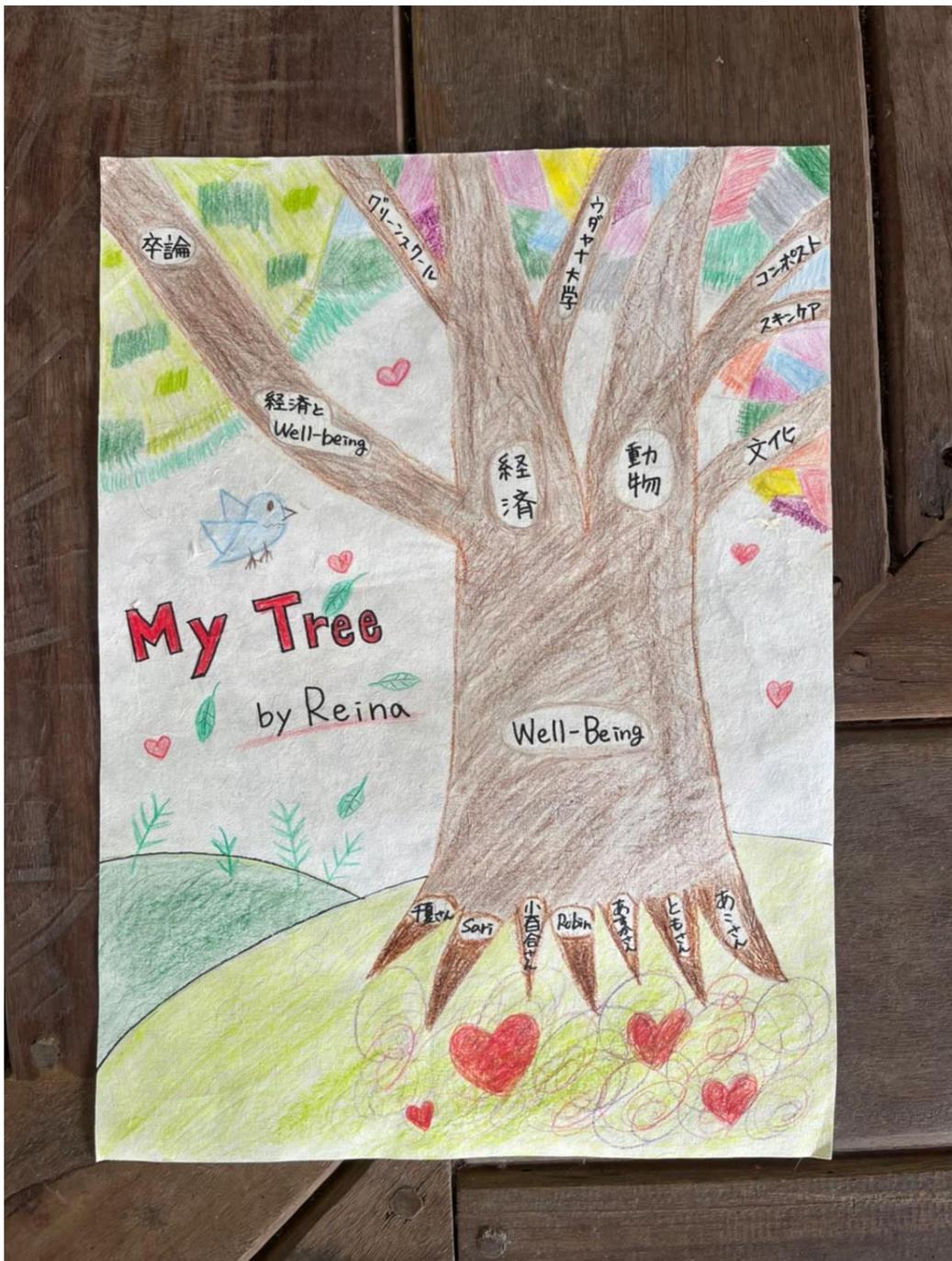
まず、彼女のお話の要となっているものは「愛」でした。彼女のお話を聞いてから、それまでなんとなく考えることを避けていた「愛」について深く考えるようになりました。彼女は「愛がないと人は生きていけない」という趣旨のお話をしてくださいましたが、それに対することとして私は高校時代に母を失った親友から「人に依存してはいけない」という言葉ももらったことがあります。どちらの言葉も納得がいくものであり、心の底から出た尊い言葉です。この2人の言葉についてたくさん考え、一時は2人の言葉が頭の中で入り組み、訳がわからなくなりましたが、みんなが言葉にして話してみたら「どちらも正しい」「一方的なのは良くないから双方向の関係が大事なのではないか」「愛がないと生きていけないのは確実」など他にもたくさん、みんなが考える「愛」の在り方を共有することができました。

このように、頭をフル回転して考える時間ができたのもこのツアーのおかげです。「愛」だけではなく、環境問題、社会問題、異文化理解、教育についてなど、たくさんの方について考える機会がありました。どの分野も根底には「愛」があり、人が行動する原動力になっていると考えます。

最後になりますが、このコロナ禍という様々な行動が制限される中で、現地対面開催のスタディツアーに参加できたことは本当に奇跡だと思います。プログラムだけにとどまらず、同じ大学の仲間たちと泊まったからこそ、プログラムに関連して普段は話さないような話題について語り合ったり、時には面白い話で盛り上がったりしました。バリ島が抱える社会問題、対して人々の温かさにも触れることができました。全てが尊い時間だったと断言できます。大学の在学中に本物のフィールドワークを経験できたことは今後の人生の大きな財産になると思います。

みなさん、一緒に活動してくれてありがとうございました。スタディツアーへの参加を促してくれた家族、参加を決めた過去の私も、ありがとうございました。

My Tree



私はバリ島でのスタディツアーを通して自分の人生における大きな幹となるテーマを1つ見つけることができました。それは Well-Being です。どのようにすれば地球は命を持つ全てのものが幸せに暮らすことができるかを突き詰めていきたいと考えるようになったのです。その Well-Being を考えていくにあたってさらに2つの柱を掲げたいと思います。一つの柱は経済です。私は大学で国際経済学を専攻しています。だからこそ経済成長は絶対で、貧しさがなくなればいいと考えてきました。その考え方がなくなったわけではありませんが、経済成長によって幸福を失うのは私たちの人間らしさも奪われてしまうという危機感を持ちました。だからこそ経済成長と Well-Being を両立できる世界を実現したいと考えるようになりました。そしてもう一つの柱は動物です。私は今回のバリ島で過ごした日々の中で動物の幸せについて強く関心を持つようになりました。バスに乗って移動する道中たくさんの犬やニワトリ、猫を見かけました。バリ島では多くのペットが放し飼いにされていて、玄関の外で遊んだり寝そべったりしています。私がバリ島で見た動物たちは決して綺麗とは言えない水を飲み水として飲んでいたし、見るに堪えないほど痩せこけている子もいました。Well-Being を考えていくにあたってこの子たちのことは忘れてはいけなくと強く感じたのです。

この幹そして大きな柱が明確に言葉に表せたことは私にとって大きな成長でした。自分自身が何に関心があるのか、何を成し遂げたいのか、心の中では常に渦巻いていましたが、それを言葉として表すことがずっとできていませんでした。しかしながらバリ島での最終日前夜、この My Tree を描くとき私に迷いはありませんでした。自分自身の進むべき方向、やるべきことが明確に見えてその正体まで言葉として文字に起こすことができました。正直私は絵を描くこと苦手です。バリ島で My Tree を描くと聞かされた時本当に不安で仕方がなかったことを覚えています。しかし自分に迷いがなからこそ、悩むことなくこのような立派な木を描くことができました。これができたのはバリ島で出会ったすべての人々のおかげです。お話を聞いたすべての人がそれぞれの原動力になる怒り、そしてそれを力にあける愛を持っていたことが印象的でした。そのため根っことなる部分にお話を聞いた方々のお名前を入れさせていただき、さらに奥深くに渦巻く怒りと愛も表現しています。

バリ島で普段経験できない様々な経験をさせていただいたことは私の人生において必ずいつか役に立ちます。それぞれの経験を枝として表現し、一つとして同じものはなかった今回のツアーでの出会いや学び、価値観の変容をカラフルな葉っぱで表現しました。道端にある木と同じでこの木もこれからどんどん形を変えて私色に染まっていきます。縦に伸びるかもしれないし横に広がっていくかもしれません。私自身の成長過程としてこれを受け入れ、常に自分が納得できる選択をすることで素敵な My Tree を完成させられるよう精進していきたいと考えています。

本当の“幸せ”とは何かを真剣に考えたい

バリで過ごした7日間はそれぞれが濃い時間であった一方、本当にあっという間でした。バリについて最初に驚いたこと。それは走っている車がほとんど日本車だったことです。少くも値段が高くて壊れにくい日本車に乗るという考えがあることを知り、日本の自動車産業が認められていることに少し嬉しくなりました。バリ島に着いた瞬間から人々の温かさに触れ、幸せな気持ちで溢れていました。一方で空港からマナまでのバスの車窓から見える景色だけでも途上国の問題がたくさん見えたように感じました。My Tree の解説で述べたように私は大学で国際経済学を専攻しています。そのこともあって今回のスタディツアーでは途上国の経済状況も垣間見ることができたらいなと出発前には考えていました。いわゆる途上国と呼ばれる国に訪れたのは今回が初めてでしたが、特に道路状況の悪さには驚きました。都心から少し外れたところに行くとき信号すらなく割り込んでいかないと一生前に進めないことに何度恐怖を覚えたかは数え切れません。絶対今の私には運転できません（笑）バスでガタガタ道に揺られながら貧しさを感じる一方で、お金ではすべての幸せを買えないということを強く信じられるようになりました。これは私にとって大きな価値観の変化でした。日本に暮らす私にとってバリ島で見た多くの状況は貧しく見えるし、自分自身はその場所で暮らしていける自信も今はありません。でも私が出会ったバリ人やそこに暮らしている人々はみんな笑顔でした。日本で満員電車に乗っている時に見る死にかけのような眼差しはひとつもないのです。感覚的に日本人は幸せではないのだと感じるようになりました。これが Well-Being を深めたいという幹を持つようになったきっかけです。観光客として迎え入れられている私たちに本当の顔を見せてくれているかどうかはわかりません。しかしながらそこに住む人々は本当に幸せそうに見えました。自分自身のペースで好きなことをして、家族みんなが家内工業をしながら細々と暮らしています。それに加えて強い信仰を持っていることも羨ましく感じました。伝統を背負っているからこそその愛国心や、土地に対してやさしくあろうという態度が現れてくるのではないかと思います。

一方で今回の旅で大きな社会問題であると強く感じたのが動物の Well-Being が全く考えられていないということです。雨水を飲んでいるガリガリになった犬や毛が抜け落ちた犬など自分が日本で過ごしてきた日々の中で出会ったことのないようなペットたちを目にしました。そのような動物に出会ったことがなかったし、自分自身のペットがもしもあの水を飲んだらと考えるだけでびっくりするほど鳥肌が立ちました。また、塵山では牛が首輪で繋がれて生ゴミを食べていました。今回はスウォンには訪れることができませんでしたが、それに似たような景色なのだと思います。そこでは牛が生ゴミを食べた後に人間がノンオーガニックのゴミを拾ってお金にしていくという

流れができています。その牛が市場で売られているという噂があることも聞きました。ゴミの山の中にはもちろん牛が食べてしまったり踏んでしまったりしたら危険なものがたくさんあります。それにもかかわらず人間は当たり前前にゴミを出し、自分達の仕事をしやすくするために動物を利用しています。人間が幸せに暮らしてほしいと思う一方でそれは人間がわがまま放題で生きていいということではないと考えています。重要なことは全ての生きているものが平等に生きやすい世界をみんなで作っていくことです。

私をバリ島に対して途上国という一枚のフィルターをかけてずっと見てしまっていました。だからこそ途上国の問題が強調して映し出されているし、感想もそのようなものが印象的です。でもバリ島の人々はあたたかいし本当に良いところもたくさんある。もっと視野を広げればキラキラしたところもたくさん見つけることができただけかもしれないと少しだけ後悔が残っています。でも、今の私にとってバリで見たもの、過ごした時間が全てです。1秒たりとも同じ景色はなかったし、他の誰にも見る事ができない私だけの特別なものです。それに関連した話で言うと、バリ島での時間の流れは本当に穏やかでした。日本で暮らしていると常に時間に追われ、いつも何かをしなければならぬと焦りを感じていました。でも日本で過ごす30分とバリ島で過ごす30分は密度も異なるし、時間の過ごし方も全く異なりました。時間に関連したことで、あこさんのお話が特に印象的でした。アフリカゾウの象牙を守ると言う最終目標がある上で今の自分自身がいると言うことを、誇りを持って私たちに話してくださいました。私は常にゴールに対する最短ルートを探し求めています。そして常にゴールをアップデートしています。だからこそ自分の行く末をよく見失うし、結局ゴールが定まらずにフラフラすることもあります。最初からやりたいと思うことにアクセスすることだけを考えるのではなく、自分自身を強化するためにとっても長い道のりを遠回りするのも人生の一つの歩み方なのではないかと考えました。今の私には確信を持って追求できるゴールがないけれど、それが明確になった時には自分自身の人生を豊かにするために遠回りの道をあえて選んでみようと思います。

今回のバリ島スタディツアーを私自身の一言で表すと「無償の愛」です。ゲストでお話を聞かせていただいた皆さんは無償の愛を持って私たちに接してくれました。そしてその無償の愛は Universe への感謝があるからこそ生まれるのだと考えます。自分を構成しているものは何か、深いところまでじっくり時間をかけて考えることのできる時間であったと思っています。特にロビンやサリは本当に愛に溢れていました。彼女たちの姿を見ているだけでなんだか元気が湧いてくるし、自分が愛されてこの世に生まれてきたのだと感ずることができました。今までは愛を受けるためには愛を返さなくては行けないと考えてきたけれど、私がバリで出会った人々は皆見返りを求めずに愛をたくさん注いでくださいました。彼女たちが無償で愛を注ぐ分だけ、彼女たち

の周りは愛に溢れていたことを私は一生忘れないでしょう。私はそんな存在に自分自身になれるよう行動することができる人へと成長を続けたいと考えています。

ツアーへの参加を促してくれた家族、参加を決めた過去の私も、ありがとうございました。

My Tree



私の My tree のキーワードは「愛」と「循環」です。バリ島で過ごした時間は愛で溢れたものでした。木、太陽、葉っぱや土の匂い、鳥や虫の鳴き声、すべての自然が私たちを受け入れてくれました。このスタディツアーのなかで特に印象に残っているのは、サリとロビンに会った日です。彼女たちのライフストーリーから、今までにないほどの大きな衝撃を受けたのをはっきりと覚えています。彼女たちはそこにいるだけで愛を感じるほどに特別な人たちでしたが、ずっと笑顔で気さくに接してくれて、嬉しさ、幸福感と安心感で胸がいっぱいになりました。彼女たちと接してから、家族、友人、あこさん、ともさん、あすかさん、マナホテルのみなさん、先生方、周りの環境のすべてから愛を感じるようになり、私も愛を伝えたい、与えられるようになりたいと思うようになりました。My tree では、周りから与えてもらっている様々な形の愛を、様々な色のハートで表現しました。それらの愛を栄養に My tree は成長していきます。葉っぱや新芽は、このスタディツアーを通しての新たな気付きを表しています。私は今まで、将来なにをしたいのかずっと分からずにいました。正直今もはっきりとした答えは出ていませんが、スタディツアーに参加して、何かに挑戦したい、挑戦する勇気が出せない自分を変えたいという気持ちが心の中に閉じ込められていたことに気が付きました。普通が良いとされる風潮がある日本社会で、周りの人と異なることを恐れ、自分が本当に好きなもの、したいことから目を背けていたのかもしれない。新型コロナウイルスの影響により、様々な活動が制限され、思うようにできない日々から、気づかないうちに消極的になってしまっていたようにも思います。しかしバリ島で自然や人々の温かさに触れ、だんだんと気持ちがほぐされ、心の蓋が少し開いたのが分かりました。バリ島に行かなければ、この心の蓋の存在にも気づくことができなかつたと思います。My tree の葉っぱや新芽は、このスタディツアーで自分の気持ちと向き合うことができたことを表現しています。あこさんのお話の中で「できない理由を探さない」という言葉がありました。今の私に必要なのは、まさにこれだと思います。今まではずっと、もしこういうことが起きたらどうしよう、自分では上手くできないかもしれない、など心配なことを考えてしまいがちでした。勇気を出さなくていいように、リスクのある選択をしなくて済むように、「できない理由」を探していたのだと思います。今回勇気を出して参加してみたら、自分の知らなかつた世界が広がっていました。自分の周りで愛が循環しているということに気が付くことができました。そしてこれからは、私が愛を循環させられるきっかけになっていきたいです。私の My tree はまだ苗木です。周りの環境から受け取った愛を栄養に成長し、沢山の愛を与えられる大きな木になるよう、様々なことに挑戦する勇気を出し続けていきます。

幸せに生きること

バリ島で過ごした時間は、すべてが特別で温かいものでした。このような厳しい状況下で、素晴らしい思い出と学びの機会を与えてくださったことに感謝いたします。私は今まで、やりたい、挑戦したいと思うことがあっても、考えているうちに心配や不安の気持ちが大きくなってしまい、一步踏み出すことができないことがほとんどでした。コロナ禍で、想像していたような大学生活を過ごすことができず、この状況を変える何かに挑戦したい！もやもやとした気持ちを晴らしたい！という気持ちで、今回スタディツアーに参加することを決断しました。印象に残っていることをあげるときりがありませんが、3つに絞って書き留めておきたいと思います。

まずは、田んぼでのメディテーションウォークです。誰かと話すことなく、自然の中で自分の気持ちと向き合うという時間をとったのは、生まれて初めてでした。最初にメディテーションウォークの説明を聞いた時は、とても難しいように感じましたが、実際にやってみるとあっという間に時間が過ぎていきました。しっとりとした土の感触、鶏の鳴き声、草や葉っぱの匂い、水の音など、今でも鮮明に景色を覚えています。太陽の光が温かく、朝露がきらきらと反射していて、本当に心地よかったです。朝露で服が濡れたり、土で足が汚れたり、日本にいると煩わしかったようなことが気持ちよく感じられ、自分が自然の一部であると実感できた時間でした。自然を五感で感じることで、心の中がすっきりし、気持ちを落ち着けて有意義な朝の時間を過ごすことができました。朝はついばたばたしてしまいがちで、昨日あったことや、今日これからあることについて考えたり感じたりする時間をとることができませんが、このメディテーションウォークを経験してから、朝少しでも気持ちを落ち着ける時間を作りたいと思うようになりました。

次に印象的だったのは、グリーンスクールです。想像していたよりもずっと広い敷地、竹でできた校舎、竹でできた自転車、竹でできた橋、壮大な自然溢れる学校でした。そのなかでも特に驚いたのは、小学生の子どもたちが自分たちで企画して、ローンを組んで鶏を購入、飼育し、卵を販売して得た利益でローンを返していることです。子どもたちが企画したことを実行できる環境があること、さらに子どもたち自身でローンを組み、責任を持って企画を進めていることに衝撃を受けました。このような経験や学びは、現在の日本の学校ではほとんど不可能なものではないかと思えます。少なくとも、同じような自然環境のなかで学びを深めることは難しいように感じます。日本の学校では、教室で教科書を使い、先生から話を聞いて学ぶことが多いですが、グリーンスクールでは、実際に経験しながら、クラスメイトや先生と意見を交わしながら学ぶことがほとんどのようです。今回のスタディツアーでは、グリーンスクールでの学びに近い、体験からの学びを経験しました。実際に体験、経験するこ

とで得られる学びは、自分の記憶に強く残るものであると思います。この貴重な学びを一生大事にしたいです。

最後は、ブミセハット国際助産院です。ここは24時間、365日無償で医療を提供する助産院です。さらにお産だけでなく、お産後のサポートが手厚く、母子共に健康に過ごせるよう見守ってくれます。さらに、性別、国籍、宗教問わずすべての人を受け入れていることに驚き、感動しました。設立者であるロビンのお話のなかで「おばあちゃんになったとき、若い頃の夢を叶えてあげられたと思える人生にしてほしい」という言葉がありました。愛に溢れるロビンのその言葉から、初めて夢を持ちたいと思いました。今まで将来の夢は特になく、何がしたいのか自分でも分からずにいましたが、自分の気持ちと向き合おうと思いました。周りのすべてに感謝し愛を与え続けるロビンのように生きることは簡単でないですが、この人のようになりたいと強く感じました。

このスタディツアーを通して、今までの考え方が良い意味で大きく変化しました。そして、幸せとは何なのか、自分の気持ちと向き合うきっかけになりました。「人に愛を与えるには、まず自分自身を愛すること」という言葉が心に残っていて、私は今まで自分としっかり向き合ったことがなかったのかもしれないと思いました。バリ島で出会ったみなさんのように、周りに愛を与えられる人になれるよう、自分の気持ちを大切にすることから始めたいと思います。その瞬間に感じたことひとつひとつを大切に、何かに悩んでしまうときはこのスタディツアーを思い出し、前を向いて頑張りたいです。アースカンパニーのみなさんをはじめとし、今回のスタディツアーに関わってくださったすべての方々、そして7日間一緒に学んだ仲間たちに感謝したいです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

My Tree



My Tree の構成それぞれにおいてどのような思いを込めたのかを説明します。一つ目は私を支える価値観に当たる根の部分です。ここは、挑戦することとしました。まず、私がスタディツアーに参加した理由として、何かに挑戦したいと思ったことがきっかけです。挑戦することで成長し、今の自分とは違う広い視野で物事を見つめ直したいという思いがありました。私は今まで失敗した際に向けられる周りの目が怖く、挑戦しなかったことで結局後悔をしたことが多くあります。しかし亜子さんの、諦める理由を探さないという言葉で、自分を信じて一歩踏み出す勇気を私に与えてくれました。二つ目は私の気づきや学びを表す葉の部分です。今回のツアーでは、SDGs のその先のリジェネラティブな世界について学ぶだけでなく、途上国で起きている社会問題やバリヒンドゥ教の考え方、更に自分の価値観や well-being を見つめ直す時間にもなりました。このように、様々な経験をすることができたため生き茂るように若い葉っぱを描きました。新しい葉が芽吹いている途中も描き、まだ完全に学びが整理できていない状態を表しました。三つ目は、幹と枝です。自分の具体的な未来像への迷いを表現するために、様々な太さと長さで様々な方向に描きました。四つ目は、花です様々なカラーで蕾を描きました。日本の学校は、集団生活に上手く溶け込むことを求められてしまう環境である と思います。今回明日香さん、知宏さん、さゆりさんや千夏さんなど様々な方のライフストーリーを聞く中で、人それぞれ個性をアピールしていい、自分が咲くカラーを周りに合わせなくていいということ強く感じました。更に、これから何に縛られることなくどんな姿にもなれるという意味を込めて咲く前の蕾の状態を描き、光で包みました。五つ目は、次の世代に伝えたいことを風に乗って飛んでいく葉として描きました。ブミ・セハット国際助産院設立者のイブ・ロビンがどんな相手にも愛を持つことの大切さを教えてくれました。間違いを正そうと怒ると人は心を開かなくなってしまうですが、愛を注ぎ続けることで人は変わるという話が胸に残りました。それは、ゆきさんのオーガニック製品を広めていく姿勢も同じなのではないかと感じました。そのように私も自分が 得た学びを愛に包んで伝えていくという意味を込めて、飛んでいく葉を愛の赤色で囲みました。このツアーの1週間を通して私は今まで自分で勝手に決めていた「当たり前」の殻の中で過ごしていたことに気づくことができました。そして、それを覆すことのできたこの学びや経験は自分の中で大きなものとなったため、全体的に大きな木を描きました。

当たり前に縛られないこと・愛ある人との繋がり

私はスタディツアーを通して特に「世の中に存在する当たり前を疑い、よく考える」ということと、「愛をもって人と接する」という二つの価値観を深く感じまし

た。初めに、「世の中に存在する当たり前を疑い、よく考える」ということについて五つに分けて説明します。一つ目は、ナチュラルスキンケアワークショップでのゆきさんのお話です。私たちが普段使用しているシャンプーや洗剤には石油の含まれた界面活性剤が入っており、今まで無条件に良いことだと思い込んでいたものが実は身体に悪影響を及ぼしていたという事実には衝撃を受けました。これは私たちにも当てはまるのにも関わらず、当たり前だと思っていることを信じて疑わず、そこに囚われてしまうことの怖さを実感しました。そうならない為にまず私たちが何でも自分事とすることが大切であると感じました。二つ目は、バリ島の現状です。観光客向けのホテルにある大きなプールはバリの農家の人々の水を奪っているものもありました。それによって農業ができなくなり、生活ができなくなってしまうことを聞いたときに、私は便利なものと楽しいものの背景では何が行われているのかを常に考えることの大切さを痛感しました。三つ目は、世界の現状についてです。明日香さんのサモアでの経験のように、先進国の発展にはこれらの島が侵食されていくという犠牲のもとに成り立っていることや、亜子さんのケニアでの経験のように、日本人が見栄を張るためだけにアフリカ象が殺されてしまっている現状があることを知りました。このように人や動物など世界中の誰かの犠牲の中で成り立っている経済発展や富が溢れていることをまずは知ることが大切だと思います。富が少数の国々に偏ってしまう世界やCO₂を出さなければ経済発展ができない世界など、世の中の仕組みがそもそもおかしく、これも当たり前だと思っただけではいけないと感じました。四つ目は、バリ人のあたたかさについてです。道ですれ違ったバリ人に声をかけるとみんな笑顔で返してくれて、人のあたたかさを感じることができました。日本で見知らぬ人に笑顔を向ける機会はないと感じたと同時に、人は本来このくらいあたたかい心を持っていると思い直しました。私は、このことに驚いたということで、日本の孤独感を生む社会が当たり前になっているということに気づきました。それは、日本の子育てのしにくさにも繋がると思います。日本には便利な道具がありますが、孤独な子育てで悩む人も多いと思います。反対に、バリでは子どもをみんなで育てていて、人と人との繋がりを大切にするという本当の豊かさがあると思います。五つ目は、自分自身の生き方についてです。私たちは将来日本に留まることに疑いを持たず、周りに合わせてなんとなく日本の企業に就職する人も多いと思います。明日香さんや千夏さんのように自分は何のために日本の企業に就職するのか疑問を持ったり、目的を明確にしたりすることが大切だと感じました。これら五つのように、社会の構造や些細な日常生活にも目を向け、自ら知りに行き、考え、自分事とし、行動に移すことが大切だと感じました。

次に、「愛をもって人と接する」ということについてです。このことについて四つに分けて説明します。

一つ目は、PKP 設立者のイブ・サリの考え方です。彼女は、自分に 対して差別を

してくる人も実は何か不安を抱えていると認識し、受け入れることを教えてくれました。相手が悪いと決めつけるのではなく、ここでも広い視野で考えてみることで、愛を持つことが大切であると感じました。私は PKP にいる間ずっと彼女の素敵な笑顔に癒されていました。私たちをあたたかく歓迎してくれた彼女や環境はとて愛に溢れていると感じ、私も彼女のように周りを幸せにできる人になりたいと思いました。

二つ目は、イブ・ロビンの行ったことについてです。私は初めてインドネシアの出産に関する衝撃的な問題を知りました。政府によって病院側がお金のかかる帝王切開を強制させ、助かるはずであったたくさんの命を落としてしまったというものです。彼女は一人でも多くの人を救うために計り知れない怒りを、原動力に変えて着実に行動していき ました。これは愛がないとできないことであると感じます。更に、ブミ・セハットの細やかな気遣いにも心を打たれました。お金のない人たちにも平等に医療を提供し、お母さんと子どものことを一番に考えた配慮のある、まさに愛に溢れた場所であると思いました。また、さゆりさんのように性教育の重要性を自分の口から訴えることも大切であると感じました。

三つ目は、命の循環を自分の体全体で感じたことです。私は今まで人々が自然と自身を分断しながら生活していることに気づかずに生きてきました。宿泊した Mana Earthly Paradise では、自分の命は自然と繋がっていることを実感できる環境でした。生活の全てが環境や人に優しいもので、暮らしの基本から愛を感じることができました。日本でこのような繋がりを感じたことがなかったため、これが生きているということだと実感することができました。それを体で感じることで、地球を愛することの意味が分かったような気がしました。最後に四つ目は、自分自身のことについてです。千夏さんのように海外で夢に向かって頑張っていることをお母さんに認めてもらいたかった、褒めてもらいたかったという言葉がとても印象的でした。私にも当てはまることであると感じ、この感情は誰にでもあるということに気づかされ、勇気づけられと共に涙が出ました。千夏さんの妥協はしなくていいという言葉や、明日香さんの情熱を持って生きるという言葉のように、自分の人生を自分のやりたいことに正直に突き進んでいく人は純粹にかっこいいと感じました。私も人生について悩むことがあるときにはこの言葉たちを思い出そうと決めました。また、知宏さんのように自分のこれまでの経験がジグソーパズルのピースになると捉え、どんな過去も全て自分を作ってくれたものと認識することは、結果的に自分を大切にできる理由になるとも思いました。私はこれらのことから以前よりも、過去のどの経験に対しても後悔することなく真っ直ぐに未来を見つめ、自分で道を開いていくための自信を持つことができました。

最後にこれら全てを踏まえて、私はスタディツアーを通して今まで気づいていなかった価値観の引き出しを開けることができたと感じます。挑戦することや知るこ

とでこんなにも価値観が変容することに驚きました。本気で話し合い、何でも認め合える素敵な仲間と出会ったこともこの経験と同じくらいの宝物です。今回のツアーの全てに感謝をし、愛を持った生活をしていきたいと思います。

My Tree



“My Tree”ということで、私はこのスタディツアーで学んだこと、感じたこと、そして、私のこれまでの人生を振り返り、この絵を描きました。木の根っこは、怒り、悲しみ、愛を表しています。バリで実際にお話を伺った方々は皆さん、現在に至る原体験に大きな怒りや悲しみを持っており、それらをこちらが圧倒されるほどの大きなエネルギーや愛に換えて活動をされていました。ゲストスピーカーの方々ほどの強いエピソードではありませんが、私も教育を専門的に学びたいと強く思うきっかけになったのは、短期大学時代の教育学の授業で自分の今までの教育を振り返ったときに、学校生活でそれまで飲み込んできた怒りや悲しみ、疑問に気づいたときでした。それがあって、今現在、聖心で教育を学んでいる私があります。そして聖心に入ってから学び続け、こうしてスタディツアーに参加したということも、入学後、コロナ禍により完全オンラインの授業で思うように学べず、友達もできず、やめようか何度も一人で考えた私にとってはとても感慨深い出来事です。当時の私を引き留めたのは、渡辺和子さんの「置かれた場所で咲きなさい。」という言葉でした。なので、私のこれからの未来は、これからも咲く努力を続けられるようにと、花とつぼみで表しました。また、私の木ではヒンドゥー教の破壊、維持、創造の神を、木の幹を切り倒そうとしている影や切り株、天使、種を植える子ども、切り株から生える芽で表しています。おかしいと感じるものを壊したいと思う衝動があり、それでも維持することの方がずっと楽であるという葛藤、勇気を出して壊し、そして壊したものからまた新しい何かが創造される循環が、私の人生や自分自身の中にもあると気づきました。就職を考える中で、これまでも公益性の高い仕事が良いと考えていましたが給料や待遇が優先で、そのためならそうでない仕事に就くのも仕方がないと感じていました。ですがこのスタディツアーでの一週間、Manaで地球、他者、そして自分にも優しい生活をし、様々な人のライフストーリーを聞く中で、自分がする仕事が社会課題の解決やそもそもの社会課題を生み出さないような仕事でなければ、私の幸せも続かないと気づきました。どのように社会に関わるか、そのために今後どのような進路を選択すべきかはまだ決められていませんが、これだけは譲れない条件ができました。社会の常識やルールを疑い、ルールを飛び出すような選択もできるよう、視野を広く持って、積極的にコンフォートゾーンから飛び出すような挑戦をしていきたいと思えます。

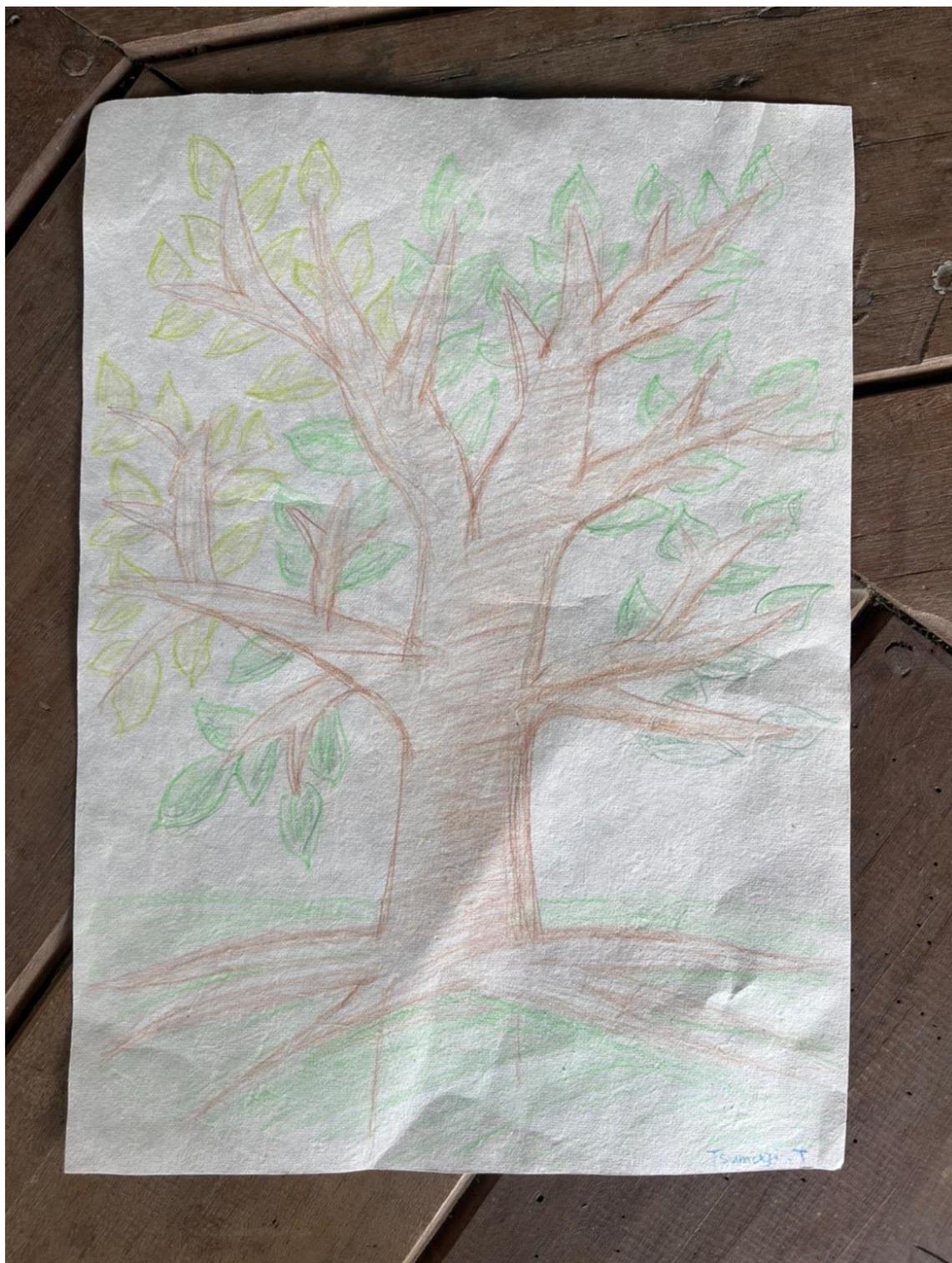
もう一つの家族

ずっと待ち焦がれた7日間は、愛と循環の7日間でした。私が国際協力や国際教育協力を興味を持ったのは、短期大学時代のゼミや当時読んだ本がきっかけです。これまで、途上国といわれる国に実際に行ったことはなく、ずっと文献や講義、途上国に関わっている人の話などでしか、その様子や現状を知ることしかできていませんでし

た。問題に怒りや悲しみ、責任感を感じながらも、「なぜ縁もゆかりもない途上国なのか」という問いには、社会問題や地球規模課題が今や途上国、先進国の問題として切り離せないものとして、頭で、理論で理解しているところも多く、それが自分の中でずっと引っかかっていた。なので、現地に行き、実際にこの目で見て、現地の人たちと関わってみたいとずっと思っていました。実際に行ってみて、強く感じたのは「便利さ」という物質的なモノだけでは測れない「豊かさ」です。その面では日本よりずっと豊かであるということを感じ、それまで自分がどれほど窮屈な価値観と世界の中にいたのかがよくわかりました。どちらが「途上国」といわれるのかわからないほど、バリの人たちは愛と笑顔で溢れていて、自分の心もその自然や人の温かさに包まれながら解放されていくのがわかりました。特に PKP を訪問した際、帰りにイブチキンが「もう家族だから、いつでもここに帰ってきて」といって抱きしめてくれたことは今でもよく覚えています。その後、ロビンに会う前にインドネシアの出産の現状を知りました。それに対する悲しみや怒りを感じたとき、思い浮かんできたのはイブサリやイブチキン、それまで会ってきたバリの人たちの顔でした。バリの人たちが、私の家族が悲しむかもしれない、あの笑顔でいられなくなるかもしれない未来があると思ったら、心がぎゅっと苦しくなりました。これまでのような、どこか遠くに感じていた「途上国」の問題ではなく、その言葉や問題の裏に顔がはっきりみえるようになった瞬間でした。一生忘れない瞬間であると思います。「バリに住む家族が笑顔でいられるような世界をつくりたい」。これが、私がこれから日本に戻って生活していく中で、将来を考える中で大切にしていきたい価値観、目標です。これを真ん中に、毎日の小さな選択から自分と世界を変えていきたいと思っています。

国際交流学科 3年 田畑つむぎ

My Tree



まず、木の根は私の価値観を表していて、このスタディツアーに対する想いを根に表現しました。最初は「SDGsのその先を思い描く」というスタディツアーのテーマが全く分からず、また永田先生の授業も取ったことがなく他の皆より予備知識が無い状態での参加だったので不安でいっぱいでした。しかしZoom説明会での「(チャンプーなど)水に流れるものを重要視する」という永田先生の発言を聞き、「SDGsのその先」とはこのことを言っているのではないかと思い、今までの生活では意識しなかった部分に目を向け始めた所から私のスタディツアーは始まりました。

次に葉ですが、右下は濃い緑の古めの葉を表していて、左上にいくにつれて明るい若葉を描きました。古い葉では私が今までバリ島に対して持っていたイメージを表現していて、リゾート地であることや観光客が多くそれに伴いごみの問題もあることが私の古い葉としての考えです。それに対して若葉では、今回のスタディツアーで得られた新しいバリ島への考えを表しました。今回様々な人物や施設を訪ねましたが、バリ島としての新しい考えというよりも、人としての新しい考えについて触れた機会になりました。

その色々と訪ねた中で、私はブミセハットが特に印象深かったです。ただの助産院(病院)ではなく宗教・人種関係なく無償での診察を受け入れていて、今まで私はそのような病院を聞いたことが無かったので衝撃を受けました。それと同時に、ブミセハットではない助産院で不必要な帝王切開を勧めるところがあるという事実も、違う意味で衝撃を受けました。医師の給料やシフトの都合の良さ、また病院に入るお金のために、本来は自然分娩が良いはずなのに帝王切開を勧めるという身勝手なことをする人がいることを残念に思いました。そのような事実を知り、そこから自分の中で「都合」について考えるようになりました。私は、都合とは自分だけが幸せに近づくための最短距離なのではないかと考えます。しかし、自分だけが早く幸せになったところでその幸せがずっと続くとは思いません。イブロビンやイブサリのように、自身の辛い経験を乗り越えて、自分が一番辛いはずなのにそれを人に見せず、他の辛い思いをしている人に還元していくという心の持ち主が、幸せになっていくのではないかと考えます。幸せは他者に共有していくことでその輪が広がり、ずっと続くとも考えます。実際に、ブミセハットの院内にある素敵な絵画やイブロビンの肖像画は患者からいただいたものだと聞き、無償で診察すること自体が患者の助けになっていますが、それに対してさらにイブロビンへお返しをしようという気持ちが相互の幸せの表れなのではないかと考えます。

My tree の若葉の部分には上記のような考えなどを表しましたが、葉の（分かりにくいですが）濃い緑と薄い緑の中間色の部分には、まだ消化しきれていない情報を表しています。膨大な量の情報を短期間で吸収したので、あの時の意味はこうだったのかと理解できる日がくるように生活したいと思います。

新しく得た価値観

今回のバリ島スタディツアーでは Earth company の方々が盛りだくさんのプログラムを用意してくださり、日本にいるときと全く違う時間を過ごすことができました。その中で感じたことをいくつか紹介したいと思います。

まずはデジタルデトックスについてです。私は暇さえあればスマートフォンを触ってしまいますが、バリ島にいる間は Wi-Fi がないとインターネットを使えない状況でした。そのため、写真を撮る以外にスマートフォンを見てしまう時間は Mana（ホテル）にいるときかカフェにいるときだけでした。ほとんどの時間は Wi-Fi がなかったので、デジタルデトックスがとてもできたと実感しています。メディテーションで朝から田んぼを歩いたとき、スマートフォンに囚われる生活の中では感じる事ができないような虫の声、朝日、永遠に広がる緑などの自然をたくさん吸収できました。特に Mana から田んぼに繋がる道は印象深かったです。細い道でバイクに乗って走っている現地の方とすれ違くと、笑顔で挨拶してくださり、自然の気持ち良さの他にも人の温かさも感じました。Mana を出発した直後の道は日陰が続いていますが、少し歩くと日向に出て、朝日を浴びながら歩いた時間は忘れられません。スマートフォンのことを忘れて自然に触れ合う時間の大切さに気付きました。

次にバリ島で食べたご飯についてです。外国の食べ物が口に合わないという人も一定数いるかと思いますが、私はバリ島のご飯がとても美味しく、自分に合っていたと思います。Mana の食事も体に良いものばかりで、体の調子が整った気がします。事前にインドネシア料理をいくつか調べてから行きましたが、食べたいと思っていたミーゴレン（インドネシア版焼きそば）とサテアヤム（インドネシア版焼き鳥）を自由時間に食べる事ができて嬉しかったです。私は辛い食べ物があまり得意ではないので辛かったらどうしようかと思いましたが、全く辛くなかったので美味しく食べる事ができました。

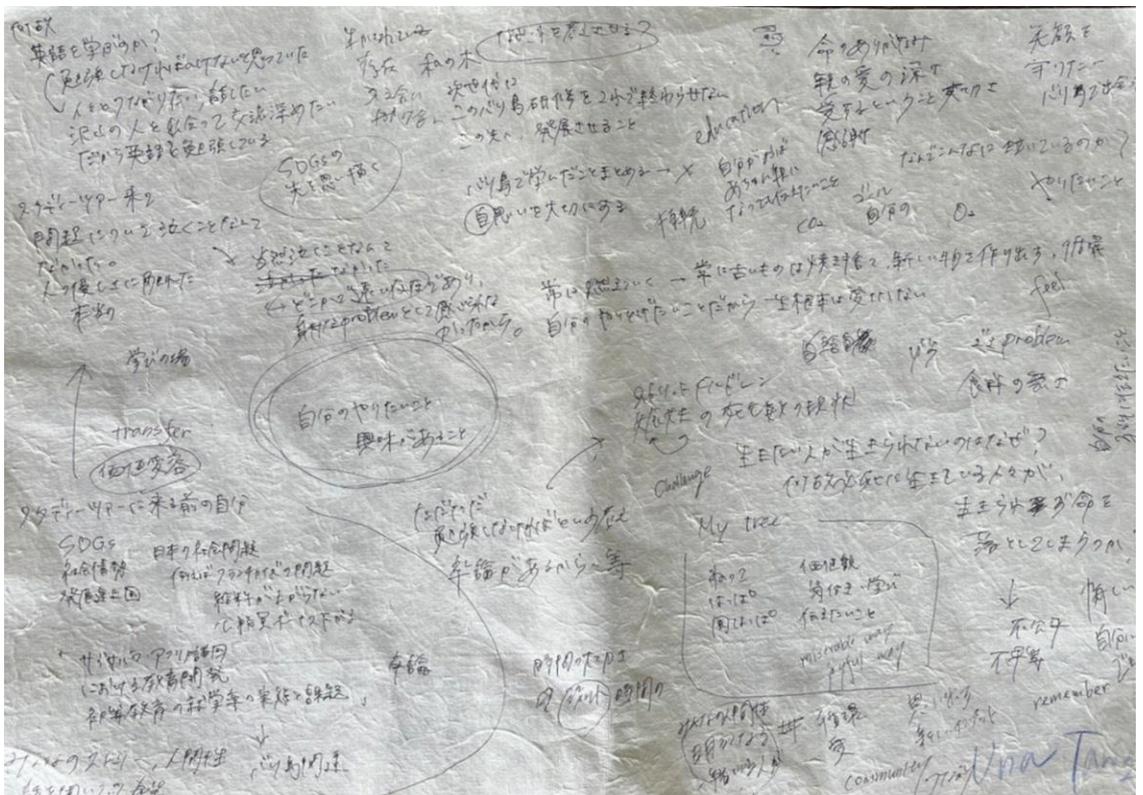
次に、世界遺産についてです。Earth company の方々が祝福の時間と称して、最終日に世界遺産であるジャティルウィに行く時間をくださいました。ジャティルウィは広大な棚田で、一面に緑が広がっています。そこでも田んぼのメディテーションのように一人で振り返る時間がありましたが、今まで見たこともない素晴らしい自然を目の前にして、圧倒されてしまいました。空気はもちろん澄んでいて、五感で素晴らしいさを感じることができました。偶然でしたがジャティルウィに行った日は私の誕生日で、そんな日に世界遺産に行くことができ今までの誕生日の中で一番素敵な体験をしたと思います。毎回の移動中に車内から川が見えたりすることが多かったのですが、正直あまり綺麗という印象はありませんでした。しかしジャティルウィにある小川は水が澄んでいて綺麗でした。標高が高く、上流にあるからなのかなという会話も生まれました。

最後に、人の温かさについてです。バリ島でいろいろな方のもとを訪ねましたが、どなたも非常に寛容で温かい方ばかりでした。イブロビンの”I love you”やイブチキンの「もう私達は家族だからいつでも帰ってきてね」という言葉が今でも印象に残っています。イブチキンは PKP center で私達に料理を教えてくださいました。揚げバナナなど、シンプルな食べ物ですが日本では再現できなさそうなくらい美味しく、味はもちろんですが PKP center で皆と食べたので、より美味しく感じたのかもしれませんが。帰り際にイブチキンとハグをしましたが、どんな人のことも包み込むような素晴らしいパワーを感じ、またそのパワーをもらいました。

スタディツアーというと、最初は語学を伸ばすようなことだと考えていました。もちろん英語を話すこともあり、個人的には久しぶりに海外で英語を話しましたが、ちゃんと通じたときの達成感や楽しさを感じました。しかし語学力の成長以上に、人としての成長のスタディツアーだったと思います。新しく得た価値観を大切にしていきたいです。

そしてこのスタディツアーは様々な方の支えで成り立っていました。大学生の間にこのようなスタディツアーに参加することができて本当に良かったと思っています。素敵な経験をさせていただき、ありがとうございました。

My Tree



今回のスタディツアーに参加し、これまでの人生で経験したことがないほど、自分の内なる感情がかき乱されたような気がしています。

私の脳内はバリ島に住む皆さんのお話を聞いて吸収したこと、自分自身で考えてみた内容等でぐちゃぐちゃにかき乱されていたため、My Tree を描こうとしてもすぐに描くことはできませんでした。そこで、まずは整理をしようと、裏面に自分が感じたことについて書きました。(前頁、下部の写真)

主に、バリ島で体験して疑問に思ったこと、今の自分には何ができるのか、自分の今後の人生について頭がいっぱいになっていました。そこで、日本に帰国し、また一から勉強をして学びをさらに発展させていく中で、自分の原動力となるものは何だろうと考えました。それは、「自分の内なる感情」であると考えました。自分にとっての幸せは何か、何を大切にしているか、今後どうなりたいのか等、自分の「気持ち」が最も大切なのではないかと考えました。

しかし、スタディツアーに参加する前はそれが大切であると分かっているながらも、大学の課題やアルバイト等で忙しい毎日を送っていたため、自分のための時間が疎かになっていたと感じています。このように、誰もが重要視していても、無意識的に周囲の空気を読んでいたり、ルールから外れることを恐れていてこの時間を大切にできていないのが日本社会の現状であると思っています。

そこで、今後はこの「自分の内なる感情」を考える時間、それについて行動する時間を大切にしていこうと考え、この想いをどうにかして My Tree に描きたいと思いました。My Tree は、自分の熱い想いとなる炎が中心部にあり、それは木の中にあっても燃え尽きることはなく、この想いは自分にとっての「持続可能」であると考え、描きました。

これを My Tree に描いて、家族や友人、周囲の人々に想いを伝えていくことにより、狭い考え方になりがちである日本社会が少しでも変わっていけば良いなという想いも込めて描かせていただきました。

以上が、My Tree に描いた「想い」であり、この tree は私にとって原動力であり持続可能なものとなっています。

私の価値変容

正直なお話をする、このスタディツアー中にたくさん涙を流しました。日本に帰りたいとホームシックになっていたというわけではなく、体験中にバリ島で起こっている様々な問題について、初めて身近に感じたためです。

これまで環境問題や初等教育の就学率の問題、日本社会の現状について興味があり自分なりに勉強を進めてきました。また、卒業論文では「サブサハラ・アフリカ諸国における教育開発－初等教育の就学率の実態と課題－」について書こうと決めていました。しかし、今振り返ってみるとこれまでの学びは身近な問題としてではなく、どこか遠い存在であるかのように捉えていたのではないかと思いました。

実際に発展途上国であるインドネシアを訪れ、現地に住む方々のお話を聞いて最も涙を流した内容は主に二つあります。まず、イブ・ロビンのお話から、貧しい人々は医療を提供される機会すらも奪われ、救われるべきお母さんと赤ちゃんの命が絶たれてしまったという非常に残酷な問題について考えさせられました。「なぜこの世の中は生きたいのに生きられない人がいるのだろう」という問いについて頭がいっぱいになりました。

次に、幸せそうに見えるけど幸せじゃない人がたくさんいるという千夏さんのお言葉についてです。バリ島の人々はすれ違っただけで満面の笑みで挨拶をしてくれて、目が合うだけでもニコッと笑顔を見せてくれました。大人も子どももとても幸せそうに微笑ましいと思っていました。しかし、千夏さんのお話から、バリ島のあちこちにストリートチルドレンがいて、苦しんでいる子どもがいる事実を聞きました。この事実を知って、バリ島の人々を微笑ましいと思った自分をとても恥ずかしく思いました。いつも笑顔な人でも、貧しかったり病気に苦しんでいる人がいたり、陰で苦しんでいる人がたくさんいる現状を知り、涙が止まらなかったです。

このように、スタディツアー参加中にたくさん涙を流した私ですが、日常的に泣く機会は少ないです。それでも、こんなに涙を流した理由は、様々な問題を知った上で泣くほどの「何か」があったわけで、自分に何かできることはないのかと不甲斐なさからもあったと思います。この「何か」が今は分からなくてもこの気持ちはとても大切であり、模索しながら今後の自分の学びにつなげていきたいと思っています。

これまで話してきたことから、スタディツアー中辛いことや悲しいことばかりだったように感じるかもしれませんが、当然そんなことはなく毎日忙しいスケジュールの中でも精一杯学んで友人と語り合っ、睡眠時間を削ってでも一日の学びの内容を復習してみたりと、非常に充実していた期間であったと思います。

たくさん新たな発見があった中で、特に自分にとって大きな発見となったものがあります。それは、実は人見知りではなく、自分にはいざという時でも行動力があるという発見です。

これまで新しい人々と出会う中で、緊張が解けてから仲良くなるまでの時間がかかるため、自分はずっと人見知りだと思っていました。しかし、スタディツアーに参加すると、英語をもっと話せるようになりたいという思いが強いためか、現地の人に道を聞いてその後おしゃべりしたり、空港でサーフボードを持っている人に「私もサー

フィン最近始めたの」と話すきっかけを作っていたりと、自然と外国人に話しかけている自分を発見しました。

これは私にとって非常に素晴らしい発見であり、言語が異なる人に躊躇なく話しかけられる行動力を身に付けたのだからこの機会を逃すのは勿体無いと思いました。何かできることはないかと、日本に帰ってきてから外国人のコミュニティに入る機会を作り出し、実際に外国人の友人を作ることができました。この行動力を知れたことにより、自分は例えどんな状況下に置かれたとしても、その環境に適応する能力を持っているのではないかと自信がつけました。

大学一年の頃から、「発展途上国における教育問題」の授業を履修しており、海外スタディツアーに参加することを目標としてきました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響から現地を訪れることは許されず、今年やっと目標だった研修への参加が叶いました。この研修では、自分の想像を遥かに超えた学び、価値変容、新しい発見等を手に入れることができたと感じております。また、海外を訪れたのは初めてではありませんが、間違いなくこのスタディツアーは私の人生において忘れることの無い経験になったと思っております。

My Tree



私の根には、私のなりたい自分がいます。バリ島で話をしてくださった方々に共通する「挑む勇氣」や「エネルギーを与え続ける姿勢」は、周りの人々に喜びを与えています。そして、それぞれの希望を育てているのです。特に印象に残ったのは、Robinさんの「私たちの世代が解決できなくてごめんなさい」という言葉です。人生の大先輩から、謝罪の言葉が伝えられるとは考えてもいませんでした。私は、様々な課題を解決できないまま世代交代をするのではなく、自信を持って地球を後世に渡したいと心に決めました。

幹は、これから大切にしたい考えで成り立っています。Sariさんは、困難は肥料であると語っていました。肥料があることで成長できたと思うと、気持ちが楽になります。さらには、「決めるのは宇宙だから好きなものを選ぶ」というSariさんからのメッセージは、芯として心に深く届いた言葉です。私の木を築くのも、私の自由であり、好きにしてよいのだとわかりました。

たくさん葉は、大切な人やこれから出会う人に届けたいことで溢れています。私の大切な人には、「生きる」を感じ続けるために、情熱の追求や夢を持つことを大切にしたいです。Akoさんから「1日のうちにある選択分、世界を変えることができる」と学び、選択できる権利を無駄にせず互いに心を動かし合う関係性を築けることを広めたいと思いました。ハピネスが自分自身の中にあるとしながら、様々なことに対する「怒り」を「愛」に変えられる力を伝えます。

根、幹、葉のすべてに関わりを持つ「愛」は水となり、再び「木」に戻ります。愛の循環が生まれるのが、私の木です。

Me

バリ島は、1年前にオンラインで繋がっていた場所が目の前に広がる夢のひとつでした。最も印象に残っているのは、manaでの学びです。

「自分は何を流しているのか、何を捨てているのか」。この言葉を初めに聞いたときは他人事でしたが、manaでの食事やお祈り、生き物たちの鳴き声が私の考えを大きく変えました。manaの健康的な食事は衝撃的な美味しさでした。幸せでいっぱいになったとき、畑に携わってくれた人や調理してくれた人、食事を用意してくれた人はもちろん、自然への感謝が生まれました。根元から支えてくれる土や栄養を与えてくれる水や肥料、見守ってくれる太陽や風、多くの仕事をしてくれる虫や鳥、一緒に過ごしてくれる植物など、自然がなければ生きていくことができません。さらには、お祈りをするために靴を脱いで裸足で土に触れたとき、心が揺れ動きました。ひんやりとした土やその上に生えている草は、私の足を刺激しながら優しく包み込んでくれました。自然との繋がりを強く感じ、下から支えられて生きていると思いました。生き物たちの鳴き声も私の刺激となりました。朝はニワトリ、夜はカエル。初めは音が気になって眠ることがで

きませんでした。時間帯によって移り変わる鳴き声を体感し、共存している気持ちよさを覚えました。朝から夜になり、そして次の日の朝になり、日々は繰り返されていきます。生き物たちと一緒に毎日を刻んでいることで、この場所には人間である私だけがいるのではないとわかりました。Aska さんの「必要でない生き物はいない」という言葉を最終日に聞き、生き物を大切にする義務を感じました。このような経験は、「何を流すのか、何を捨てるのか」と私に問いかけました。「使う責任」は物の最期まであります。物が手元から離れた先を想像して過ごしたいです。



写真：mana での朝食

もう繰り返すことのできない唯一無二の経験をして生まれ変わった私は、帰国してから新しい自分で日々歩んでいます。私は、日本に帰国した 2022 年 9 月 16 日から様々な違和感をメモにまとめていました。しかし残念ながら、メモの更新は 3 日後の 19 日で止まってしまいました。あっという間に日本の時間軸に飲み込まれ、感じる違和感がなくなってしまったのです。たった 3 日間のメモをここに記します。

- ・人がニコニコしていない。誰も挨拶しない。歩く速度が速い。
- ・電車に乗っている全員が俯いている。
- ・エアコンの風が気持ち悪い。気が付いたら外の風を感じたくて窓を開けていた。
- ・おやつのマスカットが蟻に食べられてしまうと心配。机に置かずに早く食べた。
- ・犬がリードに繋がれていて驚いた。

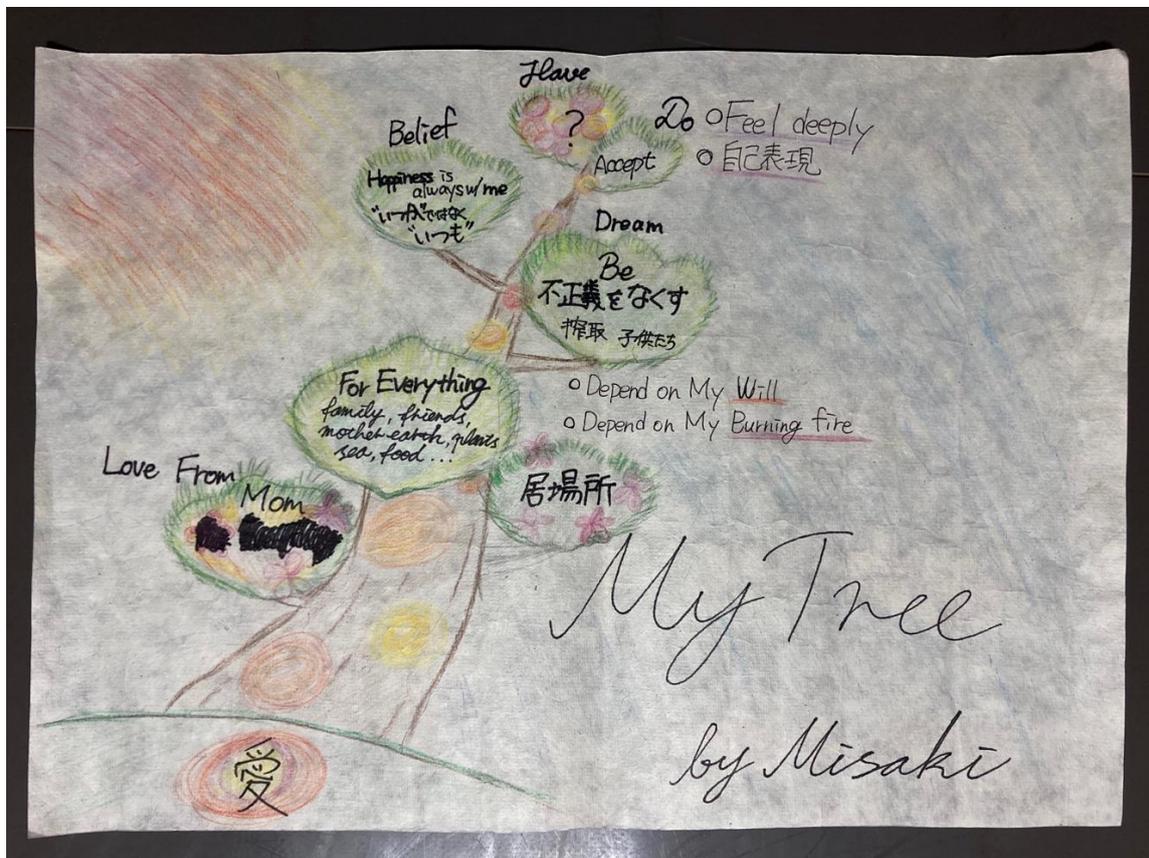
私の日本で過ごしている日々は、生き物や自然と大きく切り離されていたと気が付きました。人間である私だけが勝手に生きることは、したくありません。循環の一部として、責任のある行動をして生きていきたいです。My tree というビジョンを持って、

全ての生命が「Joyful」な人生を送ることができるように愛を注ぎ込みます。



写真：Manaの木々たち

My Tree



私は、これを描く際、1週間の Study Tour で学んだこと、感じたことを全て書き出してみました。似ていることをリンクして整理する中で皆さんのお話の中に共通性が見え、それが表現しやすい木の形を考えていたときに、ふと「松にしよう」と思いつきました。この My Tree は自分の過去と未来を表し、下部には自分の土台となるものやバックグラウンド、上部にはそれを受けて将来の夢と、それを実現するための Be-Do-Have を描きました。

この Study Tour を通して最も印象に残ったことは、お話を伺った方々が皆、愛と高い志を持って夢に向かって努力されている方々であったということです。こんな大人は今まで出会ったことがありません。中でも、助産師イブ・ロビンは妹、そして全ての子供、妊婦さん、人、動植物への愛のもと、「貧困は命を諦める理由にはならない」と、妊婦に無償で医療を提供し、子供たちの性教育にも力を入れています。この素晴らしい活動の全ては、愛が起点なのです。そして私に愛情を注ぎ、「愛」の存在を教えてくださいました。現在離れて暮らしている中、日々の

タスクに追われて忘れかけていましたが、千夏さんのお話や、参加メンバーの親子関係についての話、奥切先生の「息子や父にはわからない、母と娘は特別な絆で結ばれている」というお言葉を聞き、私を常に応援し、いかなる時も無償の愛を与え続けてくれる母の「愛」を再び感じ、過去には両親の愛があって自分が生まれ育ち、将来はロビンのように、愛に溢れた人生を送りたい、という思いを込めて My Tree が根を張る土の部分、すなわち自分の根底にあるものとして「愛」と書きました。それには決まった形がなく、とても暖かかくて優しいものだと考えたため、暖色を使ってぼんやりとした表現をしました。

次に、その愛を今度は私が与える番だ、という思いから For Everything と書きました。ここには2つの思いがあります。1つは、このツアーで出会った方々のように、広い愛で全てを受け止め力に変えて、人に、この地球に、貢献したいということ。2つ目は、自分が mana で体感した“Part of Nature”=“自分が生態系の循環の一部になる”ように、私も愛を循環させたい、愛の循環の一部になりたいという思いです。そして、広く、深く、万物を愛するには右に描いた「居場所」が必要だと考えます。さゆりさんの「居場所」とは自分が安心できて、五感、感情を解き放てる場所」というお言葉が印象に残り、自分の居場所は家だけではないことに気付かされました。これは母の愛と共にツアーで気付くことができたものであるため、花を咲かせました。

上部には、濱川知宏さんの Be-Do-Have に準えて自分の将来を構想しました。日本は Do-Have-Be の社会であり、まずは頑張ること、そうすればいい大学を出ていい仕事に就き、収入を得られる。そうして人生の喜びや幸せが叶うと教えられています。が、実際は Do に追われ、Have でお金を得ても、幸せな Be には達さないというお話を聞き、私がなんとなく感じていた日本社会への違和感を分かりやすく分解して下さった気がしました。そこで私は、まず Be として「不正義をなくす」と書きました。亜子さんから教えていただいた観光業によるバリの資源搾取、住民よりもはるかに多いゴミの排出がゴミ山にスラムになっていること。イブ・ロビンやイブ・サリの元に集まる女性や子供、明日香さんのお話にあったサモアの人々など、立場の弱い人々が虐げられ、富める者・先進国の発展と引き換えに起こった気候変動の被害に遭う。こんな世界ではダメだ。この不均衡を無くしたい。バリでは子供を産み育てるお金がない家族でも、畑や家売ってお金を得るそうです。そんな困難な状況の中でも家族に愛され、大切に育まれた子供たちの未来を、バリで出会った子供たちの笑顔を守りたい、そんな思いからこの夢を描きました。しかし、それは簡単なことではありません。気候変動1つを取っても要因は数多く、問題へのアプローチ方法も多種様々で、何が正解かもわからない、大変難しいものです。実は以前にも同じ思いを抱いたことがありましたが、上記の理由からすぐに諦めてしまいました。しかし私はもう諦めません。千夏さんが自分では解決できずとも、幼稚園・小学校の運営を通して「希

望を育てている」とおっしゃっていたように、自分にできる方法で、実現が自分の死後になろうと、この夢を叶えます。夢を追い続ける大人たちの姿を見て、自分もそうなりたと思いました。イブサリのくださった、成功に必要な WOA の 1 つ Willingness と Burning fire in your heart という言葉を胸に、私はこの夢を叶えに行きます。そのための信条、座右の銘を左上に書きました。イブ・ロビンの Happiness is always with you そしてさゆりさんの「"いつか"ではなく"いつも"なりたいたい自分であるように」という 2 つの言葉です。ツアーでお話を伺う中で感激した言葉は沢山ありますが、これだけは常に頭に置いておきたい、大切な言葉です。

この「不正義をなくす」という Be を実現するためには、多くの Do が必要です。そのうちの 1 つ、濱川明日香さんから学んだ Do を書きました。それは「他人も、自分も、受け入れる」ということです。今まで私は不正義をなくす=不正義を振りかざす権力者を正すと捉えていましたが、彼らは彼らの信じる正義があってその言動に至るため、彼らの意見を聞き、受け入れることで解決策が見つかるかと教えて頂きました。自分は相手のことを知り得ないため、相手を受け入れ寄り添わなければ、決して自分の主張、ましてや「行動を改めてほしい」などは当然聞き入れてもらえません。そして明日香さんから教えていただいた夢を叶えるレシピの一つ、「自己表現」というお言葉を「自分を受け入れる」と捉えて表記しました。なぜなら、まず自分を受け入れなければ自分を表現できないからです。自分を受け入れ、自分が見たもの触れたもの、肌で感じたものを信じ、自分の中に落とし込めてゆっくり吟味し、自分の言葉で表現をする。イブ・サリの”**Feel deeply**”という言葉は「自己表現」のためのヒントなのではないか、と時がたった今だからこそ思います。

そして最後に、“Have”で何を得るかはまだまだ分かりません。しかし 1 つだけ言えることがあるとすれば、人を愛し、万物を愛し、愛を持って「Be を描いて」「Do を実行」することで、Have には愛が溢れていて欲しい、そんな思いからこの絵を描きました。

これが私の My Tree です。

(追記：左上は太陽の光です。バリは太陽が近いため大きくて力強く、形が見えませんでした。その風景を忘れないよう描きました。そして、経験したものをそのままの形で残したいと思い、言語を統一していません。ご了承ください。)

愛に包まれた 1 週間

このツアーを通して私が 1 番身に染みて感じたのは、人の温かさです。

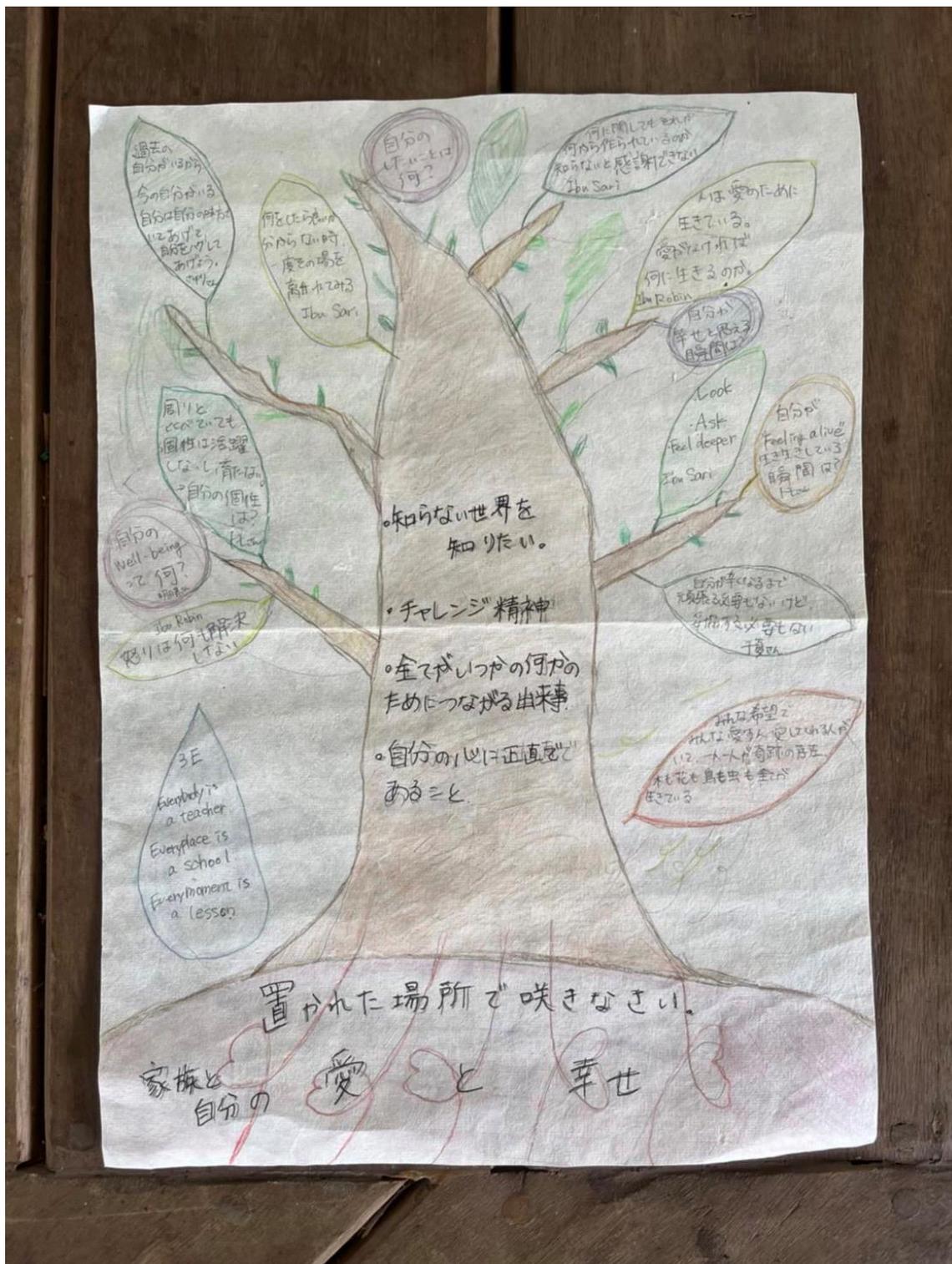
イブ・ロビンにお会いする前日、明日香さんから「ロビンは愛の人だ」とお聞きしており、実際に彼女が医者 of 不適切な診療により妹様を亡くされ、その怒りを貧しい

妊婦への愛に変えて、イブセハットを開設したというお話を聞き、驚きました。自分も妹がいますが、彼女がそんな目に遭ったら、私はその医師を一生憎んで暮らすと思います。しかし、ロビンは妹だったらどうするかを考え、怒りを「もう二度と同じことが起こらないように」と全ての妊婦、家族への愛に変えたそうです。また PKP では、そこにいた全員が私たちを温かく迎え入れてくれました。そこで強烈に記憶に残ったのは、サリの妹、イブ・チキンです。彼女と顔を合わせたのはたった 30 分、一緒にお菓子を作っただけです。それなのにも関わらず、最後に「あなたたちはもう私の家族だから、いつでも帰ってきていいのよ」という言葉をかけてくださり、私はとても驚きました。こんなにも温かく、人を包み込んでくれる人は見たことがありません。今考えると、イブ・サリの愛が妹様や PKP に助けを求めにくる人々の心を温め、それを受けて PKP にいた人たちが私たちに愛を持って接してくれたのではないか、と思います。My Tree にも描いたように、今度は自分がこの愛を周りの人に伝えていこうと感じた貴重な経験です。

そして、共にツアーに参加した仲間の温かさにも包まれました。私は教育学科ではないので、ほぼ全ての人とツアー初日に知り合いました。1 週間、バリの文化や自然、偉大な方々の愛に触れ、感想を共有して共に濃い時間を過ごして迎えた最終日、My Tree の発表を 1 人ずつ行いました。私が心の内を全て話し終えた後、「そんな話聞いてないよ、相談してよ」と声をかけてくれたり、私の何気ない行動に感謝や称揚の言葉をかけてくれたりしました。親友にも話しにくく口にしなかった家族に関する話も、ツアーでは話すことができたのは、参加メンバーたちが、私の作っていた壁を簡単に壊し、低かった自己肯定感を上げてくれたからだと感じています。

人生で 1 番、多くの人から愛を感じた 1 週間でした。このツアーに同じ志を持ったメンバーと共に参加することができ、心からよかったと思っています。この経験は人生の宝物です。最後になりますが、引率の永田先生、奥切先生をはじめ Earth Company の皆様、お世話になった皆様とバリの自然、そして何より応援してくれた両親に心より感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。

My Tree



私の My tree は、両親や家族からの愛で出来上がっていることや、家族の幸せが自身の幸せであることにも気づけたため、肥料を多く含む土壌には、愛と幸せを描きました。また、私を強く支えてくれている言葉に、「置かれた場所で咲きなさい」があります。聖心の卒業生で、シスターの渡辺和子さんの著書のタイトルです。本も読みましたが、この言葉に救われたきっかけは、高校受験の時です。私は、幼稚園の頃から、先生方からリーダーを任されることが多く、そのことに責任を持って、役割を果たしてきていました。最初の頃は、そういう自分についてきてくれる友達が多かったのですが、小学校高学年になると、学級会長や委員長をしている私は、グループを作る時などに、入りづらくなってしまいました。威張っていたわけではありませんが、クラスメイトから「会長」などと呼ばれ、気兼ねなく話すことが私の中で難しくなりました。中学生になってからも、人前に立つ役職につき、友達も作れず、小中学生の青春を楽しめなかったと思っていました。友達も作れず、習い事ばかりしていた私は、勉強にも力を入れ、高校は自分の望んだ環境で、楽しいと思える学生生活を送りたいと強く望んでいました。しかし、高校受験に失敗してしまいました。自分が望んでいない地元の私立高校に入学することになり、これ以上自分が楽しいと思える生活を送ることはできないのだ、と思い込んでいた時に、この言葉に出逢います。卒業間近に、音楽の先生が、受験を終えた私たちに、贈りたい言葉として、「置かれた場所で咲きなさい」を紹介してくださいました。この言葉を聞いて、私は、「どの環境に置かれても、その場で自分が楽しく幸せであれば、咲けるだろう、頑張ろう」と思えました。この言葉のおかげで、自分が望んでいなかった場所や役割だったとしても、それに向き合って頑張ろうと思えるようになりました。何事も前向きに頑張れる根源は、この言葉にあります。今回のスタディツアーでイブサリから教わった 3E は、この言葉をより豊かにしてくれたと考えます。"Everybody is a teacher, Every place is a school, Every moment is a lesson." 誰もどこもどの瞬間も無駄なことはなく、置かれた場所で吸収できるものは、吸収して学んでいこうと思います。その土壌から育った木の幹には、自分の個性や価値観があると考えました。この夏休みは、自分を知る機会になりました。一人で海外に行き、約 1 ヶ月暮らすことで、日本とは違う文化や価値観に触れ、まだまだ知らない世界を知りたいという好奇心が芽生えました。いろいろと経験している人は、人生が豊かだと思います。全てがいつかの何かに繋がっているから、そのために今を頑張っていこうと思えるようになりました。ただ、無理をすると苦しくなるため、自分の心に正直であることが大事だということにも気づけました。

スタディツアーで聞いたお話の中で、救われた言葉やもっと自分でも考えてみたいと思えるような言葉がたくさんありました。さゆりさんに、小中学生の頃自分が抱えていたモヤッとした気分を話しました。その時に、「過去の自分がいるから、今の自分が

いて。自分だけは、自分の味方でいてあげてね。自分はよく頑張ってきた、よく頑張っているとハグしてあげよう。」という言葉を下さって、私はとても救われました。自分でもそう思うようにはしていましたが、人からそう言ってもらえるのは、私にとってとても心の癒しとなりました。また、千夏さんの言葉で「自分が辛くなるまで頑張る必要はないけど、妥協する必要もない」という言葉が私の中に印象づけられています。頑張る必要がないなら妥協してしまおう、とってしまいそうですが、妥協する必要がないのなら、納得するまで物事と向き合っていこうと決心ができました。

今後、考えていきたいこと、蕾として、「自分の well-being は何か」ということと「自分が生き生きできる瞬間はいつか」ということです。日々の生活で幸福感はあると思いますが、仕事の面でも幸福感を得られるような仕事に就きたいと思うようになりました。スーツを着て、カッコよく出勤することもしてみたいですが、海外でその国の時間の流れに身を任せて、仕事をしてみたいとも思っています。どちらも叶えられた時、私は幸福度が最上になっているのではないかと思います。自分のライフイベントと併せてキャリアについて考えていきたいと思っています。

バリでいろいろな方と出会ってお話を聞いて、感じたことのまとめとして、「みんなが希望で、みんな愛す人愛してくれる人がいて、一人一人が奇跡の存在であること。人に限らず、木も花も鳥も虫も全てが生きている」。私はこの考え方、価値観にこの歳で出会えてとても幸せだと思います。地球には愛が溢れかえっている。そう思いました。

世界は愛で包まれる

ずっと行って見たかったバリ島へ、スタディツアーで行けて率直に嬉しかったです。観光で行っていたら、出会えなかった女性たちに出会えて、幸せだと思います。お話しして下さった方々に共通して言えることは、それぞれに「愛」があるということです。皆さん辛い過去があり、挫けて道を逸れそうになったけれど、自分としっかり向き合い、今の自分を心から愛せている人たちだと感じました。バリ島、特に mana は不思議で、自分が解放されたようなとても清々しい気持ちで過ごせました。何に対しても正直になれて、日が経つにつれて、自然そのものに感謝の心を持てるようになっていました。太陽が昇り、朝露が輝き、鳥のさえずりと鶏の鳴き声、昼は動植物がパワーをフル活用して生きていて、夜はスズムシやカエルの鳴き声など、癒しの時でした。

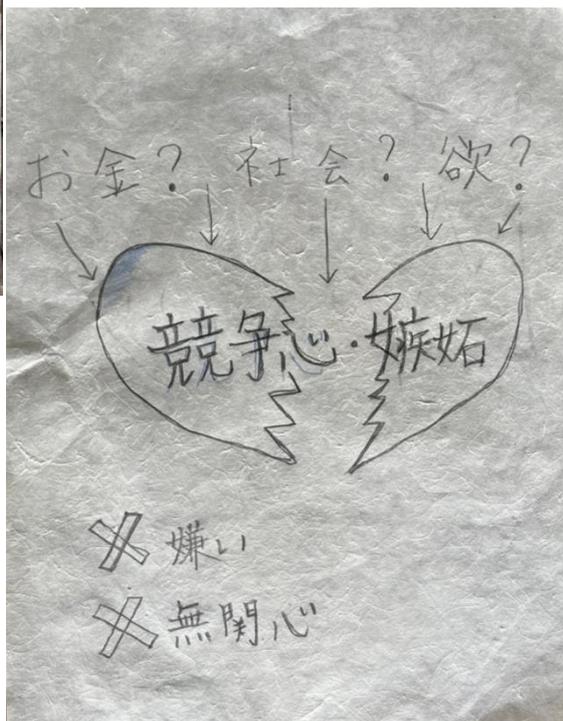
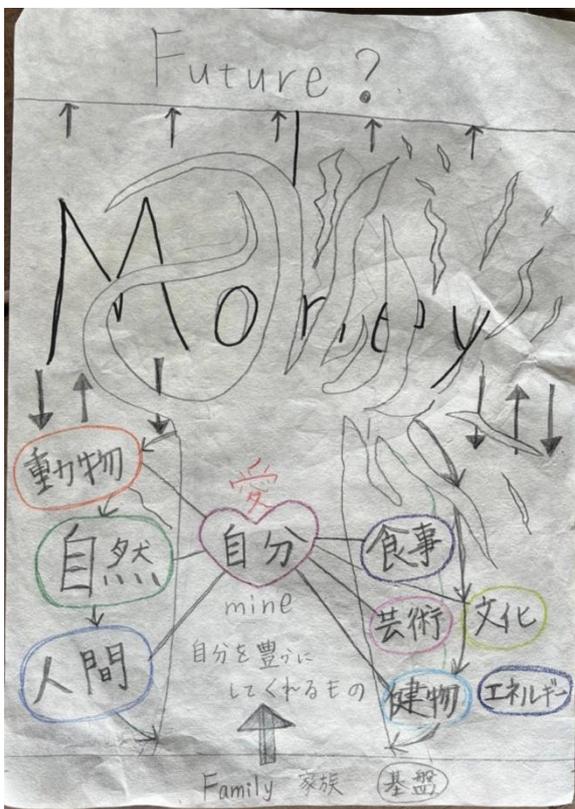
一番参加してよかったと思うことは、毎晩のリフレクションの時間です。自分が学んだことや心に留めておきたい言葉を振り返ることや、友人たちの心の内やどの部分が心に響いていたのか、などを知ることができたからです。永田先生が、到着した日

に、「帰る頃には、ほぐされて溶けているかもしれない」というようなことをおっしゃってました。そこまで、私は行けるか心配でしたが、毎日自分と向き合い、心に正直になっていくと、本当にほぐされて、溶けていくような感覚を感じることができました。初日は、バリに来ることができた喜びだけでしたが、バリにいる人々や鳥、虫、花、稲など全ての生き物に対して、感謝が込み上げてきました。それは、とても不思議な感覚でした。写真は、manaの部屋と植物とプルメリアの花です。バリの雰囲気と循環している環境に癒された1週間でした。海の写真は、サヌールビーチのレストランの2階空の景色です。ウブドの緑豊かな風景から一変して、鮮やかで優しいブルーの海に想いふけていました。海を眺めながら、自分たちの悩みを打ち明けて、涙して、記憶に残る時間となりました。世界遺産のジャティルウィでは、一人で散策しました。目の前に一面広がる棚田は、幻想的な世界に迷い込んだような錯覚に陥りました。どこまで歩いても田んぼが広がり、全ての田に水路が引かれていて人々の知恵と自然とが一体となっていることを体感することができました。また、バリの伝統舞踊を教えてもらった際に使った小道具です。祈りを込めて、宙に撒きます。日本では、あまりものを投げることはしないため、とても不思議な体験でした。文化にも触れることができ、貴重な経験ができました。





My Tree



私は第一に、土を家族にしました。家族とは自分自身を生んでくれた存在であり、一度木が生えた苗の位置は変わらないのと同じように、親は変わらないためそして自分にとって縁の下の力持ちのような、支えてくれる基盤として示しました。

続いて自分自身（mine）を木の幹としました。木の幹とは自分の信念のようなものだと思います。木の幹とは多種多様でありながら、幹そのものは太かれ細かれ変化しません。自分自身にも同じようなことが言えると思います。自分の価値観や信念、幸せと感ずることは誰しも持っておりその意志そのものは変わらないと思います。

そして、そんな自分自身の木を豊かにしてくれる肥料のような存在は様々です。動物や自然、芸術、文化、建物、エネルギー、人間…。様々な肥料が私たちの心や体を豊かにしてくれます。むしろこれらの肥料があるからこそ、木として成長できるのです。つまり言い換えると、このようなものがあるからこそ人は生きることができるようです。そしてこのような、人間や自然、動物などの存在により自分自身に愛が生まれます。

しかし、この肥料を得るためにはお金が必要です。お金を持つことによって、この人生を豊かにしてくれる肥料であるモノやサービスを受けることができます。では、お金がたくさんあれば幸せに、心が豊かになるのでしょうか？そうとは言い切れないかもしれません。お金は私たちの生活を豊かにする一方で、一番大切である自分自身の幹、つまり愛が減ってしまう恐れや肥料となる自然や動物を殺している面ももしかしたらあるのかもしれません。

では、なぜ愛は減ってしまうのか？愛の反対とはみなさんはなんだと思いますか。好きの反対は嫌いや無関心などとよく耳にします。ですが本当にそうでしょうか。もし無関心であったら、戦争などは起こらないはずですが。なぜなら他の国のことに対して興味がないのですから。私は、愛の反対は「嫉妬や競争心」なのではないかと思えます。自分を他人と比べ、比較して劣りたくない、もしくは自分は他者に比べて良くありたいといった競争心が生まれてしまうため愛がなくなりやがて憎しみへ変わってしまうのだと思います。でもそのような気持ちが生まれるのは自然なことだと思います。そのような感情が生まれるのはお金があるからでしょうか。それとも社会がそうさせているのか。私にもよくわかりません。むしろこのような欲とうまく付き合っていくことが一番大切なのかもしれません。そして木の枝は多種多様であり成長とともに伸びたり、また折れたりします。これは自分の価値観と似ていて経験とともに価値観の変容そのものが木の枝の成長ともいえるでしょう。

最後に普通なら木の上は空を想像しがちだと思います。しかし、私は空ではなく、土だと思います。木（=自分）が成長しやがて親になり自分が新しい木の基盤となると思います。こうして生の循環が出来上がってゆきます。その基盤となる土を腐化さ

せないためにこの肥料の存在を守り自分の欲をうまくコントロールしていくことが大切だと思います。

愛とは何かを模索するスタディツアー

皆さんは発展途上国についてどのようなイメージを抱いていますか？私は途上国に対して「かわいそうである」というイメージを抱いていました。しかし、そんなイメージとは少し違ったツアーになりました。

バリ島にあるブミセハット助産院という場所に訪れました。そしてこの建物を設立したロビンという女性にお会いし、お話を聞きました。その時のある言葉が忘れられません。「貧困は命を諦める理由にはならない」「平和が私たちの最も幸せなことです。そして私はこの世界をよくするのは何ができるか考えました。子どもとは peace of peace です。平和の種とは子どもにあります。」といいました。私は、お金や名声など見返りが無いのに、なぜそこまでできるのか。なぜ人を助けるのか。ロビンに聞きました。「私は人生において既にたくさんの gift をもらっているため、すでに満ちています。愛はブーメランです。人に与えれば与えるほど自分に戻ってきます。そして人間の体はメモリーを作る器なのです。愛のために生きなければ何のために生きるのでしょうか。そして子どもとは、愛が存在しなければ生まれません。」

そして、私は、愛とは何か強く考え、先生や友人たちと幸せとは、愛とは、答えのない問いを夜な夜な語り合いました。

私達、先進国の暮らしとは豊かで情報も物もたくさん存在し、自分自身で生きていくことができます。そのため自分自身で解決しなければ、人に頼れないといった心情が生まれ、プレッシャーに感じたりストレスを抱えたりすることもあります。対して発展途上国とは、モノも情報にも暮れているため、他の人の助けなしには生きられません。人に助けられてこそ自分自身がある、人を助け、助けられることが当たり前。町の人々はみな笑顔であり、見知らぬ人にも手を振るとても幸せな世界でした。日本の電車で他人に席を譲るだけで勇気が必要なのはなぜだろうと自問自答しました。そして、幸せとはもしかしたら物がたくさんあること。お金がたくさんあることが必ずしもそうと言い切れるわけではないことを感じました。人とのつながりでとても幸せを感じる日常をバリが教えてくれました。

両親、一緒に過ごしてくれた友人、応援してくれた周りの人、先生方すべての人に感謝が溢れ、改めて今の自分自身の幸せをかみしめることができました。そんな価値変容が生まれたバリスタディツアー、今度は私が周りに愛を伝えられる、愛であふれる環境へ。愛のある人になりたいと思いました。

My Tree



私の My Tree は、ピンクのハートの中に木を描きその木にはたくさんの葉っぱをつけました。また幹は太く描き、あえて根は描きませんでした。以上のことを詳しく説明していきたいと思います。まず、大きくピンクのハートを書いたのはスタディツアーを通して私は大きな愛に包まれているのだと感じたからです。私は一人っ子であるので今まで集団で生活したことは小中高の修学旅行や勉強合宿のみでした。スタディツアーでは9人部屋のお部屋に振り分けられて初めて9人で1週間弱過ごすことで常に他者を思いやる気持ちを持って過ごすことが大切であることを学びました。今までの生活では、1人しかいなかったのであまり気を使わずに生活していたのですがそれですと他者が不快な思いをしてしまうので気をつけて生活をしていました。それは私が思っているだけではなく私の他8人も考えていてくれたと強く感じました。お手洗いを使うときには「大丈夫？」とみんなに確認を取ってから使ったりすること、慣れない環境の中でみんなの体調を気遣う言葉などすごく温かい気持ちになりました。また、引率の先生方たちや現地でサポートして下さった方々にも愛を感じる事がたくさんありました。

次に、たくさんの葉っぱを描いたのはたくさんの知識や体験が増えたからでした。私は初めての海外だったため日本を出て空港から全てが目新しいものでありました。またツアーが始まり環境問題について考え知ることや様々な人のお話を聞くことで私が持っていた考え方の変容を感じることができました。

特に環境問題に関しては、いままで何も考えずに過ごしていた私の私生活がどれだけ環境破壊をしているのかを知りとても恐ろしい気持ちになりました。日本にいと当たり前になっていてわからないことがたくさんあるのだとも強く感じました。

また、幹は太く描き根をあえて描かなかったのは幹とは自分の軸であると考えたので太く描きました。私は自分の考えは変容したとしても軸となる自分を変えてしまうと自分自身の個性がなくなってしまうと思いました。自分なりの軸を持ち様々なことに関わりその軸のもとで変容していくということを表したいと思いました。そしてあえて根を書かなかったのは、その場に止まらず冒険をして自分が豊かになることを進んでしていきたいと思ったからです。私は今まで自分で決断して大きな物事を進めたことがほとんどなく親がいうことを進めてきました。しかしそれは自分の人生ではないと感じました。一度しかない人生なので自分がやりたいことをやり様々な冒険をして過ごした方が有意義に過ごせると感じました。

私の My Tree はハートに包まれていて根がなくぶかぶかと浮かんでいる実際の木ではあり得ない様なものです。このような木にしたのも自分なりの考えや軸を持ちたいと思ったからです。

My Treeの発表を聞き、私と違った意見を持つ人を見て周りに圧倒されました。私はあまり考えることができているのではないかと、良い機会を与えてもらっているのにきちんと吸収できていないのではないかと不安になりました。自分の

My Treeで幹を太く描いた様に自分の軸を持つことが重要と心に留めていました。自分の軸を持った上で、他者の良いところを学び自分に生かすことはしていきたいと思いました。My Treeを描いてから既にMy Treeが自分の軸になっているということを知りすごく有意義な時間をいただけたと感じました。これからもスタディツアーを通して考えたMy Treeを心に留めながら生活をして、定期的にはリフレクションを行いながら振り返りをして自分の人生を豊かにしていきたいです。

愛に包まれた7日間

私はスタディツアーを通して学んだことは大きく分けて三つあります。一つ目は、バリ島という島の良いところ。二つ目は、環境問題に関して深い学びができたということです。三つ目は、他者との関わり方についてです。

一つ目のバリ島の良いところとは人の温かさ、本来の自然があるということです。私は海外に行くのは初めてで、日本とバリ島の良いギャップを感じることができたと思います。日本では外を歩いていて目があたりしてもニコッと笑いかけたりすることはありません。しかしバリ島ではみんなが笑顔で通りすがりに笑いかけてくれることにとても驚きました。最初はなんでなんだろうという不信感でいっぱいでしたが、バリ島の人たちは心から笑いかけているということを知りとても温かい気持ちになりました。また、自然が豊かでありました。夜に聞こえるカエルの鳴き声、朝に聞こえるニワトリの鳴き声、様々な木や実、全てがとても心地よいものでした。私は青森県出身であり自然の音を聞きながら過ごすということがとても懐かしい気持ちにもなりました。都会では感じられないようなゆっくりとした本来の時間の進み方を感じることができた気がします。

二つ目は環境問題に関して深い学びをしたということです。いままでの私はお恥ずかしながら環境問題に対して身近なものではないと感じていました。しかし、実際にお話を聞くこと、体験を通して危機感を覚えました。スタディツアーで環境に優しい生活をして、東京に戻ったらまた元に戻ってしまうのではないかとも思いました。しかし、トモさんのお話の中であったように1つでも環境を考えた行動をしてほしいということを心に留めながら生活をする様になりました。私はコスメが好きで良く買うのですが、コスメを買うときにも成分表や作られた工程をしっかりと見ながら商品を買うようになりました。こうした一つの行動からだんだんと増やしていきたいです。

三つ目は、他者との関わり方についてです。スタディツアーの部屋割りでは九人部屋になりました。私は一人っ子でいままでそのような生活をしたことがありませんでした。ですので、他社を気遣いながら生活をする事の大切さを学ぶことができました。また、他者の優しさを心から感じる事ができました。みんなでみんなを気遣いながら過ごすことによりとても心地の良い存在同士であれると感じました。これからの学校生活や、社会人になってからも意識していきたいです。

以上が三つの学んだことでした。

この様な機会を作ってくださった先生方たちや現地でサポートしてくださった方々、参加させてくれた親に心から感謝をしています。ありがとうございました。

バリ島とみんな

大学教員の大半は授業やその準備、会議、研究活動、書類作成、雑務など毎日忙しい日々を送り、お昼もろくに食べる時間もなければ、同じ大学内であっても教員同士で雑談する時間もないような生活を送っている。私もその大半に属しているが、2022年の春、1号館から4号館へせかせか汗をかきながら歩いていると、たまたま永田先生に出会った。「こんにちは」の後に永田先生からいきなり教育学科のバリ研修の話があり、面食らったと同時に、永田先生の教育に対する熱意に感動・共感し、あっという間に引率に加わることとなった。2人の会話はものの数分だったが、今思えば大変運命的といえる。

そして気づいたら永田先生と学生のみならず一緒にバリに到着していて、言語や文化を専門とする私にはワクワクするような異文化体験ばかりのうえ、素晴らしい人々にも出会うことができた。濱川明日香さん、濱川知宏さん、藤本亜子さん、Nurさん、YuliさんやEpaさんをはじめとする Mana Earthly Paradise のスタッフの皆さん、Ibu Sari、Ibu Robin、望月小百合さん、石踊千夏さん、その他の皆さんがそれぞれのライフストーリーを私たちに共有してくださった。みんなで涙しながらストーリーを受け止め、学びを深めた。多くの方は、辛い思いをしたことがきっかけで、今では世界的に貢献する活動を続けている。誰しも生きていれば辛いことはあるが、世界に貢献するリーダーシップとは、悔しさや怒りを原動力とし「悲しい思いを他の人にはしてほしくない」という sacred heart から生まれるのだと感じた。そして自己開示が周りを変容させるパワーを持っていることも実感できた。

研修中は学生とともに壮大でありかつ身近な自然を五感で感じ、研修での学びを通してぐんぐんとみんなが変容しているのを目の当たりにし、教員としての感動も授受できる幸せに満ち溢れた毎日を過ごした。Ibu Robin からの胎盤 Angel の話も衝撃的であったが、研修中に私が動物病院に預けてきた14歳の犬が天国に召されそうになっているという連絡を受けた時、学生のみならず「私の Angel に祈ってあげる！」と言ってきて、その美しい気持ちのおかげで、なんと犬が元気になった。病気を治す薬とか目に見えるものではなく、人の発する聖なる気持ちが世界を変えていることを実感することができた。

とにかく研修中、私はご機嫌だった。学生のみならずの急成長を見守ることができ、そんなラッキーな場所に居合わせることができなんて教師冥利に尽きる。その上自分の体と環境を食と住から大切にできるホテルの滞在し、近所の素敵な香りのする花を私たちのために木を揺すって落としてくれたマダムまでキラキラして見えた。そう

だ、ちょっとした想像力で、周りの人や大切な人が何かを必要としているかは、見えるんだ！とバリの人たちが生活の一片や祈りから教えてくれた。

バリのことを学びに行ったのに、学びが深まるほどに、日本の持つ課題に気づくこともできた。その上みんなが変容していく姿を見て、教員である私が学ぶことだらけだった。よく「子どもは親の背中を見て育つ」というが、今回は全くの反対で、私が学生のみみんなの背中を見て成長できた。バリで出会ったみなさん、そして一緒に研修に行った Yoshi と学生の皆さんの温かい気持ちに心から感謝申し上げる。



写真：ジャティルウィ・ライス・テラスにて (2022.09.14)

【コラム⑪】 現地で驚いたこと

バリ島で実際に目にしたものと触れたもの、出会った人々など、日本との違いに驚かされる毎日でした。特に驚いたことについて、4つにまとめて紹介します。

① 循環

「Mana Earthly Paradise」は、敷地内の地面のほとんどが土でできており、宿泊施設の建物から一歩外に出ると、ジャングルが広がっていました！滞在中、夜間に雨が降ることが多かったのですが、少し前までの暑さと湿気が嘘だったかのように、雨が降ったときのひんやりとした体感に驚かされました。地面の土が雨を吸収し、一気に気温が下がるためです。コンクリートに囲まれた都心の生活の中では気が付けなかったことに感動しました。



② リユース



バリ島滞在中、訪問先の施設や民家で何度もお食事を提供していただきました。たくさんのおかずが盛り付けられた入れ物や、それぞれが取り分けるお皿は、竹とバナナの葉っぱでできていました。また、バナナの葉っぱは丈夫なので、形を変えて汁物を入れる容器にもなっていました。お皿は、内側の葉っぱを取り替えるだけで、外側のカゴは再使用できるため、とてもサスティナブルでした！

③ 人々の優しさ

現地で出会う人々は、皆とても明るく、すれ違うといつも声をかけてくれました。バリ島には、日本語を話せる現地の方も多いため、道で困っている時に日本語で話しかけてくれる方もいらっしゃいました。

知らない人だけれど、挨拶を交わしたり、にっこりと微笑んだりしてくれる温かいお人柄に、何度も心を癒され、私たちもこうして振る舞える人になりたいと思いました。



④ バイクが多い



バリ島では、バイクの数がとても多いことに驚かされました。一家に4台くらいのバイクがあり、通勤・通学で利用するそうです。朝のラッシュ時には、バイクに乗った人たちの渋滞ができていたり、大学を訪問した際には、学生のバイクがたくさん駐車されていたりして、日本では見られない光景に圧倒されました。道端に止められているバイクもたくさんありました！

11. 参加者アンケート結果

*スタディツアー終了後、参加学生全員に自由記述を含めた質問紙調査に回答してもらった。以下に、アース・カンパニーによる集計結果を掲載する。

SDGs のその先を思い描く 聖心女子大学 バリ島スタディツアー



Sep 2022

EARTH COMPANY

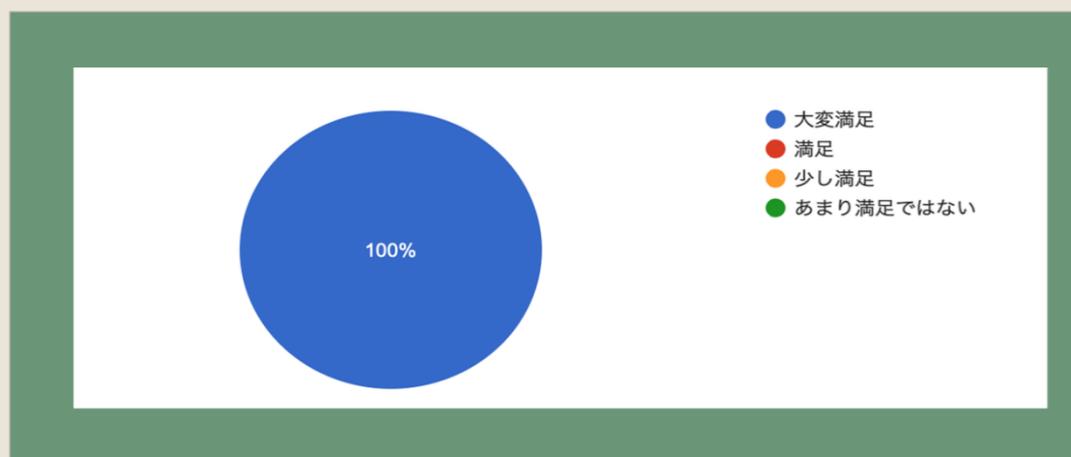
アンケート項目

1. 満足度
2. よかったセッション
3. よかったコンテンツ
4. 印象に残った言葉や場面
5. 社会課題・環境課題について
6. 社会課題・環境課題解決のために自らができること
7. 願う世界と次のキーメッセージ
8. 研修前後での変化について

2

1-1. 満足度-データ

100%の学生さんから「大変満足」の回答をいただきました



3

1-2. 満足度-理由(抜粋)

自分の未来現在過去を
考える良い機会と
なったから

今まで会ったことのない
ほど愛に包まれた方々から
Life storyを伺うことができ、
期待以上のものを学ぶこ
とが出来たから

自分自身の殻を破って
自ら積極的に学ぶこと
ができたから

私たち自身が自然や人
間関係の一部となり、
循環していることを
強く感じられたため

自分でも予想を遥かに超えた
自己変容があり、今までの何も
知らなかった自分に驚き、
当たり前を疑う大切さや平和な
世界には一人一人が愛を持つこ
とが大切だと改めて気付かされ
勇気づけられた

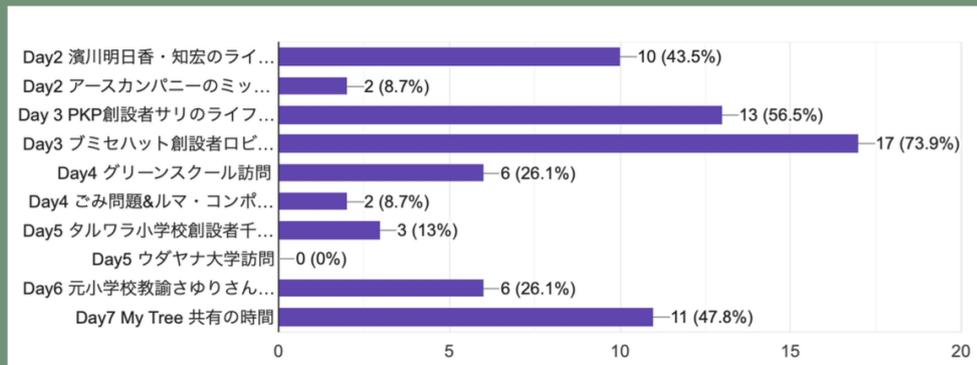
途上国だけに目を向けて
も問題は解決しないこと
、価値観は人の行動を変
えるということに
気づけた

4

2-1. よかったセッション-データ

全体総計TOP 3:

1.ロビンライフストーリー 2.PKPライフストーリー&アクティビティ 3. My Tree



5

2-2. よかったセッション-理由 (抜粋)

Day 2 Tomaska ライフストーリー

明日香さんと知宏さんの、周りの人間が成功しているのを目にしても自分の本当の幸せを追い求めたライフストーリーを聞いて、自分でも疑問だったどう生きるかという素直な問いの答えに繋がるヒントをもらえた気がする。

Day 3 PKPライフストーリー &アクティビティ

イブサリから沢山の人生の教訓になる言葉を学び、イブサリをはじめとするPKPにいた全員がとても笑顔で優しく、広い愛を感じることができ、音楽で繋がるのが出来たから。

Day 3 ロビンライフストーリー

ブミセハットでは、仲間と空間を共有しながら話を聞くことができた。人間の根源にある愛や生命の尊さを心から感じた。誰かのために動ける力や大きな愛を見習えるようになりたい。実際の出産場面を目にしたことがなかったので、出産から始まる人と地球の関係に感動し、生まれてくる権利は平等であると思った。

Day 4 グリーンスクール訪問

グリーンスクールでは、私がかつていた学校や学校の当たり前を覆した新しくサステナブルな教育現場を目の当たりにし、日本の学校にも取り入れることができたらと思うと同時に日本の問題点も考えることができた。

Day 5 さゆりさんライフストーリー

さゆりさんのお話は、去年オンラインで拝聴し絶対にお会いしたいと思っていた方なので、実際にお会いしお話を聞くことが出来た嬉しさと、さゆりさんが私たちの話を優しく頷きながら聞いてくださったことが印象に残っている。さゆりさんのような優しく強い女性になりたいと感じた。

Day 7 My Tree

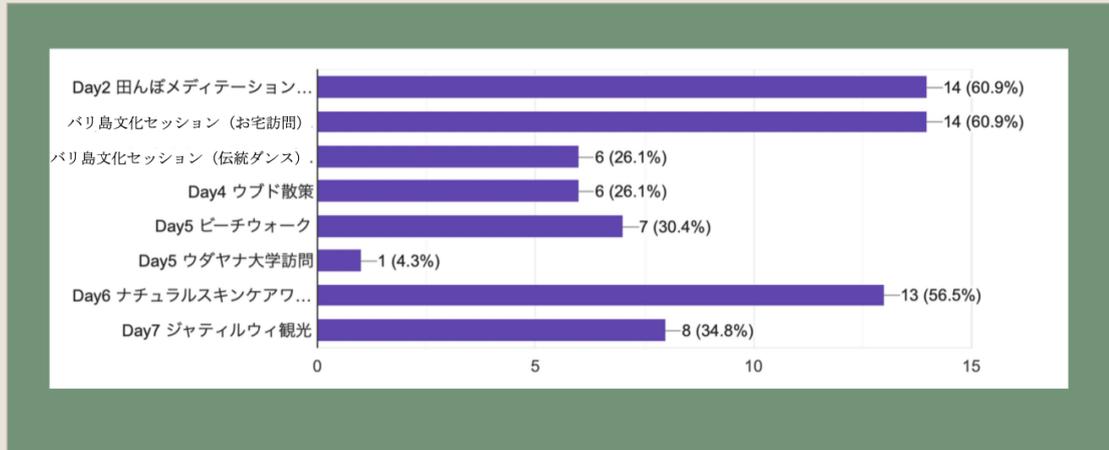
自分のこれまでの人生やこのスタディーツアーでの学びを振り返りながらmy treeを描き、自らの気持ちを整理することができたから。また、他の参加者の実りも共有され、自分だけの学びでは得られなかったであろう考え方や視点を知ることができた。

6

3-1. よかったコンテンツ-データ

全体総計TOP 3:

1. 田んぼメディテーション 1. バリ島文化セッション (お宅訪問)
3. ナチュラルスキんケアワークショップ



7

3-2. よかったコンテンツ-理由 (抜粋)

Day 2 田んぼメディテーション

真っ青な空に太陽が輝いて、稲穂がその光を浴びてキラキラ光り、鳥たちの声を聞きながら風を感じ、心が丸ごと洗われるような気がした。

そのような中で自分の感情と向き合うことができ、素晴らしい朝を過ごすことができたと感じた。

Day 2 バリ文化セッション

バリ人の家の訪問では、観光では学ぶことの出来ない現地の方の生活を直接見て感じる事ができ忘れられない時間となった。エバさん、エバさんの御家族の方がとても優しく笑顔で迎え入れて下さり現地の人の笑顔を無くさないよう私たちができることを行わないといけないと強く感じた。

Day 4 ウブド散策

ウブドの散策ではバリの街並みをゆっくりと見ることができた。この時はスタディツアーというより旅行で来たか錯覚するほどただただ楽しかった。現地の通貨で支払いするのは難しかったけど店員さんが助けてくれて、優しさを感じた。

Day 5 ビーチウォーク

様々な学びの後で心が変わった自分が初めて見る海であり、海の綺麗さが身にしました。しかし、そんな綺麗な海には、ビニール袋などのプラスチックが浮かんでいて、プラスチック問題を目の当たりにした。今回のビーチウォークで海が私たちに訴えていると感じ、この海をずっと守りたいと思った。

Day 6

ナチュラルスキんケアワークショップ

ナチュラルスキんケアワークショップでは、新しい自分に合うことができた。本当の意味でのナチュラルさ、自然との繋がり、私たちの消費する責任を学び、一つの選択が与える地球や自身への影響を感じた。

Day 7 ジャティルウィ観光

バリの調和の考え方を表す世界遺産の真ん中で一人の時間を持つことができ、スタディツアーの総括や、ともさんがおっしゃっていた、「日本に帰ってからも忘れたくない1割のこと」について考えを巡らすことができたから。

8

4. 印象に残った言葉や場面

ライフストーリーを話して下さった方々は、全話広く大きな愛を持った方で、自分はあらゆる人、物に愛を向けることができるのか、そもそも大切な人へ愛をしっかりと向け、伝えているかを考えるきっかけとなり、参加メンバーとも「愛と依存」について沢山話したので、印象に残ったのは「愛」。

「私たちの世代が解決できなくてごめんなさい」という言葉。

今まで、人生の先輩方から謝られることがなかったので驚いた。大きな活動をして愛を注ぎ込んでいる方が悔やんでいることを知り、問題に気がついている人が早く取り組まなければ、新しい世代へと問題を引き継がなければならなくなってしまうと思った。

グリーンスクールでは子どもたちがお金のことも学んでいると知り、理想を追い求めるだけではなく何かを実現するためにはお金がかかるということを感じることができる素晴らしい方針だと思い、記憶に残っている。

ともさんがおっしゃっていた「リジェネラティブなBeDoHave」の話。リジェネラティブの概念を初めて知り、とても素晴らしい考え方でこれから特に必要な概念だと思い、新たな発見になった。また、「BeDoHave」は、私のこれからの生き方の支柱となる考え方になり、それだけ強く胸に刻まれている。

千夏さんの今思うと母親に認めてもらいたかったからなのかもとという言葉。自分が今実際に悩んでいたことであったため、自分だけではないということに初めて気づけた喜びと、これは悪いことではないと初めて理解することができた喜びから涙が止まらなかったから。

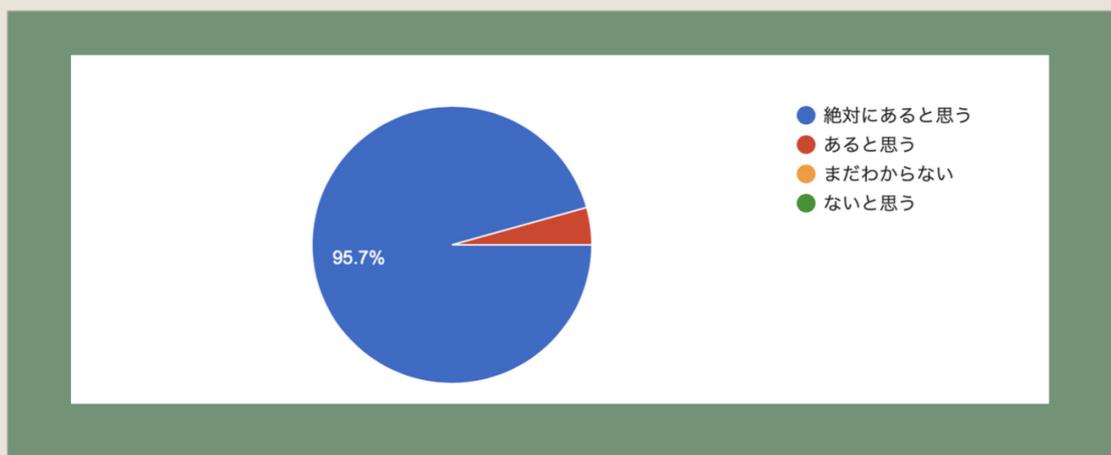
イプロピンとI love youを言い合うことができたことが一番印象に残っている。目の奥から伝わってくるものがあり、あれはイプロピンから直接言われないと分からないものがあった。すごく特別な体験をさせていただいた。

9

6. 社会課題・環境課題解決のために自らができること

「社会課題や環境問題解決のために、自分にできることはあると思いますか？」との質問に、

95.7%の学生さんから「絶対にあると思う」と回答いただけました



11

7. 願う世界と次のキーメッセージ（発表した内容1）

愛の循環の 一部となる。

キーメッセージは、愛と調和と循環。
今直ぐに私ができることは、愛だと思
う。私に関わる人全てに愛を伝え、愛
の大切さを感じてもらいその誰かがま
た次に愛を伝えることを
大切にして循環と人と人の調和が
生まれることを願う。

私の願う世界は、誰もが青空の下で平
和に暮らせること。 今回の研修で、た
くさんの方からお話を聞いて私たちが
心を動かされたように、
次は私が日本に帰って家族や友達など
に自分たちができることを伝えたい。

不正義をみんなで摘発できる世界。
そのために、まずは小さなことだが
、自分の出来ることとできないこと
を認め、どのようなアプローチの仕
方が1番この不均衡な世界をできる
かを調べるだけでなく、自分の目で
見て、自分の耳で被害者・加害者双
方の意見を聞きにいきたい。

全ての生きているもののWell-
Beingを実現すること。
まずは動物から。動物にとって本
当に幸せな環境とは何か
真剣に考える。また、経済発展と
Well-Beingが同時に進められる
方法を研究する。

平和で愛の溢れる世界。人々の持つ様
々な考えを後世に伝えることや他者へ
愛を与え続けることをしたい。
今ある問題を解決して、謝らずに地球
を返せるように一つの選択から
変えていきたい。

12

7. 願う世界と次のキーメッセージ（発表した内容2）

複雑な要素が入り組み中で、
相互に循環し合う世界。
それに少しでも近づぐために次世
代に残したいのは、
「循環」「持続」「教育」「愛」
というワード。

大人、子供も関係なく 教育を行うことが 大切。

私は、不必要な帝王切開の話を受
けて、人の都合について考えるよ
うになった。自分の都合に合わせて
もらうのではなく、皆と一緒に
幸せになれる方法を見つけていけ
る世界になっていきたいと思う。

誰でも居場所があり、ありのままの
自分が求める幸せを追える
世界を望む。

そのためには知らないことを食わず嫌
いしないこと、既に活動を起こしてい
る人々と接触することで自分の幸せに
近づぐ努力をすること。

今よりも多くの人が自然に目を向
けられる世界になると良い。日本
社会に住む上で、どう頑張っても
自然破壊に手を加えてしまう部分
があると思う。しかしどの行動が
どの結果を生み出しているのかを
多くの人に共有することで一人一
人が環境に与える影響が少なくな
るのではないかと思う。

全ての生物が幸せでいられる世界
。愛を持って、人や自然と接する
。忙しさや周りの目など、でき
ない理由を探さずに、やりたいと
思ったこと、好きなことをやる。
院への進学も親の就職への期待か
ら話せずにいたが、話して真剣に
考えたい。

13

7. 願う世界と次のキーメッセージ（発表した内容3）

地球上の全ての生物にとってWell-Beingな世界になることを願っている。

1日の35,000回の選択のうち、自分ができ得る環境に優しい選択や、次世代の人たちのためになる選択の一つでも多くとることをしたい。

「循環」を意識した世界になってほしい。
研修で、ガンジーの「あなたがこの世で見たいと願う変化に、あなた自身がなりなさい」という言葉が紹介されたが、まずは自分が循環を意識して生活したい。自然に還る商品を探したり、ペットボトルやビニール袋をできるだけ使わないようにしたり、量り売りのシャンプー・洗剤を購入したり、日々の生活の中で始められることは沢山あると思う。

環境問題を一時的に抑えるものではなく、社会発展と環境破壊を止めることが同時に行われ、自然と人が平等に共存できる世界が大切ということに気づくことができたため、今までの私のようにそのような社会を目指せるということを知らない人たちにまずは「知ってもらう」ことが大切だと感じた。私が今回の体験を通して痛感したことのひとつとして、そのような実情や世界を知らなかったということに恐怖を感じたため、他の多くの人にもこのような事実を知ってもらいたいと思った。

私が願う世界は人々が笑顔で、幸せな状況にいられる日々に感謝をすることのできる余裕のある世界。自分が笑顔でいると周囲を笑顔にすることができる。このようにこの幸せは伝染することを多くの人が実感し、笑顔の輪を広げていくことが自分ができることなのではないかと感じている。

地球を守るために学び続けること、それを多くの人と共有できること
↓
未来の希望である子どもたちにそれを教える人になりたい

一人一人が貧困や気候変動などの社会問題を自分事として捉える世界。
そのためにはまず世界でどのようなことが起きているのかを知るアクションを起こす必要があると思う。

14

7. 願う世界と次のキーメッセージ（発表した内容4）

四季折々の豊かな自然を感じられる社会（日本）を創造すること。

パリに来て、日本に想いを馳せる時間が増えたため。

常日頃から環境について考えながら行動をすることで少しでもわたしたちの住む地球を守ることができると思った。

未来の子どもたちが、「幸せ」を感じられる世界。「つづく幸せのために」

環境問題（海洋プラスチックの問題と対策と生物多様性の変化）について、ゼミで調査し、ビーチクリーンや引き続き、プラスチック製品の購入を避けること。

木の成長した先は実は空ではなく土かもしれないということ

命の循環。
土壌がしっかり構えていないとこれからの未来の芽が育たない。

人が住んでいる環境に感謝し地球や自然に対して恩返しをする世界を願う。 買い物をする時原材料を調べる。家族に今回学んだことを共有する。活動を行なっている企業などに就職したり、ボランティア活動を行う。

15

8. 研修前後での変化について 1

環境、命、動物に対してもっと愛を持った人が増えるようにしたいと思うようになった。

自分が幸せと思える日々を送りたいと考えていたが、今は自分だけではなく世界にいる全ての生き物が生きやすく幸せと思える世界に、生きたいと思った。人だけではなく、人が住ませて貰っているこの環境を壊さず感謝を感じながら生きる世界になれば人と自然と神の調和がたもたれステキな世界になるとおもっている。

私は、途上国の子どもたちが教育を受けられなかったり、働かされたりする姿を見てきてどうすることもできない自分に情けなさを感じていた。しかし、このスタディツアーでたくさんの方からお話を聞いて、未来の社会に立ち向かえるような子どもたちを育てるのが私たちができるとなのだと思ふことができた。

将来の夢として、世界の不均衡を是正する、と言っても問題が多すぎるため、それを全て解決することはできない。自分ができることはせめてその問題の一部の、小さなことだけだろうと思っていた。しかし、夢を大きく持つていいこと、自分が生きている間に完全なる解決はできないけれど、全ての問題にアプローチすることはできるのだと思うことができた。

自分の未来は決められたルールの上で結局歩むだけだと思っていたけれど、自分がやりたいことをまずは自分に教えてあげて、好きなことをやればいいと分かったし、将来の自分が少しずつ明確に見えてきた。

現代社会に飲み込まれずに対抗して生きていくべきだと思つた。ルールに従って生きていくことは楽だが、本当に地球や他国に住む人々、自分のためになっているかを立ち止まって考える勇気を持つてようになりたい。

17

8. 研修前後での変化について 2

持続可能な社会を実現するため・今ある社会を支えるために、長期的に物事を見る目をもった公務員になりたいという未来像は研修を受ける前後で変わりは無いが、研修を通じて、さらに明日香さんからの後押しのおかげで、そのありがたい姿・目標というものがさらに強固なものになった。

どちらもまだ未定であるが、今回学んだような素敵な仕事があることを実感した。

研修を通して、循環について考えるようになった。簡単なことではないが、地球にやさしい全てのものが循環する世界で生きていきたいと思った。

私はNGO職員として現地で人々と向き合って国際協力をしたかった。しかし研修日が経つにつれてその目標が自分に合わないと感じるようになった。それは、このSDGsや命の循環に人間も組み込まれているべきという価値観を日本でも理解してもらいたいと強く思ったからだと思う。今は、商社に行きたい。あれだけ日本から出たかった私が、日本の大人を幸せにしたいと考えているのは大きな変化ではないだろうか。

都会に住みながら環境に気を遣って生活できる人になりたいという根本的なところは変わっていないが、よりストイックに環境を守りたいという思いが強くなった。実際に現地に行つて綺麗な自然やそんな中にも落ちていたプラスチックゴミを見たことが大きいと思う。

研修を受ける前も社会課題や地球規模課題の解決に携わりたいたいと思つていたが、年収や環境が優先で、そうでない会社でも仕方ないと思つていた。研修後は社会課題や地球規模課題の解決に携わることは絶対条件で、そうでない会社では自分がやりがいを感ぜられず続けられないと感じるようになった。

18

8. 研修前後での変化について 3

研修前は、貧困な状態にある子どもたちに携わり、その子どもたちの力になりたいと考えていた。その思いは変わらないが、特に気候変動など環境に関する視点からのESDにも関わる仕事をしたいと考えようになった。

研修を受ける前は、英語を必至に勉強し、特に会話を身に付けよう頑張っていた。しかし、研修中に自分はなぜ英語を勉強しているのだろうか？と問いを持ち、人々と出会いたい、繋がりたいから自分は英語を勉強しているのだと感じた。また、大学卒業後は英語の学習や社会情勢を知るために留学しようと思っていたが、海外に行く＝留学という選択肢だけではないことを改めて考え、卒業後はどうしようかと日々模索している。この「模索」ができる状況下に自分がいることにも幸せを感じている。

「愛の循環」をととても意識するようになった。なにに対しても愛を持って接するというのは簡単なことではないと思うが、バリ島の自然、人々、すべてから無償の愛を感じ、自分も愛を受け取るだけでなく与えられる存在になりたいと思ったし、全員がそう思える世界ができれば素敵だと感じた。具体的に将来の夢はまだ思いついていないが、自分が熟中できる、本気で取り組めるものに出会えるよう、これから様々なことに挑戦したいと思うようになった。

研修を受ける前は、ESDに興味があり、漠然と教職を勉強していた。研修を受けるなかで、人は、一生学び続けることができるのだから、より多くの子どもたちにその素晴らしさを教え、持続可能な地球を守るために教育に携わりたいという具体的な考えを持てるようになった。

自分が生きたい未来について、命の循環を体験した以上、これ以上命の循環を断つような生き方をしたくないと感じた。そのために私には何ができるか考え直すきっかけとなった。まだ答えは出ていない。

大きな変化はないが、みんなが暮らしやすいより良い世界を願う気持ちは強くなった。

19

8. 研修前後での変化について 4

より日本の教育に焦点を当てて、行動したいと思うようになった。海外に関わらず、日本でも、同様に苦しんでいる子供達の姿を知ることができた。世界を変えたいという思いは勿論あるが、実際、日本人の子供の生活すら安全が保証されていない社会だということを痛感したので、居場所のない、日本の子供たちを支えられるようなアクションを起こしたいと思った。

便利や見た目を重要視して選択するのではなく、環境について考えて選択していきたいと思った。

利益を追求する仕事ではなく、自分がしたいと思える仕事、人の役に立てていると実感が湧くような仕事につきたいと思うようになった。また、愛に溢れた女性たちに出会えたことで、私も、愛を常に与えられるような女性になりたいと強く思うようになった。

バリ島の街を歩いていると知らない人々もみんな笑顔で手を振ったり挨拶をしてくれた。とても幸せに感じ、愛の溢れた人になりたいそしてそんな社会で暮らしたいと思うようになった。

小さい頃から海外で生活したいと思っていた。周りの大人に否定され少し時期を延期しようか迷っていたが、研修を受けたことで自分が海外で生活したいという気持ちを諦められないことに気付いた。私は自然に囲まれたところで、ロビンのようにハーブなどを育てそれを使って料理をしたりお茶をし、子どもたちに自然の大切さを教えたい。また、困っている女性を助ける活動をしたい。

20

むすびにかえて

9月8日から9月16日までの9日間、対面での海外スタディツアーが新型コロナウイルスの蔓延後では初めて、2年ぶりにインドネシア・バリ島にて開催されました。参加者は全員コロナ後から大学生活を送っている1年生から3年生で、多くのもの、人との関わりから分断されてきた世代の学生たちです。当初は人数制限のために選抜を行う予定でしたが、一人一人がその熱意でツアー参加のための扉を叩き、その思いに先生方が応えてくださったことで、選抜は行わずに23名での開催が決まりました。

Manaでの1週間、響き渡る虫や鳥たちの声が私たちを包み込み、それらにほぐされながら、私たちはこれまで分断されていたものとの再会を果たしていきました。オーガニックの食事、愛に溢れた人たちも、生活する環境、関わるもの全てが地球に、そして自分にも優しく、こんな生き方があったのかとこれまで形成してきた価値観や「あたりまえ」が崩れていくのを感じました。これまでは、地球に、自分に優しい生き方は、「難しいもの」「頑張らなければいけないもの」という先入観や印象がどこかあったのではないかと思います。ですが、自分が全の一部であること、自然の循環の中に身を置いていること、周りの全てに生かされていることを五感と心で感じ、私たちははっきりとそれらが心地よいものであることを感覚的に理解していきました。バリでのこうした学びは、大学の講義のような頭で考え、理解し、記憶していくものではなく、頭で考えるよりも先に身体の変化や情動があり、後から理論が感覚に追いついてくるようなものでした。ラップアップ（振り返り）の時間では日本についての発言も多くあり、内側からでは気づかない日本の問題もよく見えていきました。

バリでの生活、学びは「豊かさとは何か」を私たち一人一人の中に常に、そして強く問いかけてくるものでありました。このような経験は、大学生活ではおよそ経験しない貴重な、そして今後の私たちの生活や人生に息づく体験であったと思います。一人一人の帰国後の無理なく自然に起こった変容も、それを表しているのではないのでしょうか。私たちの変容が、それぞれの歩む先でSDGsのその先、リジェネラティブな未来をつくり出す一歩となることを願い、結びといたします。

最後になりますが、私たちの学びのためにツアーを全面的にサポートし、お骨折りくださった永田佳之先生、奥切恵先生、Earth Companyの濱川明日香さん、濱川知宏さん、藤本亜子さん、ゲストスピーカーの皆さま、バリでのツアー・生活を快適なものにくださったNurwantiniさん、Manaのスタッフの皆さま、そして聖心女子大学教職員の皆さま、ツアーへの参加を後押しし支えてくれた家族の皆さまに深く

感謝申し上げます。ありがとうございました。

2022 年度聖心女子大学
インドネシア・バリ島スタディツアー参加学生一同



写真：マナにて（2022.09.15）

2022 年度 SDGs スタディツアー報告書
「SDGs のその先を思い描くバリ島スタディツアー」

2022 年 12 月発行 聖心女子大学現代教養学部教育学科
「発展途上国における教育問題 1」

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4 - 3 - 1 永田佳之研究室
編集：2022 年度 SDGs スタディツアー参加学生一同

